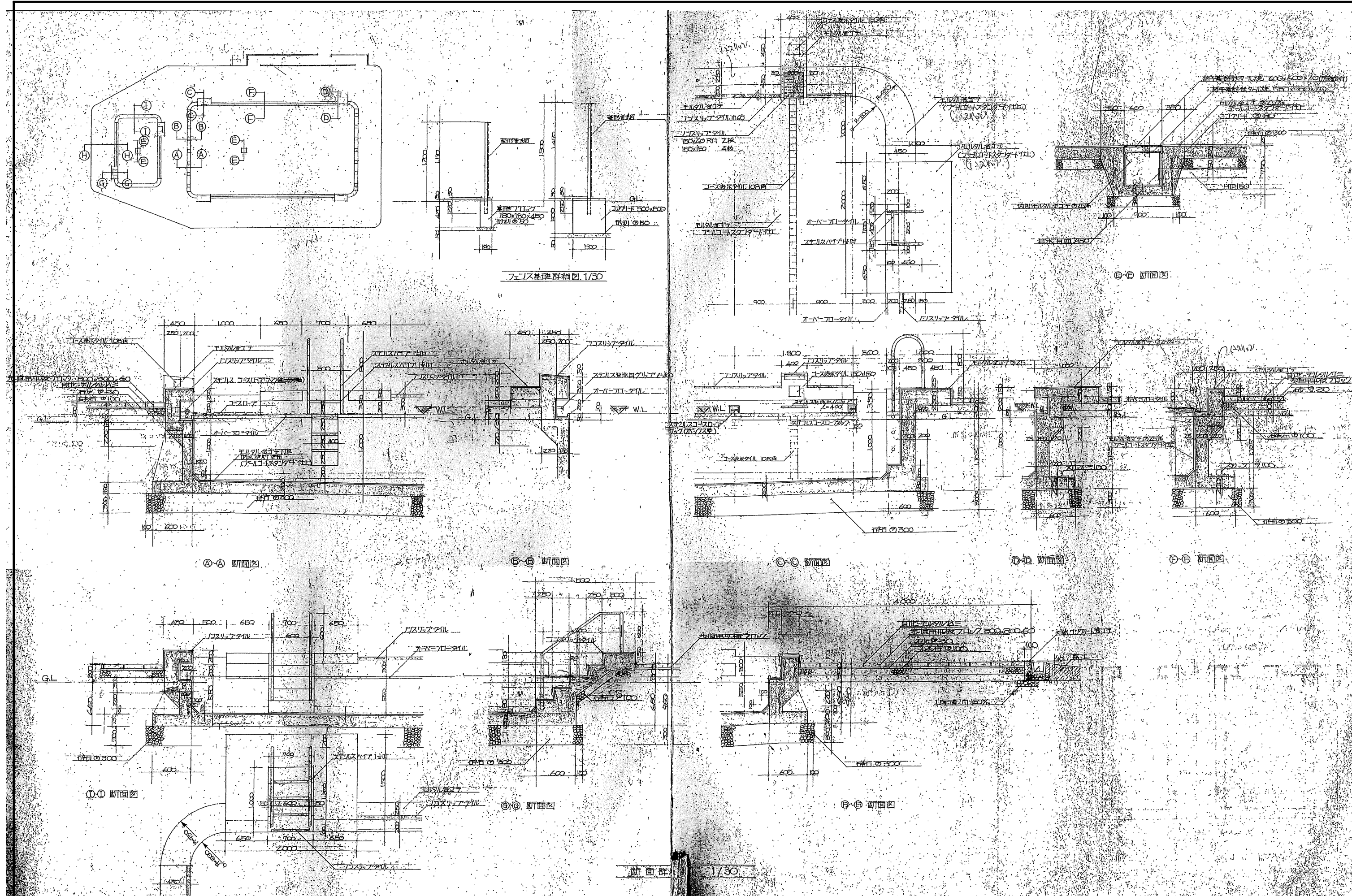
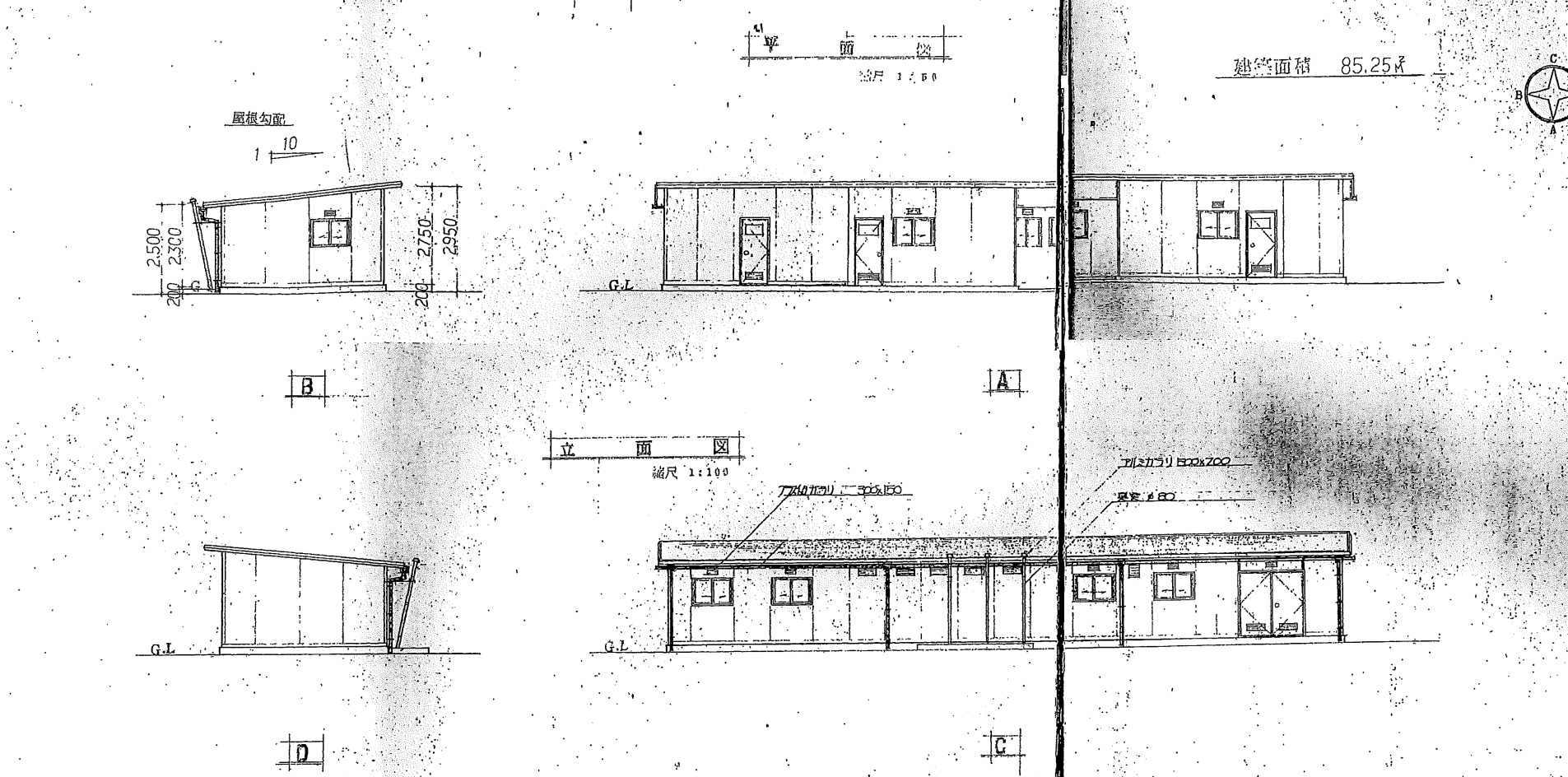
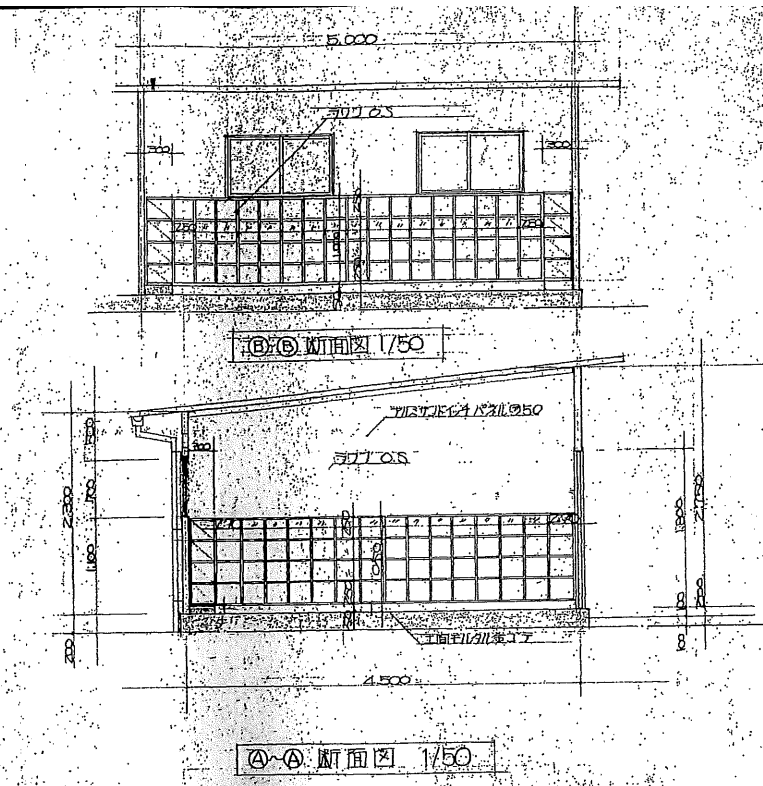
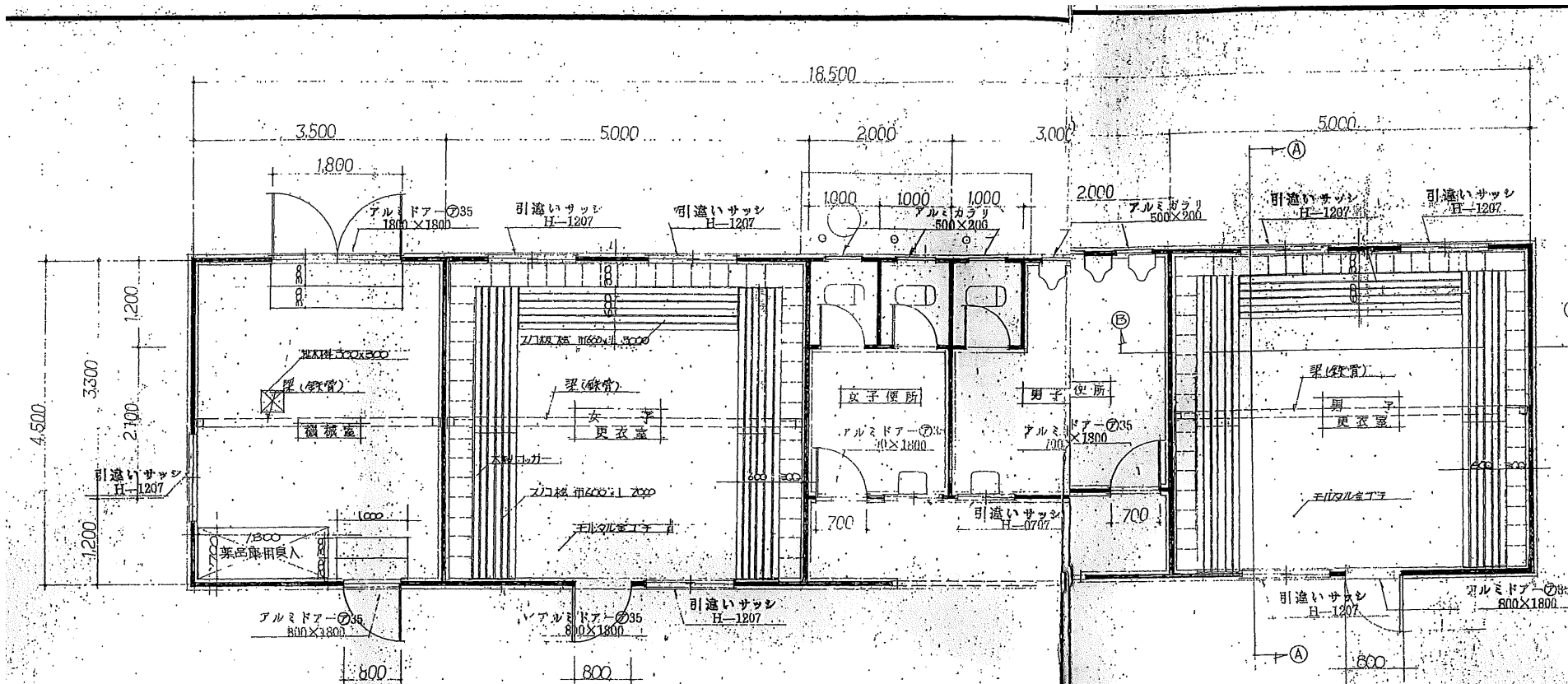
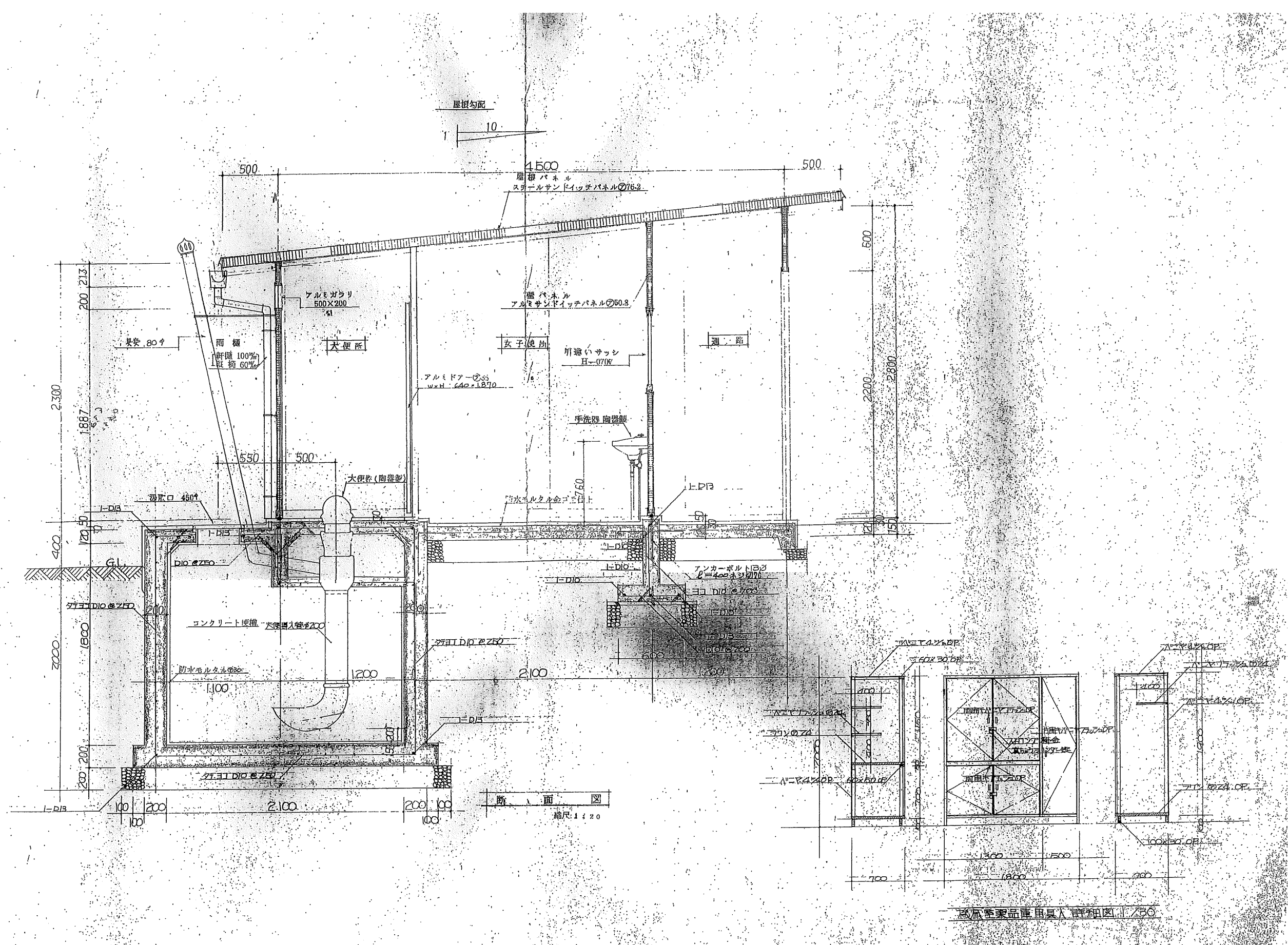




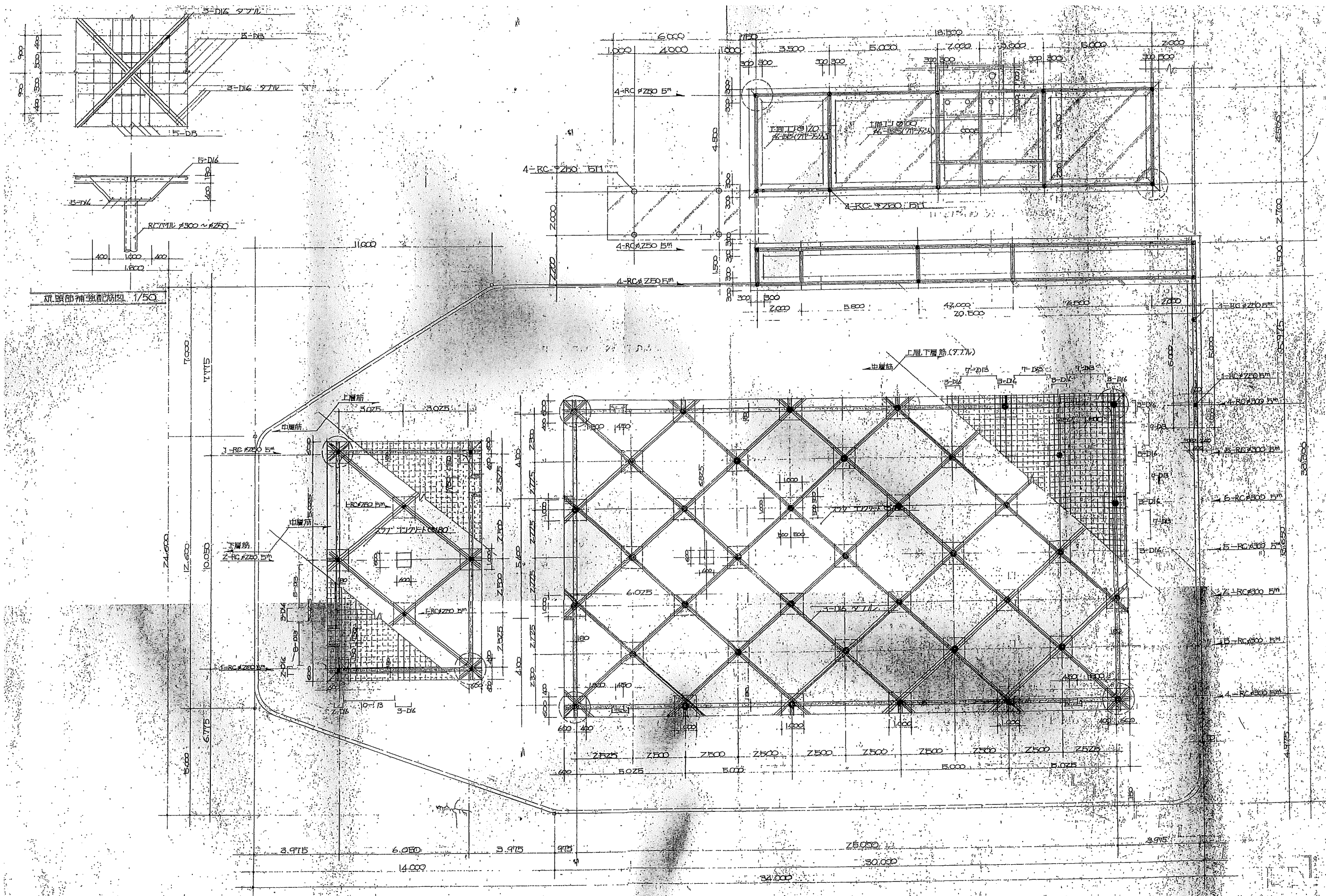
株式会社 中部都市建築設計事務所		1級建築士登録番号 143379 伊藤 公		工事名	設計番号
TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115		日付		井田川小学校校舎増築等工事	
2020.2.12		1級建築士登録番号 317976 太田 武志		図面名	図面番号
				既設解体建物(参考図) - 2	A-65
				縮尺 A3:1/200 A3:1/200	



仕様書		
屋根パネル	スチールサンドイッチパネルφ70.2 [表面材...スチール板 0.6t フラット 焼付塗装] [芯材...ペーパーハニカムコア]	
壁パネル	アルミサンドイッチパネルφ50.8 [表面材...アルミ板 0.6t ユニボス焼付塗装] [下地材...パーティクルボード φ40] [芯材...ペーパーハニカムコア]	
アルミドア (シングルロック付)	両開きドア W×H 1,800×1,800 1ヶ所 (引違い付) 片開きドア " 800×1,800 3ヶ所 (引違い付, 電付(要別注)) " 700×1,800 2ヶ所 (引違い付) " 600×1,800 3ヶ所	
サッシ	引違いサッシ	H-1207 7ヶ所 (複板ガラスの4ヶ所) H-9707 3ヶ所 (複板ガラスの1ヶ所)
ガラス	アルミガラリ	500×200 4ヶ所 プラスチックガラリ 800×150 12ヶ所
張	張	100×100×4.5
雨樋	軒樋 100% 縦樋 60% (取付金具別注) 大便器 陶器製 C-105 (フットレスト付) 小便器 陶器製 U-29 手洗器 陶器製 L-5D	
臭気防止用パイプ	φ80	3組
大便器	φ200	3組
小便器	φ80	3組
床	モルタル金タテ	



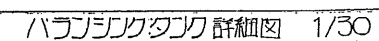
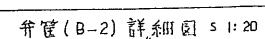
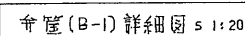
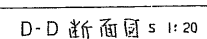
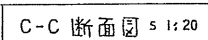
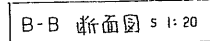
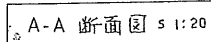
株式会社 中部都市建築設計事務所		1級建築士登録番号 143379 伊藤 公		工事名	設計番号
TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115		日付		井田川小学校校舎増築等工事	
2020.2.12		1級建築士登録番号 317976 太田 武志		図面名	図面番号
				既設解体建物(参考図) - 5	A3:1/100 A3:1/200 A-68



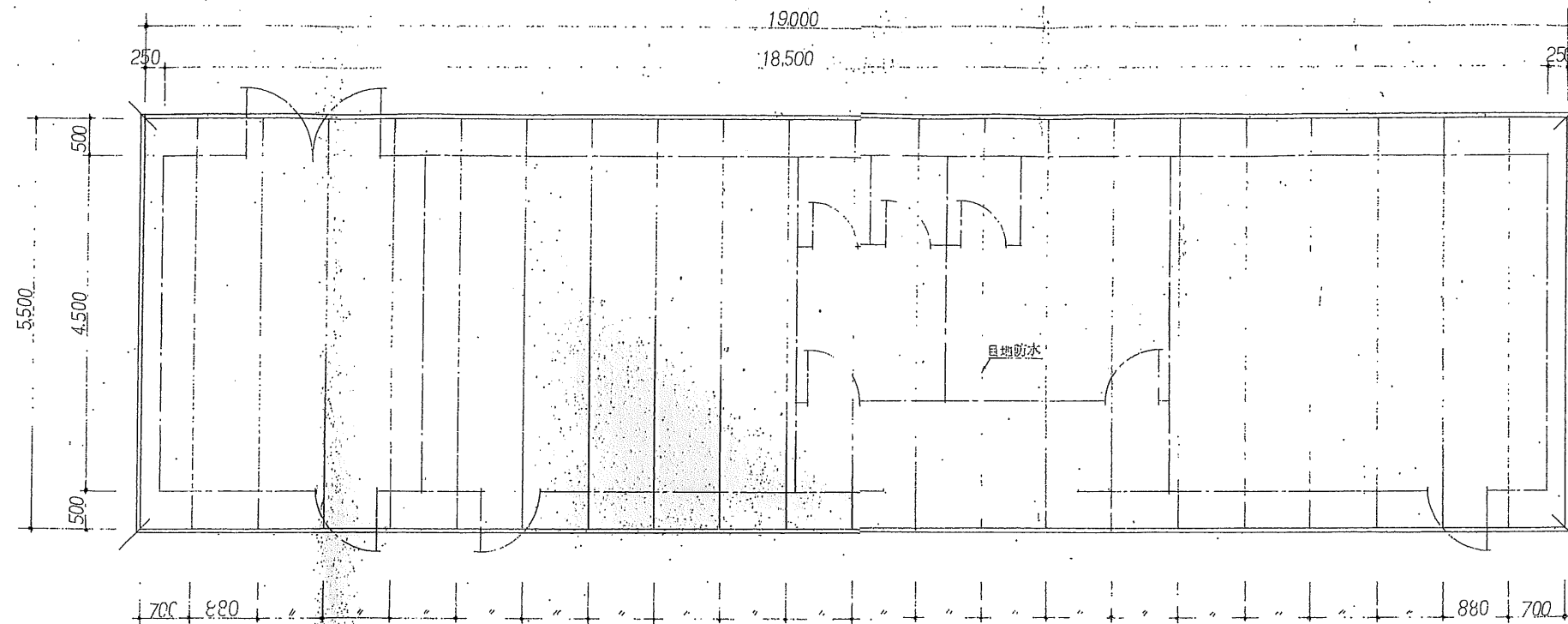
試験杭の位置を示す 6M:

星 礎 伏 図 1/100

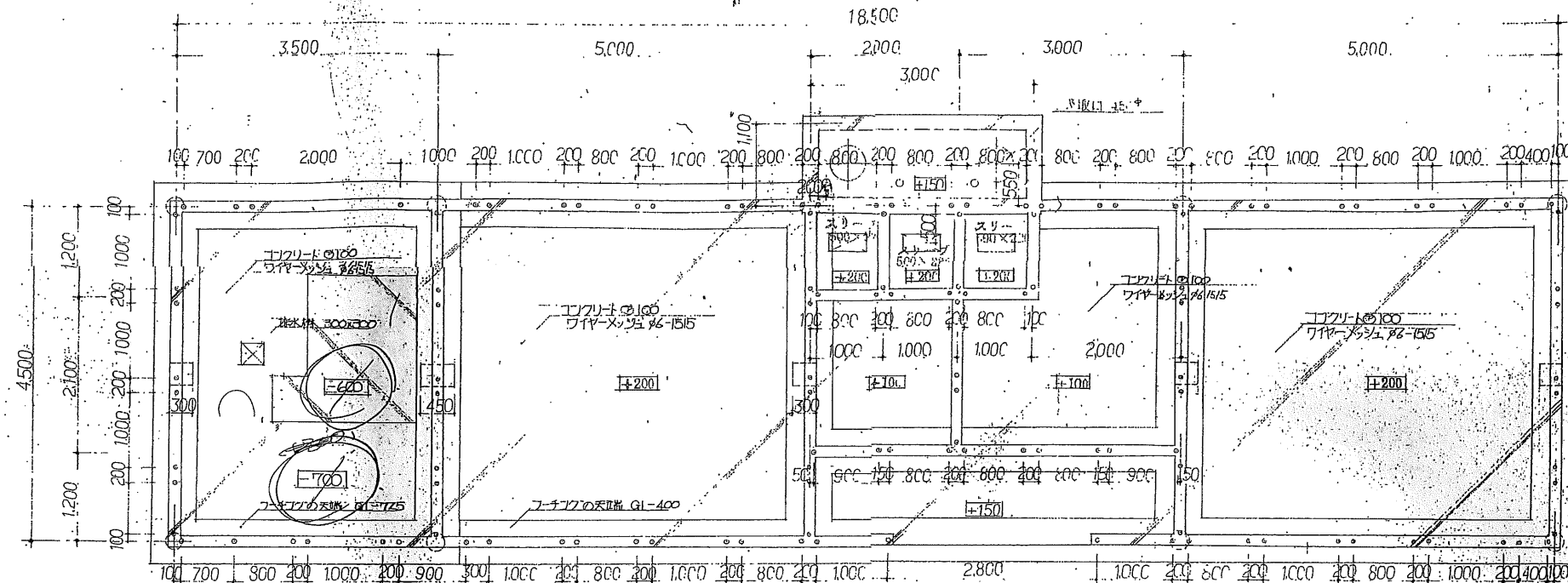
株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工 事 名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
日 付 2020.2.12				1級建築士登録番号 317976 太田 武志	図 面 名 既設解体建物 (参考図) - 6		縮 尺 A3:1/100 A3:1/200 A-69



株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工 事 名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
日 付 2020.2.12				1級建築士登録番号 317976 太田 武志	図 面 名 既設解体建物(参考図) - 7		図面番号 A3:1/100 A3:1/200 A-70



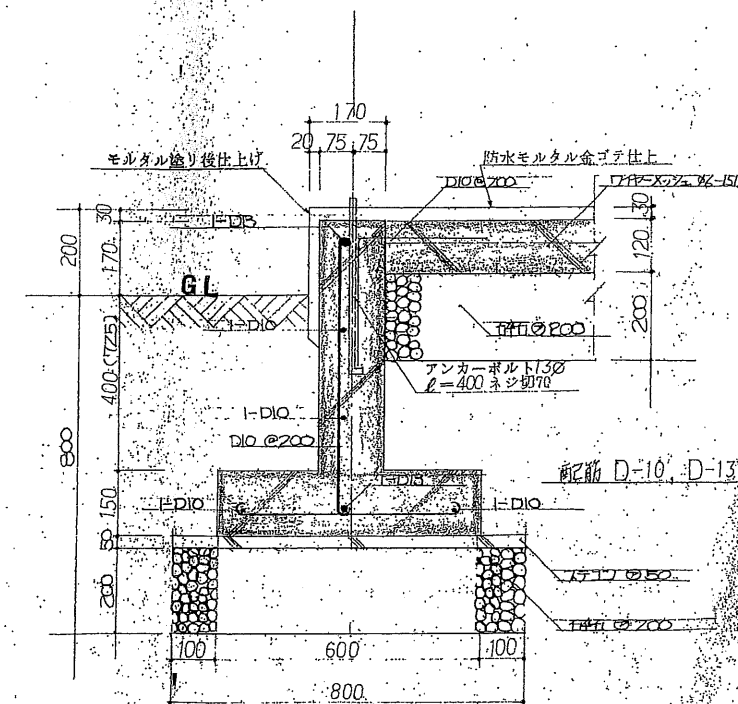
基礎伏図
縮尺 1:50



アンカーボルト割付図
基礎伏図
縮尺 1:50

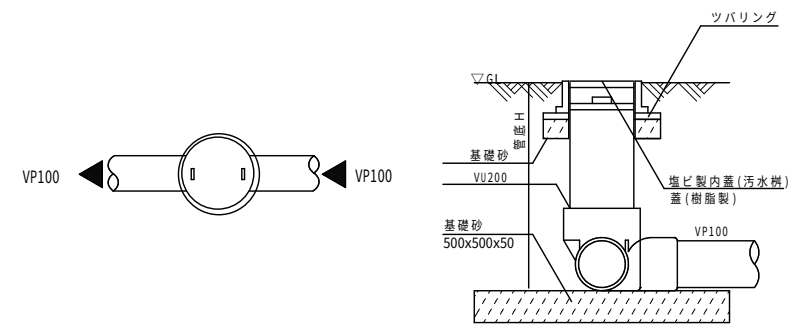
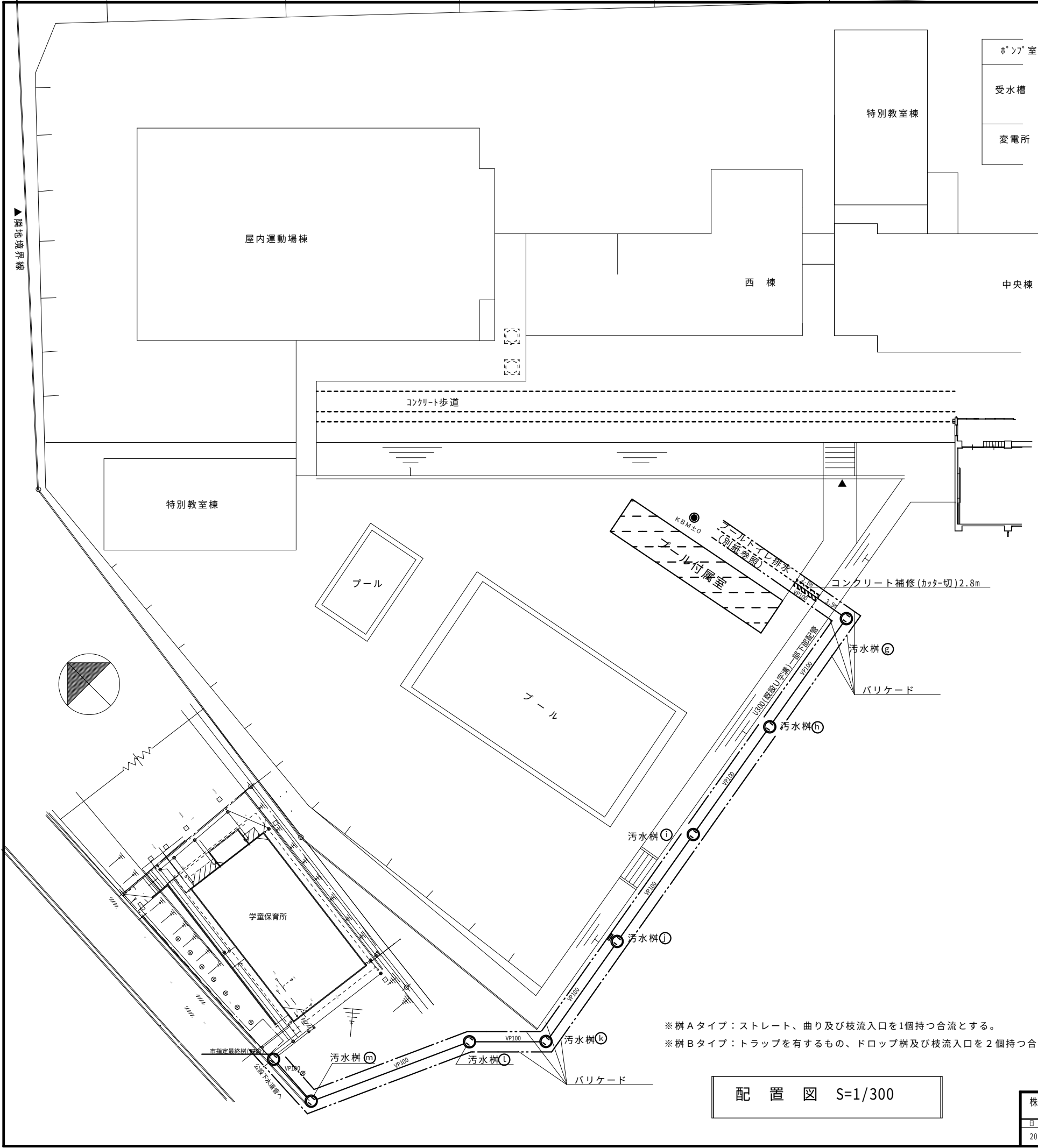
・スレリ面は仕上げとする

アンカーボルトφ1/2×ℓ=400
ネジ切部70mm/3Mフック付
本数 127 本
ナット・座金 254 個



基礎断面詳細図
縮尺 1:10

株式会社 中部都市建築設計事務所		1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工事名	設計番号
TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115			井田川小学校校舎増築等工事	
日付	2020.2.12		図面名	縮尺
			1級建築士登録番号 317976 太田 武志	A3:1/100 A3:1/200
			既設解体建物(参考図) - 8	A-71



小口径樹(平断面図)

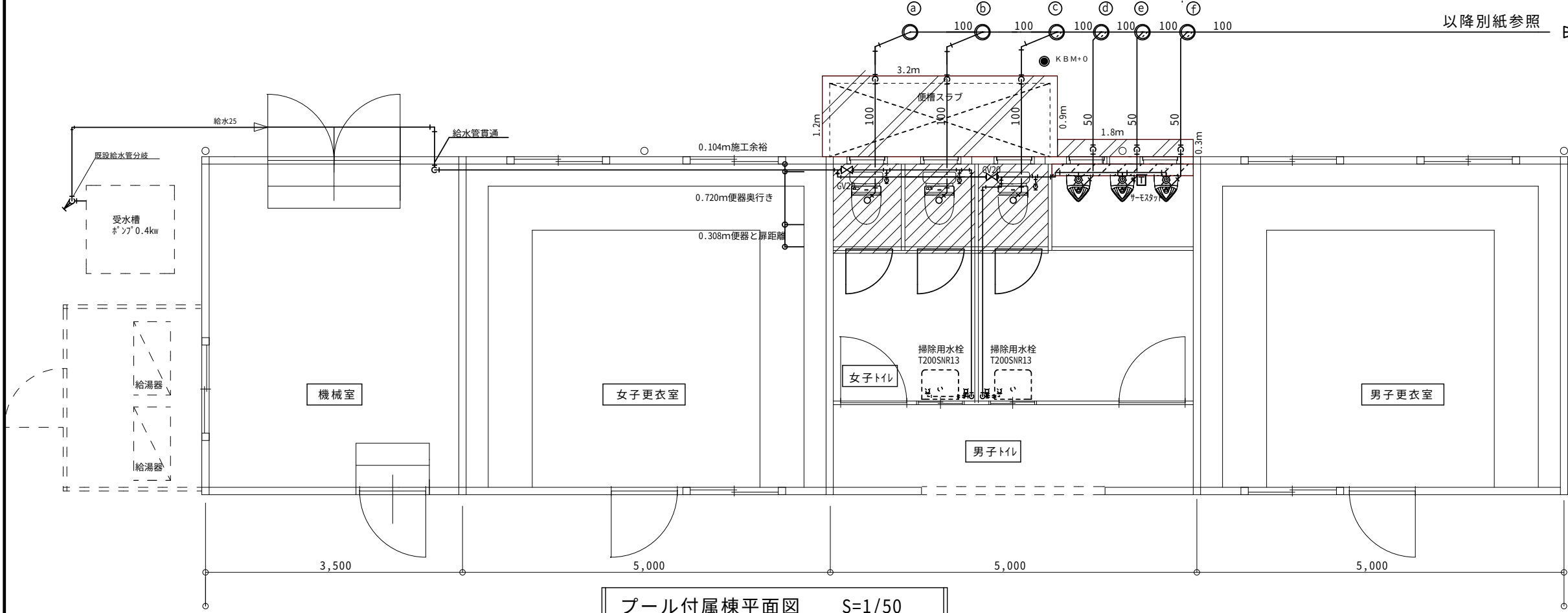
■汚水樹リスト ※ 設計管底は現況KBM(M-05参照)からの深さ (参考深さとする)

記 号	樹サイズ	形式 (防臭型)	計画管底	現状G L	設計G L	樹タイプ	区間距離	勾配‰
㊤	100-200-400	塩ビ小口径 (樹脂蓋)	-400	0	-400	A	-	20.0
㊦	100-200-500	〃	-450	0	-450	B	1.0	〃
㊢	〃	〃	-475	0	-475	〃	1.0	〃
㊣	〃	〃	-500	0	-500	〃	1.0	〃
㊥	100-200-600	〃	-525	0	-525	〃	1.0	〃
㊦	〃	〃	-550	0	-550	〃	1.0	〃
㊧	〃	〃	-830	-280	-550	A	13.0	〃
㊨	100-200-700	〃	-1110	-385	-620	〃	13.0	〃
㊩	100-200-900	〃	-1390	-490	-900	〃	13.0	〃
㊪	100-200-1100	〃	-1670	-595	-1075	〃	13.0	〃
㊫	100-200-1300	〃	-1950	-700	-1250	〃	12.0	〃
㊬	100-200-700	〃	-2130	-1450	-680	〃	7.5	〃
㊭	100-200-500	〃	-2410	-3320	-500	〃	18.5	〃
㊮	既設汚水樹	底部改修	-2530	-3330	-560	〃	6.5	〃

※ 樹 A タイプ：ストレート、曲り及び枝流入口を1個持つ合流とする。
※ 樹 B タイプ：トラップを有するもの、ドロップ樹及び枝流入口を2個持つ合流とする。

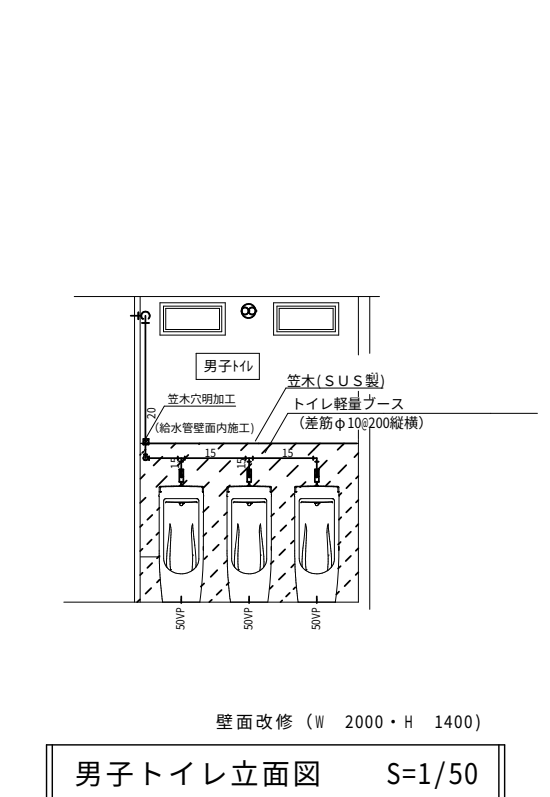
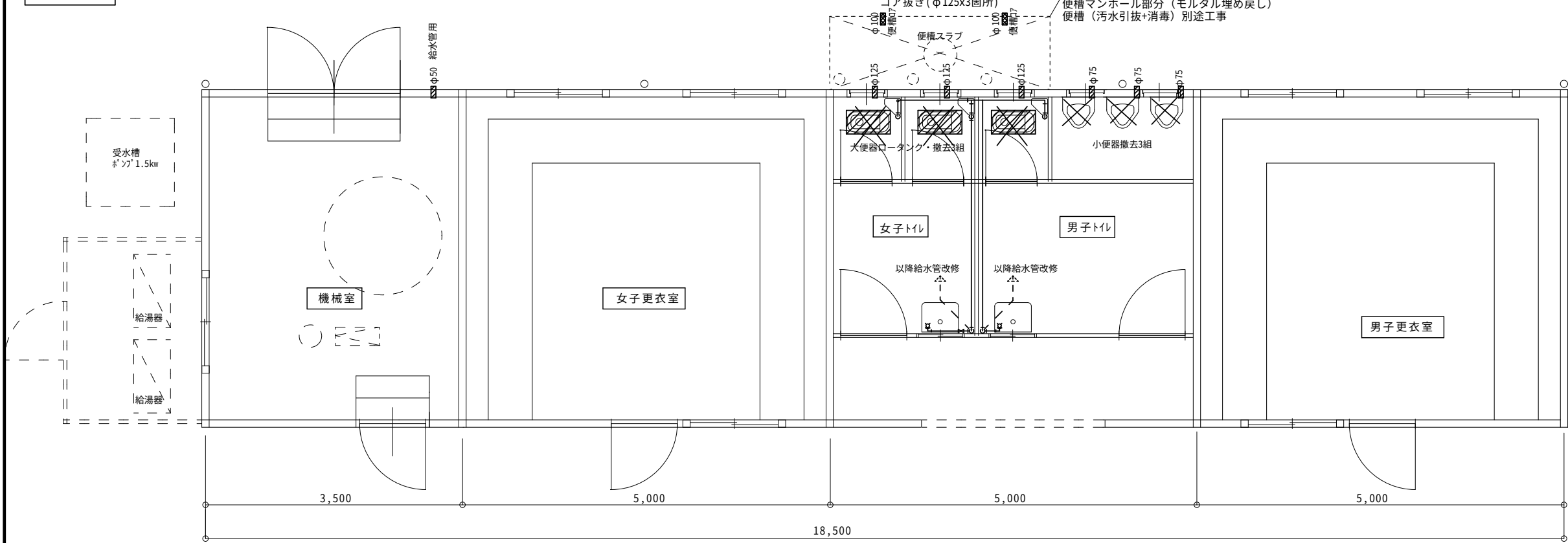
配 置 図 S=1/300

改修後



- ◆外部露出配管コンクリート保護内容
 - ・配管保護部分 (斜線)
 - ・便槽表皮部分 (コンクリート補修厚 T=150) 断面図参照
 - ・小便器排水露出部分 (コンクリート補修厚 T=150)
 - ・ワイヤメッシュ (100×100×4)
 - ・コンクリート補修厚 T=150+金鍍仕上げ
- ◆トイレ扉改修内容 (内開き→外開き・3組・色:協議)
 - ・扉改修 (7mm厚: 枠付)
 - 参考寸法 (W640・H1870・T40)
 - ・取り付け金物類 (蝶番2組・タルハコ x1組)
 - ・ドア表示錠 (トイレ用ロック内開: 既設流用)
- ◆トイレ床面改修内容 (洋便器ブース内)
 - ・床塗装部分 (斜線)
 - (アクリル系防滑つや消し塗料)
 - (クリンカラーAA スト0.15~0.4mm)
 - ・既設和風便器撤去 (カッタ切+モルタル補修)
 - (差筋 φ10@200縦横)
 - (モルタル金鍍仕上)
- ◆小便器壁改修
 - ・壁面改修部分 (斜線) (W 2000・H 1400(縦3枚割り))
 - ・トイレ軽量ブース (高圧メラミン化粧板 (パネル補強付))
 - (差筋 φ10@200縦横)
 - ・笠木 (SUS製 1.5tヘアライン仕上げ)

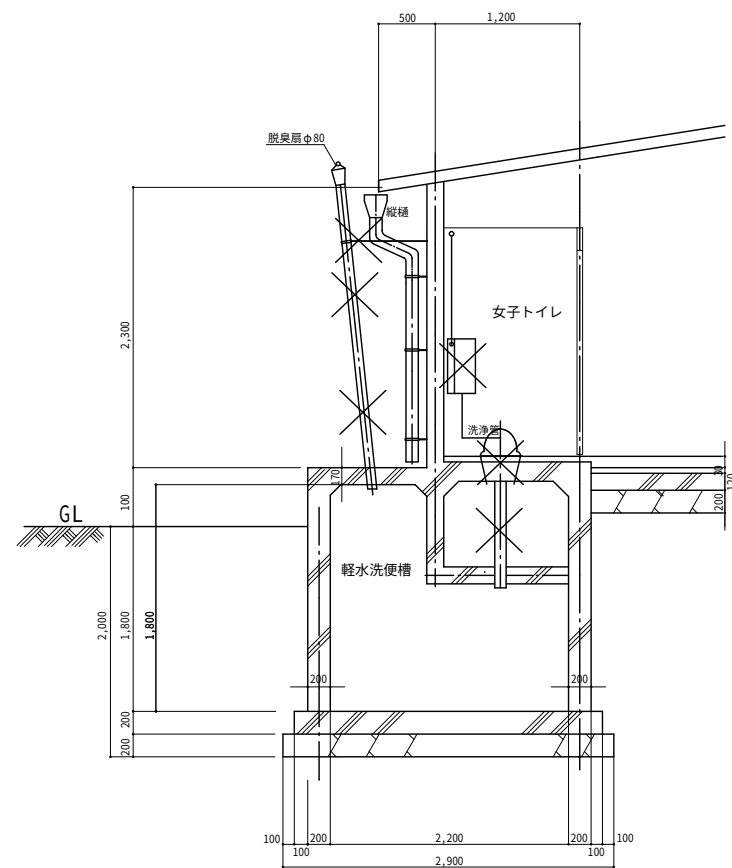
改修前



プール附属棟平面図 S=1/50

株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工 事 名		設 計 番 号
					井田川小学校校舎増築等工事		
日 付				1級建築士登録番号 317976 太田 武志	図 面 名	縮 尺	図 面 番 号
2020.2.12							
					既設解体建物 (参考図) - 10	A3:1/100 A3:1/200	A-73

改修前

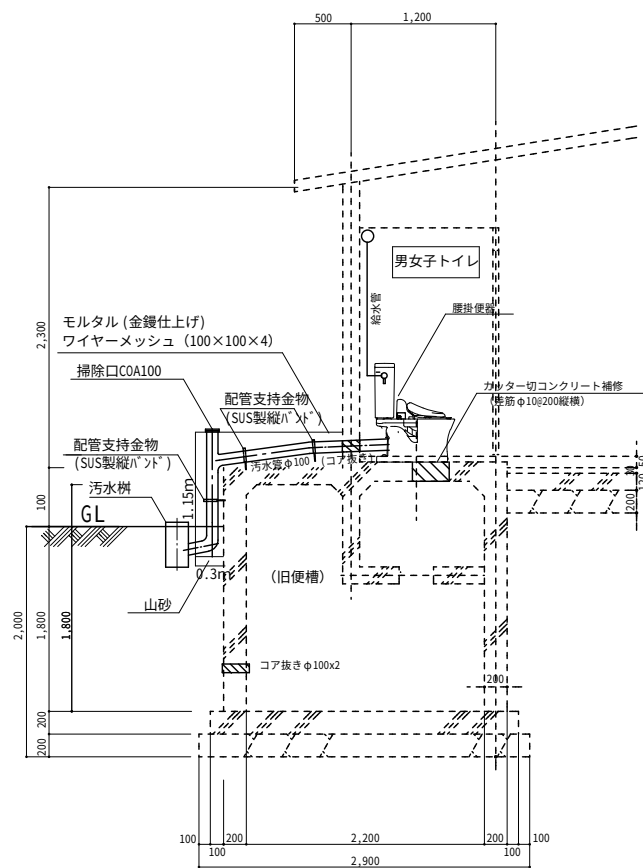


トイレ断面図 S=1/50

◆撤去衛生器具（男女共）

軽水栓大便器	3組
非水洗小便器	3組
紙巻器	3組
脱臭扇（排気筒）	3組

改修後



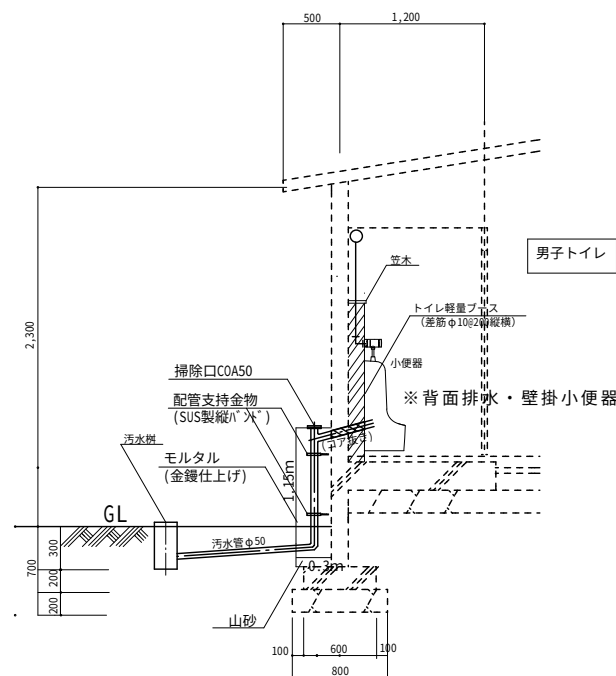
女子トイレ断面図 S=1/50

◆改修衛生器具

器具名称	TOTO型番	LIXIL型番
腰掛便器	CS230BP・SH230BA	BC-Z10PU・DT-Z150U・CF-11P
普通便座	TC291	CF-49AT
二連紙巻器	YH60N	CF-AA64

- ①旧便槽内部（埋め戻し：山砂）下部壁コア抜きφ100x2箇所
②旧便槽マンホール部分（モルタル埋め戻し）
③旧便槽（污水引抜+消毒）別途工事

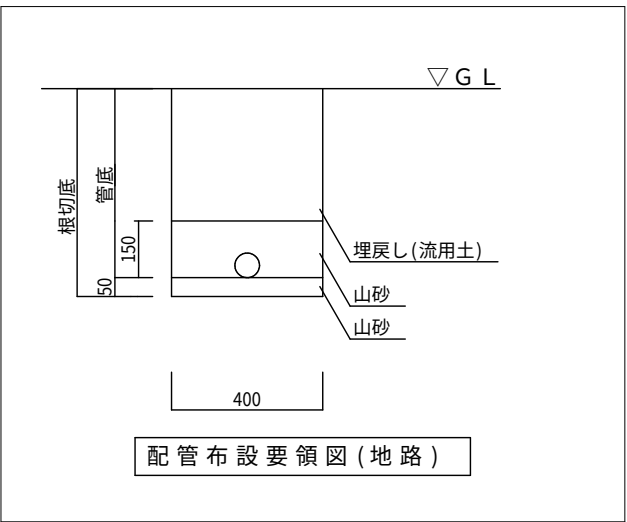
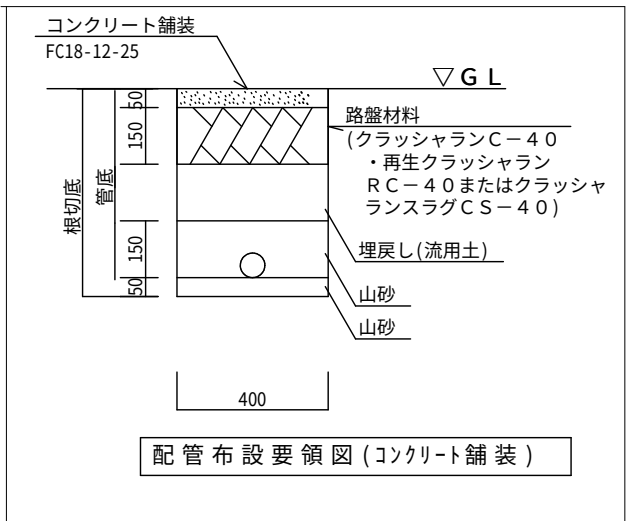
改修後



男子トイレ断面図 S=1/50

◆改修衛生器具

器具名称	TOTO型番	LIXIL型番
腰掛便器	CS230BP・SH230BA	BC-ZZ10PU・DT-Z150U
普通便座	TC291	CF-11P
二連紙巻器	YH60N	CF-AA64
壁掛小便器	UFH500・TG600PN	U-406RU・UF-3JT・UF-506BWP・SF-10E



構造関係共通事項（配筋標準図）				
1. 1 鉄筋の加工				
鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1. 1を標準とする。				
表1. 1 鉄筋の折曲げ内法直径				
折曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A SD295B、SD345		SD390
		D16 以下	D19 ～D38	D19 ～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				
(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。 2. 90° 未満の折曲げの内法直径は特記による。				
2. 1 異形鉄筋の末端部				
次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。 (1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部				
図2. 1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）				
(2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む） (3) 杭基礎のベース筋 (4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋				

3. 1 継手及び定着				
(a) 鉄筋の重ね継手 (1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。 (2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3. 1Iによる。				
表3. 1 鉄筋の重ね継手の長さ				
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm2)	L ₁ (フックなし)		L _{1b} (フックあり)
		L ₁	L ₂	L _{1b}
SD295A SD295B	18	45d	35d	35d
	21	40d	30d	30d
	24、27	35d	25d	25d
	30、33、36	35d	25d	25d
SD345	18	50d	35d	35d
	21	45d	30d	30d
	24、27	40d	30d	30d
	30、33、36	35d	25d	25d
SD390	21	50d	35d	35d
	24、27	45d	35d	35d
	30、33、36	40d	30d	30d
(注) 1. L ₁ 、L _{1b} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ 2. フックありの場合のL _{1b} は、図3. 1Iに示すようにフック部分 I を含まない。 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。				
図3. 1 フックありの場合の重ね継手の長さ				
(3) 鉄筋の重ね継手の長さとは、フックありなしにかかわらず4 0 d以上（軽量骨材を使用する場合は5 0 d以上）と表3. 1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。				
(4) 隣り合う継手の位置は、表3. 2Iによる。 ただし、壁の場合及びスラブ筋でD 1 6以下の場合は除く。				
表3. 2 隣り合う継手の位置				
重ね 継手	フックありの場合			
	フックなしの場合			
溶圧 接継 手	—			
機械式 継手	—			

表3. 3 鉄筋の定着の長さ										
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ						
		L ₁	L ₂	L _{1b}	L _{2b}	L _{1b}	L _{2b}			
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—	
	21	40d	30d			25d				
	24、27	35d	30d			25d	20d			
	30、33、36	35d	30d			25d	20d			
SD345	18	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—	
	21	45d	30d			25d				
	24、27	40d	35d			30d	25d			20d
	30、33、36	35d	30d			35d	30d			
SD390	21	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—	
	24、27	45d	40d			35d	30d			
	30、33、36	40d	35d			30d	25d			
(注) 1. L ₁ 、L _{1b} ：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。 2. L ₁ 、L _{1b} ：割裂破壊のおそれない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。 3. L ₂ ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く） なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。 4. L _{2b} ：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。 5. フックあり定着の場合は、図3. 2Iに示すようにフック部分 I を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。										

表3. 4 鉄筋の投影定着長さ			
鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L ₁	L ₂
		L ₁	L ₂
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24、27	15d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24、27	20d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24、27	20d	20d
	30、33、36	20d	15d
	30、33、36	20d	15d
(注) 1. L ₁ ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。） 2. L ₂ ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。） 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。			
(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3. 4Iによる。 なお、L ₁ は表3. 1Iに、L ₂ 及びL ₂ は表3. 3Iによる。			
図3. 4 溶接金網の継手及び定着			
(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3. 5Iによる。			
図3. 5 スパイラル筋の継手及び定着			

4. 1 最小かぶり厚さ				
(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4. 1Iによる。 ただし、柱及び梁の主筋にD 2 9以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。				
表4. 1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）				
土に接し ない部分	構造部分の種類		最小かぶり厚さ	
	スラブ、 耐力壁以外の壁	仕上げあり	20	
		仕上げなし	30	
		柱、梁、耐力壁	屋 内	30
			仕上げあり	30
			仕上げなし	30
屋 外	仕上げあり	30		
	仕上げなし	40		
	擁壁、耐圧スラブ		40	
土に接す る部分	柱、梁、スラブ、壁	40		
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60		
	煙突等高熱を受ける部分	60		
(注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。 2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上げ塗材、塗装等）のものを除く。 3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。 4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。 5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。				
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに1 0 mmを加えた数値を標準とする。 (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。 (d) 鉄筋相互のあきは図4. 1Iにより、次の値のうち最大のもの以上とする。 (1) 粗骨材の最大寸法の1. 25倍 (2) 2 5 mm (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）1. 5倍				
図4. 1 鉄筋相互のあき				
(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは（d）による。 (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは（c）による。				

株式会社 中部都市建築設計事務所		1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工事名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
TEL：059-226-0139 FAX：059-226-5115			図面名		縮尺
日付 2020. 2. 12			1級建築士登録番号 317976 太田 武志		図面番号 構造特記仕様書-1
					C-1

5.1基礎梁 (a)一般事項 (1)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。 (2)梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。 図5.1 梁筋の基礎梁内への定着 (b)独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。 図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1） (c)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。 ただし、耐圧スラブが付く場合は、（d）による。 図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2） (d)連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。 図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）	5.2基礎梁のあばら筋 (a)一般事項 (1)あばら筋の径及び間隔は、特記による。 (2)あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。 図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置 (b)腹筋及び幅止め筋は、7.2による。 ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。 (c)あばら筋の割付けは、7.2(c)による。 6.1柱 (a)一般事項 (1)継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。 (2)継手、定着及び余長は図6.1による。 ただし、柱頭定着長さLdを確保できない場合は、特記による。 図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長 (b)柱打ち増し部 (1)打増し部分に、壁、梁、スラブ筋等がとりつく場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。 (2)土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。 図6.2 柱打ち増し部	6.2帯筋 (a)帯筋の種類及び間隔は、特記による (b)帯筋組立の形は図6.3により、適用は特記による。 (1)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。 (2)溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。 (3)SP形において、柱頭及び注頭の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。 図6.3 帯筋組立の形 (c)フック及び継手の位置は交互とする。 (d)帯筋の割付けは、図6.4とし、それ以外の場合は特記による。 図6.4 帯筋の割付け (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。 2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P、@または1.5P、@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。 なお、P1、@、P2、@は、特記された帯筋の間隔を示す。		
	株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115	1級建築士登録番号 143379 伊藤 公 1級建築士登録番号 317976 太田 武志	工事名 井田川小学校校舎増築等工事 図面名 構造特記仕様書-2	設計番号 図面番号 A3:- C-2

7. 1 大梁

- (a) 一般事項
- (1) 梁の上がりがりは、F Lを基準とした寸法値とする。
- (2) 地中梁下の砂利地床厚さ及び捨コンクリート地床厚さは、特記による。
- (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
- (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
- (1) 継手中心位置は、次による。
- 上端筋：中央 $L_i/2$ 以内
- 下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $L_i/4$ を加えた範囲以内
- (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図7. 3及び図7. 4による。
- (3) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7. 1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では折り曲げて定着する。

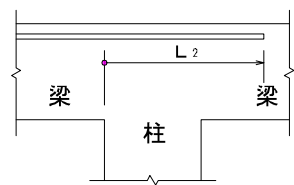


図7. 1 梁主筋の梁内定着

- (4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
- なお、定着の方法は、3.1 (b) (2)による。

上端筋：曲げ降ろす。

下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。

下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

- (5) 梁にハンチを付ける場合、その傾斜は特記による。
- (6) 段違い梁は、図7. 2による。

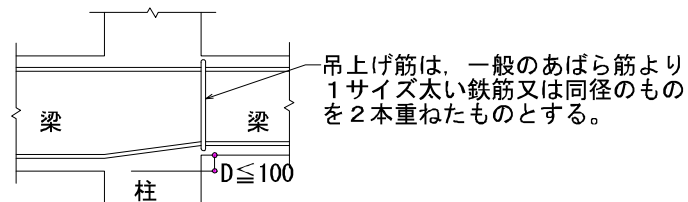
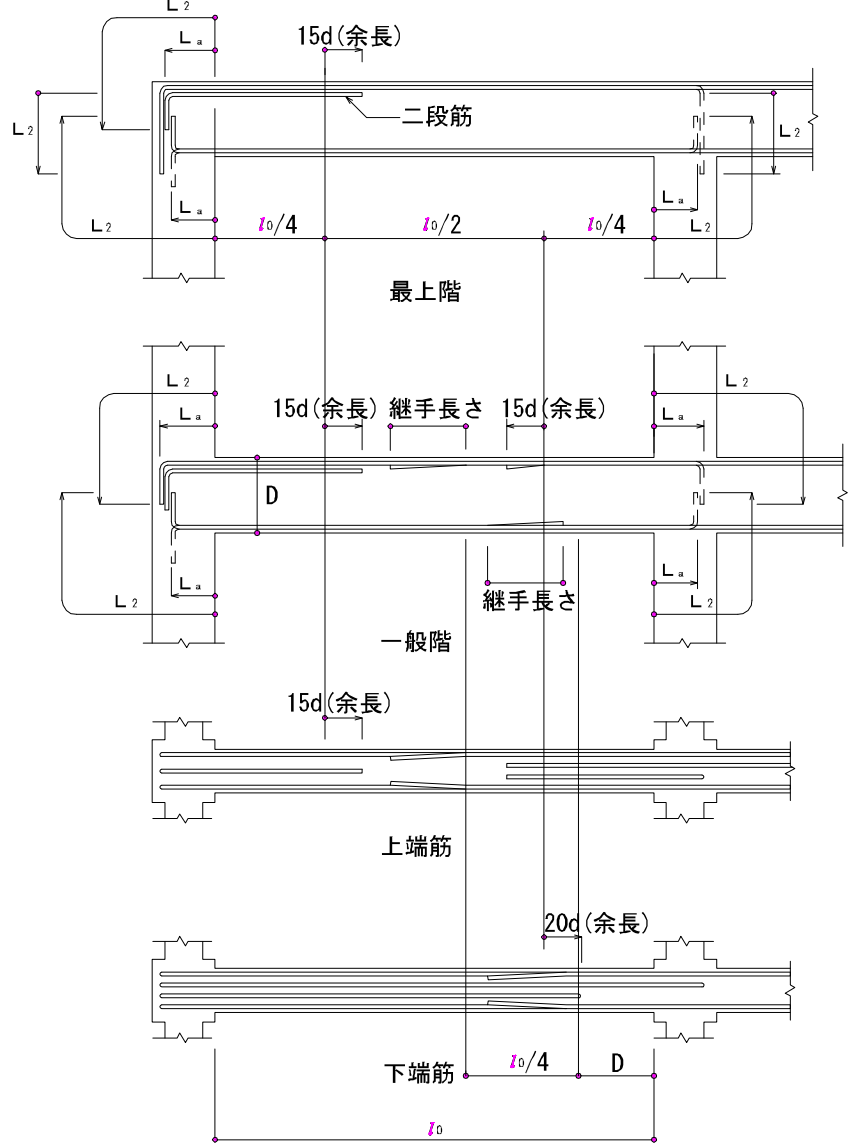


図7. 2 段違い梁

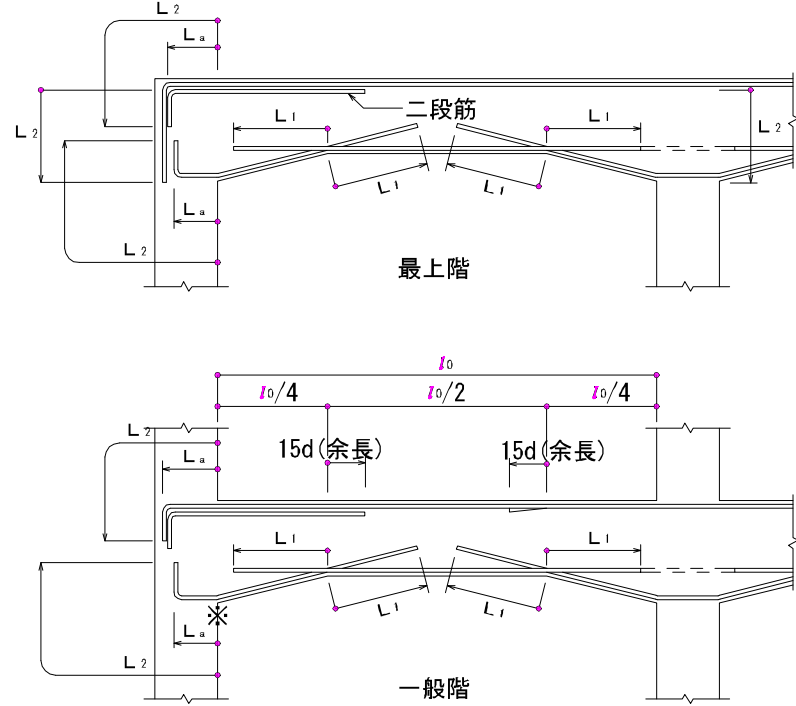
- (c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7. 3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7. 3 大梁の重ね継手、定着及び余長

- (d) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長は、図7. 4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、-----のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7. 4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7. 2 あばら筋等

- (a) あばら筋、腰筋及び幅止め筋の一般事項
- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- (2) 腰筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7. 6による。
- (3) 幅止め筋腰筋変位幅係数係数は100場合の幅率程度及び定着長さは、特記による。
- (b) あばら筋組立の形及びフックの位置
- (1) 形は、図7. 5(イ)とする。
- ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置
- I. (イ)の場合は、交互とする。
- II. (ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
- III. (ハ)の場合は、床板の付く側を90°折曲げとする。

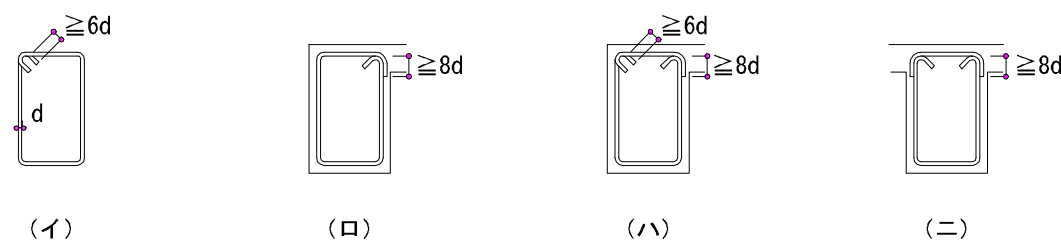
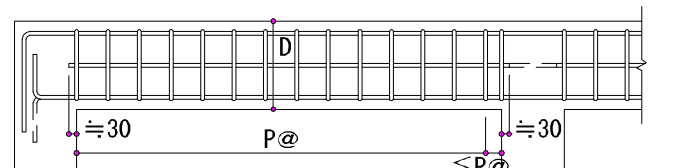


図7. 5 あばら筋組立の形

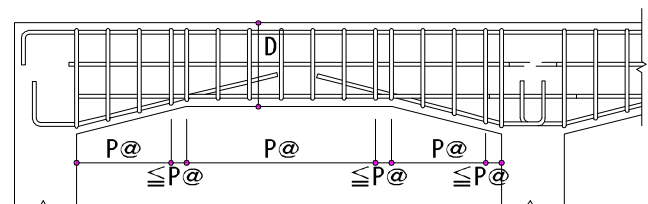
- (c) あばら筋の割付け
- (1) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7. 6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 6 あばら筋の割付け（その1）

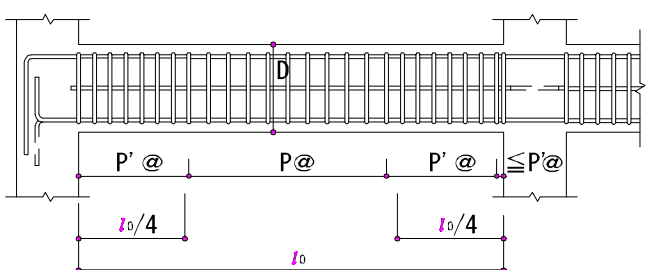
- (2) 間隔が一律でハンチがある場合は、図7. 7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 7 あばら筋の割付け（その2）

- (3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7. 8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 8 あばら筋の割付け（その3）

- (d) 腰筋及び幅止め筋

- (1) 一般の梁は、図7. 9による。

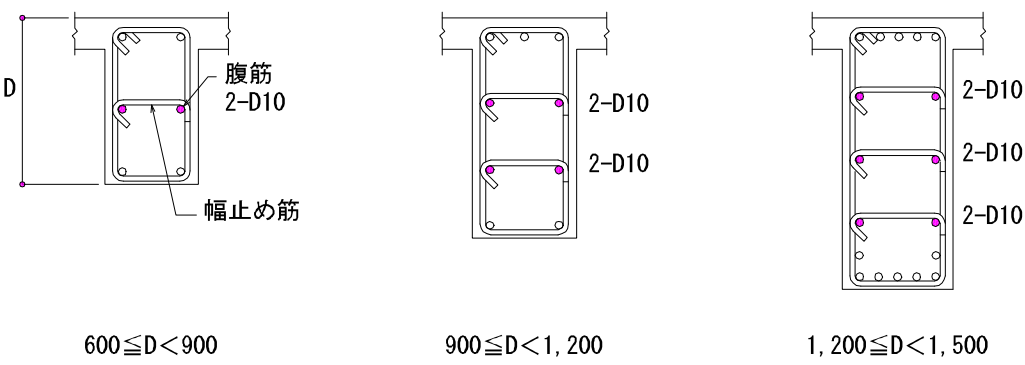
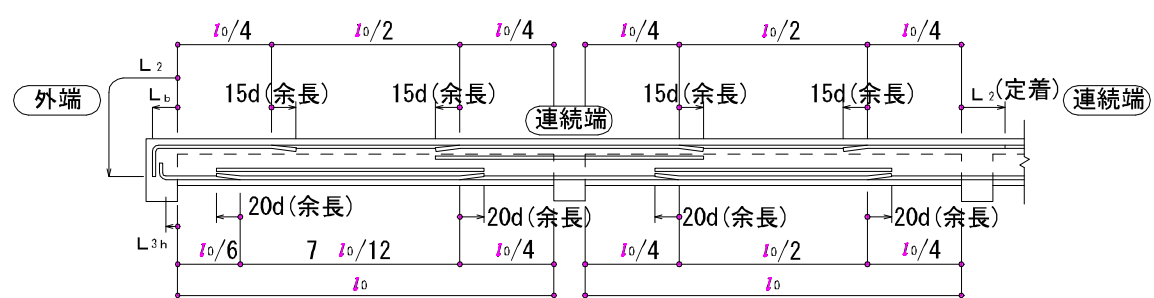


図7. 9 腰筋及び幅止め筋

7. 3 小梁

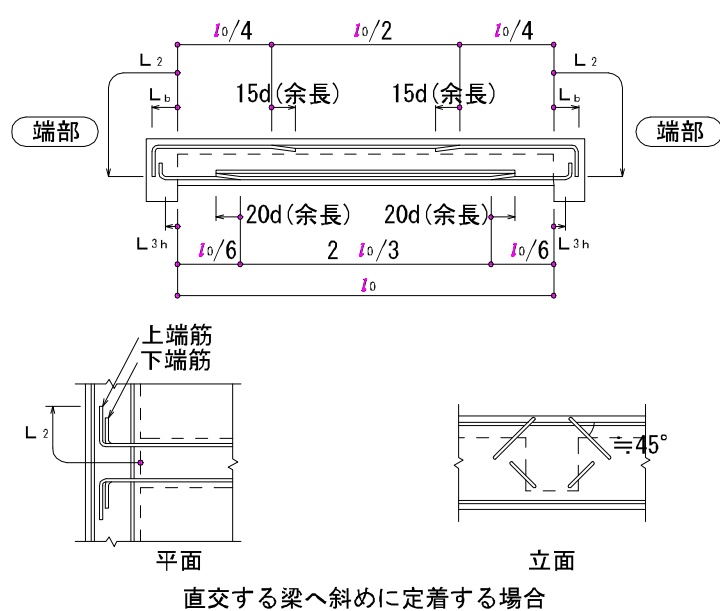
- (a) 連続小梁の場合は、図7. 10による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7. 10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (b) 単独小梁の場合は、図7. 11による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7. 11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

- (c) あばら筋は、7.2による。

7. 4 片持梁

- (a) 片持梁主筋の定着及び余長

- (1) 先端に小梁のない場合は、図7. 12による。

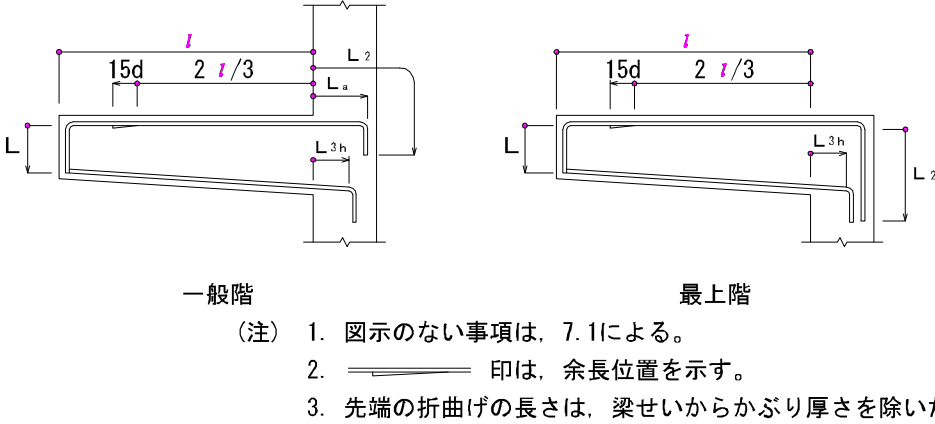
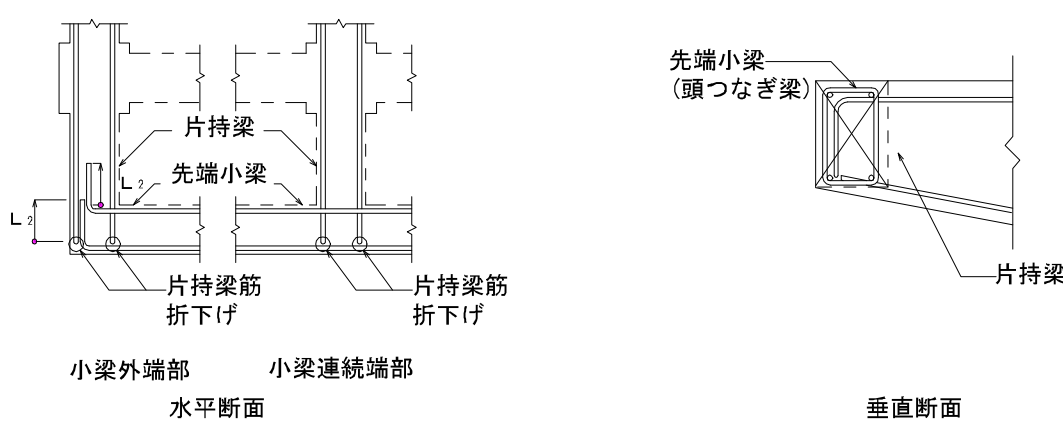


図7. 12 片持梁主筋の定着及び余長

- (2) 先端に小梁がある場合は、図7. 13による。



- (注) 1. 図示のない事項は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7. 13 片持梁主筋の定着

- (b) あばら筋は、7.2による。

8. 1 壁

- (a) 一般事項
- (1) 壁配筋の重ね継手の長さはL_i、定着の長さはLとし、鉄筋の継手位置は、柱・梁以外とする。
- (2) 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000@程度とする。
- (3) 打増し部分に、壁スラブ等が取り付く場合の壁、スラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

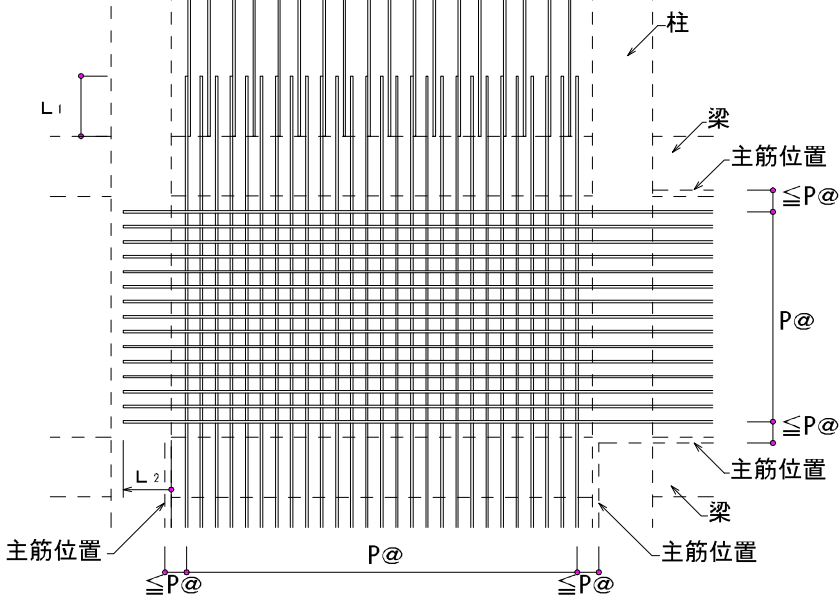


図8. 1 壁の配筋

- (b) 壁の配筋は表8.1により、種別は特記による。

表8.1 壁の配筋			
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	
W12	D10-200@シングル	120	
W15A	D10-150@シングル	150	
W15B	D10-100@シングル		
W18A	D10-200@ダブル	180	
W18B	D10-150@ダブル		
W20A	D10-200@ダブル	200	
W20B	D10-150@ダブル		

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

- (c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は特記による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋			
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	縦筋の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1
	横筋 D13-200@ダブル		KA3
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2
	横筋 D13-200@ダブル		KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

- (d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

- (e) 壁の交差部及び端部の配筋は図8.2による。

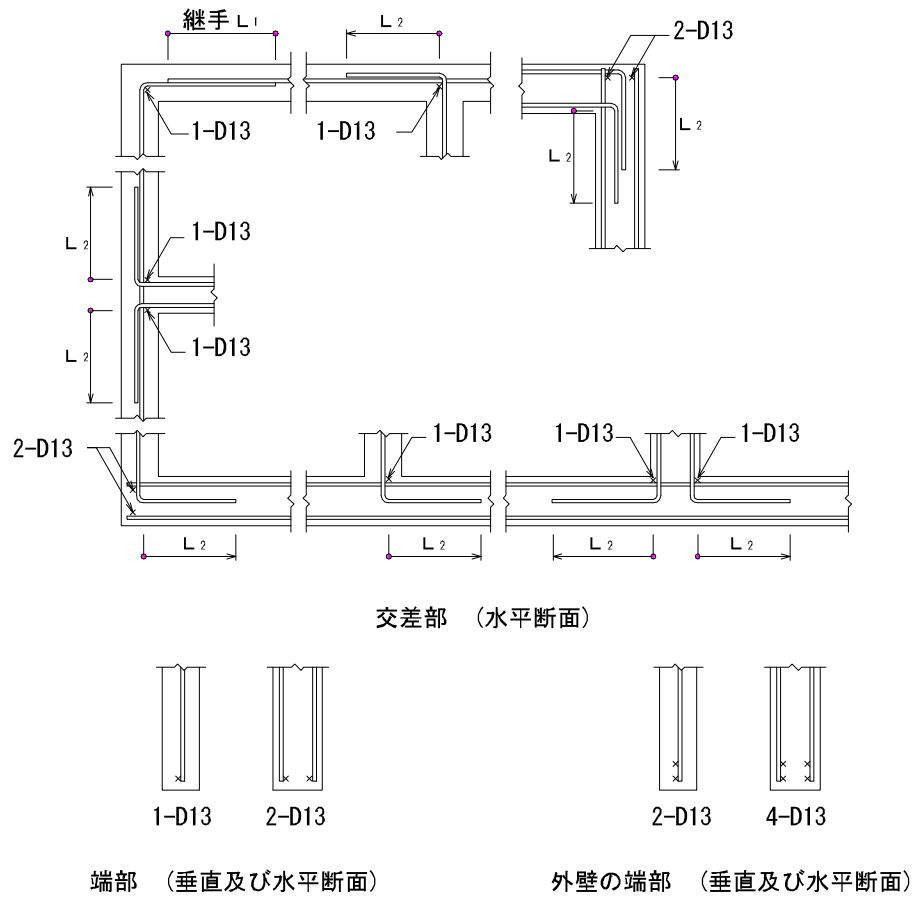


図8. 2 壁の交差部及び端部の配筋

株式会社 中部都市建築設計事務所				工事名	設計番号
TEL: 059-226-0139 FAX: 059-226-5115				井田川小学校校舎増築等工事	
日付	図面名	縮尺	図面番号		
2020.2.12		A3:-	C-3	1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	
				1級建築士登録番号 317976 太田 武志	
				構造特記仕様書-3	

8.2 壁の補強

- (a) 壁開口部の補強
- (1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は特記による。
なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)		
壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)		
壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

- (2) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。

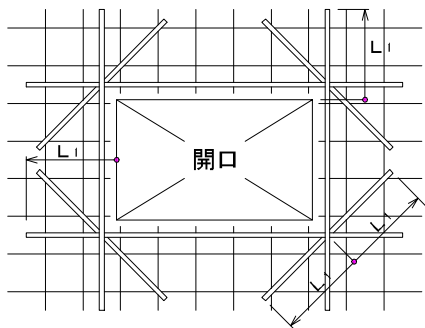


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

- (3) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

- (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

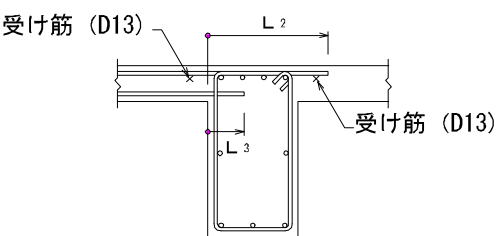
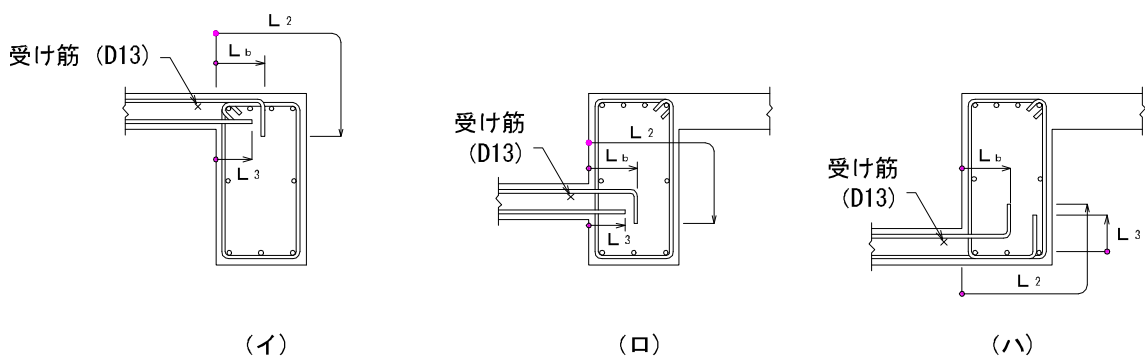


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)



一般スラブの場合

耐圧スラブの場合

図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

- (2) 先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

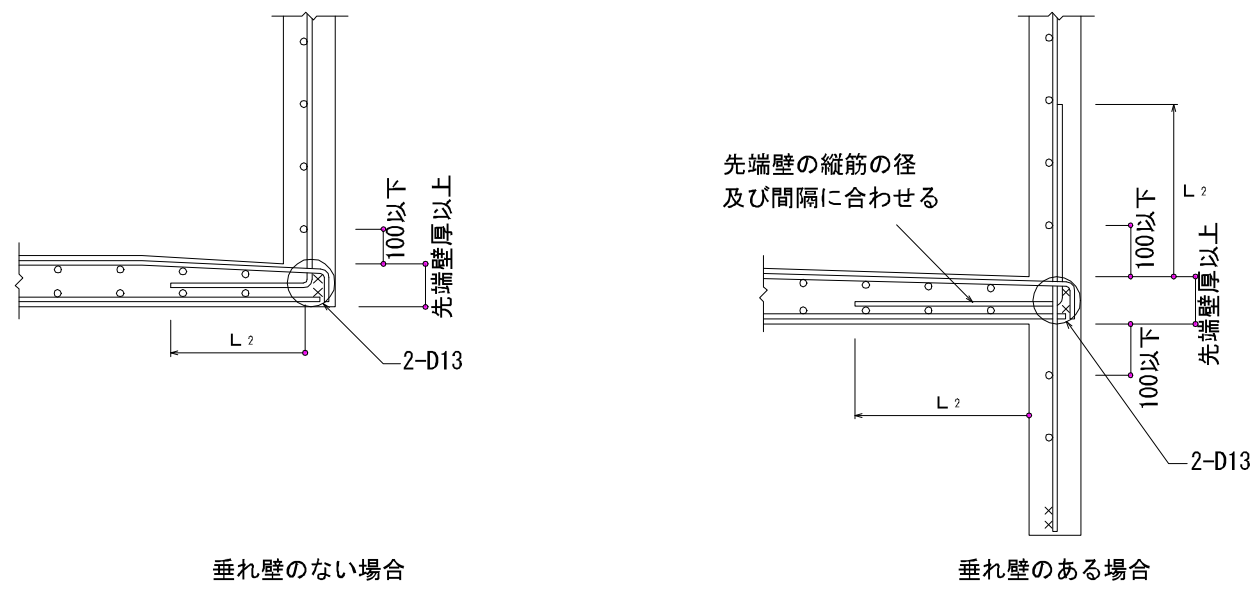
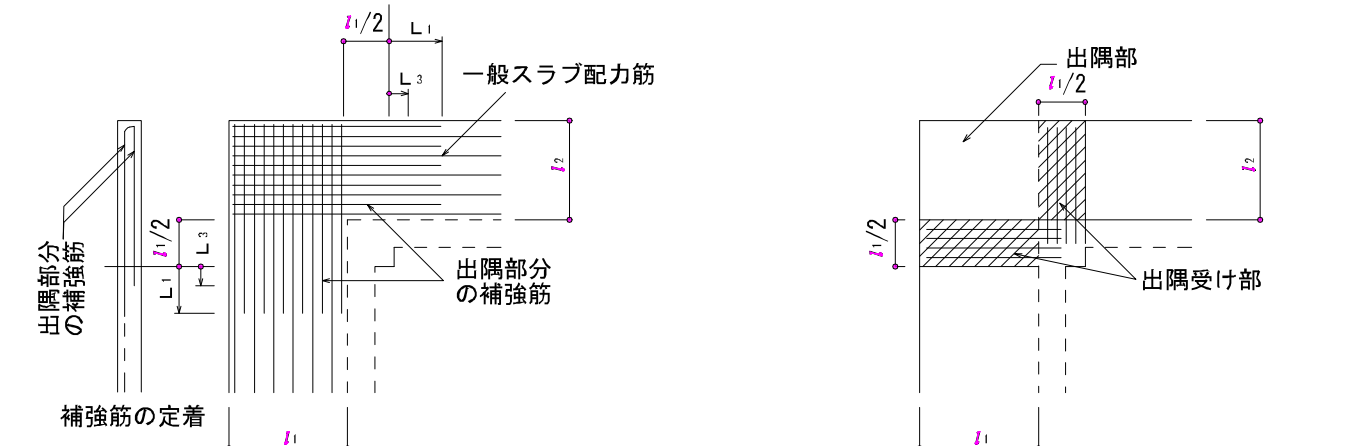


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

- (3) 出隅部
- (1) 補強の配筋は特記により、配筋方法は、図9.7による。
- (ii) 出隅受け部分 (図9.9の斜線部分) の補強筋は特記による。



- (注) 1. $l \geq \frac{1}{2}l$ とする。
- (注) 1. $l \geq \frac{1}{2}l$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に l 、定着する。

図9.7 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

- (a) スラブ開口部の補強
- スラブ開口部の補強は、特記による。
- (i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($l \geq 2L$) シングルを上下筋の内側に配筋する。

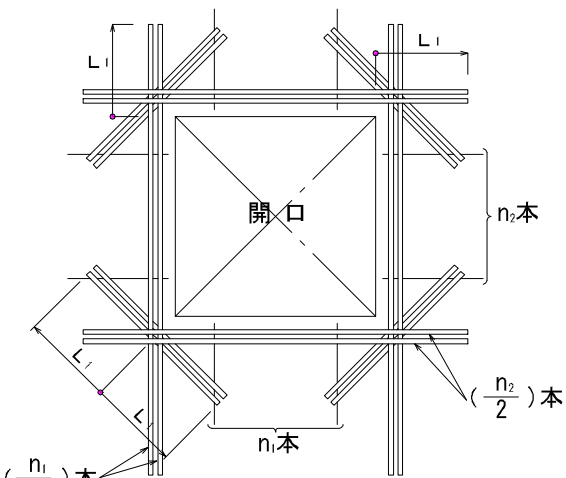


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (ii) スラブの開口の最大径が同方向の配筋間隔以下で、鉄筋を縦やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (b) 屋根スラブの補強
- 屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

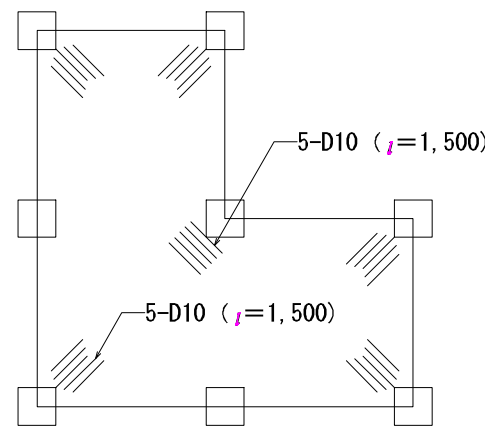


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

- (c) 土間スラブの打継ぎ補強
- 基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

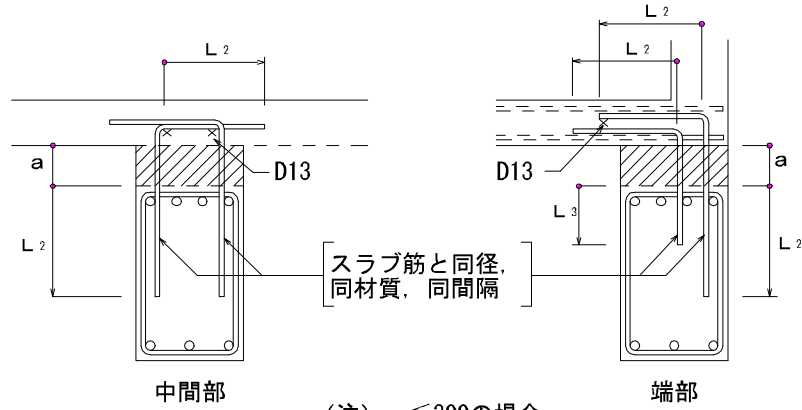


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (d) 土間コンクリート補強
- 土間コンクリートの補強筋は、特記による。
なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

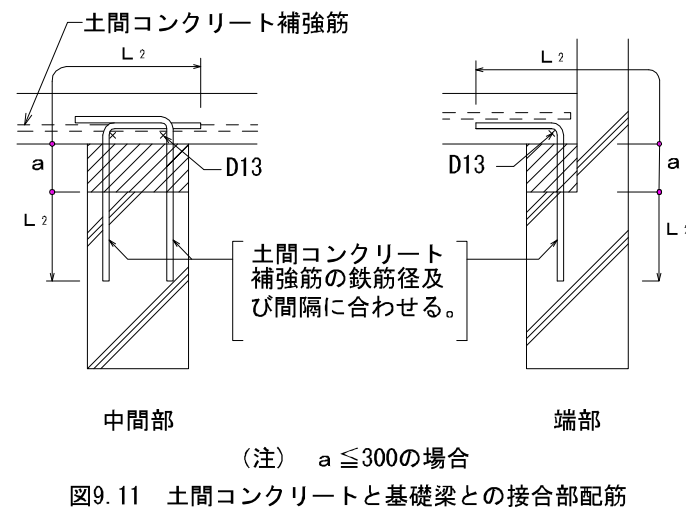
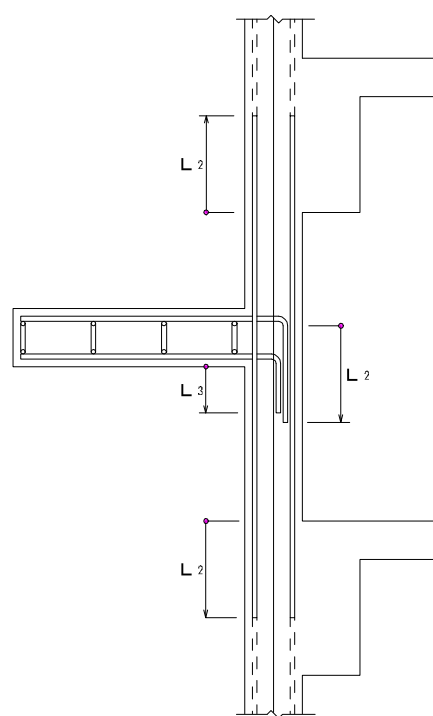


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

表10.1 片持スラブ形階段の配筋		
配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、8.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3「鉄筋の定着長さ」の l とする。

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、 F_L を基準とした寸法値とする。
- (2) 土間スラブ下の砂利地業厚さ及び捨てコンクリート厚は、特記による。
- (3) 土間コンクリート補強筋 (Do) の配筋及びコンクリート厚さは、特記による。
- (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.1 S形配筋					
配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100 ϕ	D13-100 ϕ	S 8	D10, D13-150 ϕ	D10-150 ϕ
S 2	同上	D13-150 ϕ	S 9	同上	D10-200 ϕ
S 3	同上	D10, D13-150 ϕ	S10	D10, D13-200 ϕ	D10, D13-200 ϕ
S 4	D13-150 ϕ	D13-150 ϕ	S11	同上	D10-200 ϕ
S 5	同上	D10, D13-150 ϕ	S12	同上	D10-250 ϕ
S 6	同上	D10-150 ϕ	S13	D10-200 ϕ	D10-200 ϕ
S 7	D10, D13-150 ϕ	D10, D13-150 ϕ	S14	同上	D10-250 ϕ

- (注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

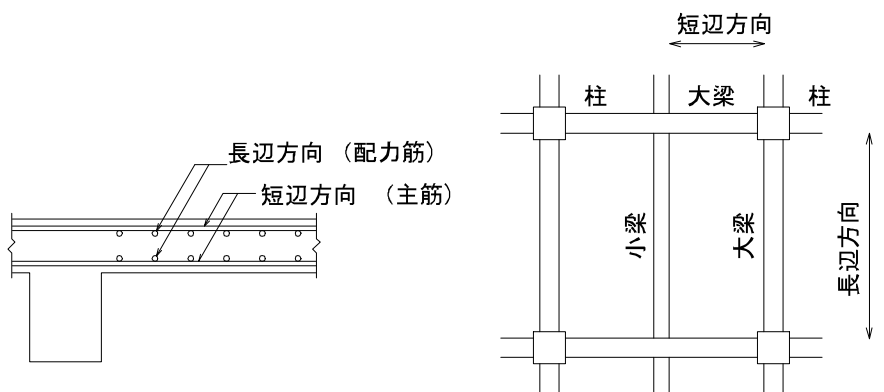


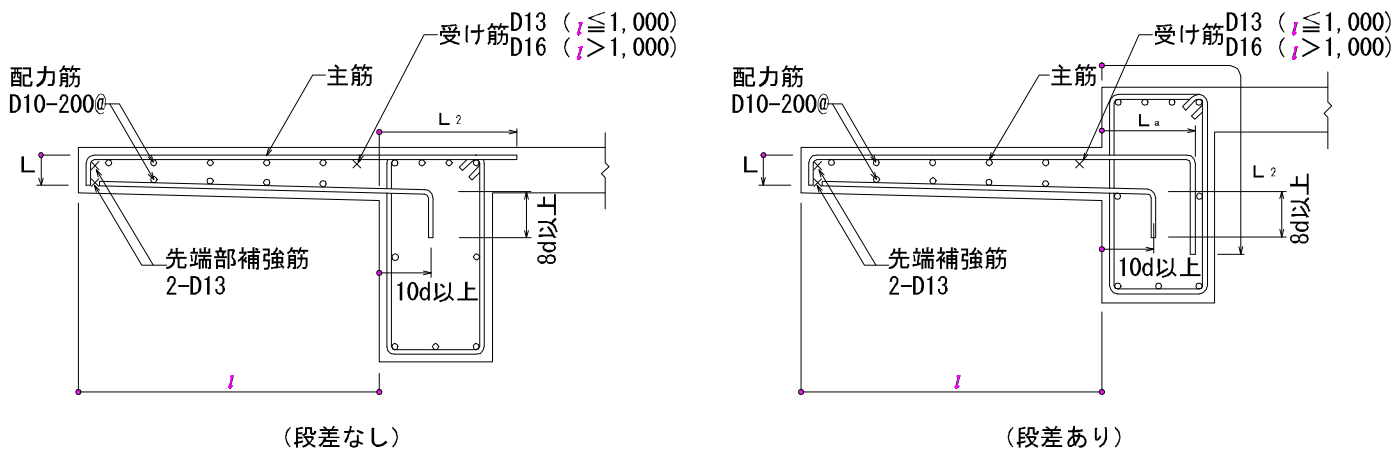
図9.1 スラブの配筋

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- (6) 鉄筋の重ね継手長さは、 l とする。

9.2 片持スラブ

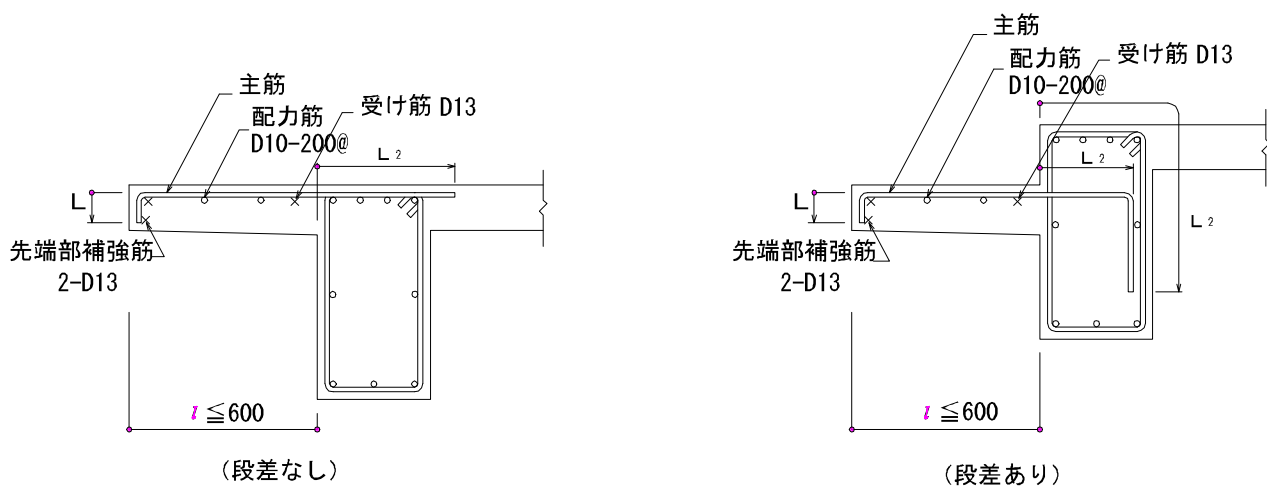
- 片持スラブの配筋は、次による。
- (1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表 9.2 CS形配筋							
配筋種別		主筋		配筋種別		主筋	
CS1	上	D13-100 ϕ		CS5	上	D10-200 ϕ	
	下	D13-200 ϕ			下	D10-400 ϕ	
CS2	上	D13-150 ϕ		CS6	上	D10、D13-200 ϕ	
	下	D13-300 ϕ			下	—	
CS3	上	D10、D13-150 ϕ		CS7	上	D10-200 ϕ	
	下	D10、D13-300 ϕ			下	—	
CS4	上	D10、D13-200 ϕ					
	下	D10-200 ϕ					



- (注) 1. 先端の折曲げ長さ l は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS1 から CS5)



- (注) 1. 先端の折曲げ長さ l は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS6 及び CS7)

株式会社 中部都市建築設計事務所

TEL:059-226-0139 FAX:059-226-5115

日付 2020.2.12

1級建築士登録番号 143379 伊藤 公

井田川小学校校舎増築等工事

1級建築士登録番号 317976 太田 武志

構造特記仕様書-4

設計番号

図面名

縮尺 A3:-

図面番号 C-4

1 0. 2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、表10. 2並びに図10. 2及び図10. 3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10. 2 二辺固定スラブ形配筋		
配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)	
KB1	D13-200#	
KB2	D13-150#	
KB3	D13-100#	
KB4	D13, D16-150#	
KB5	D16-150#	
KB6	D16-125#	
KB7	D16-100#	

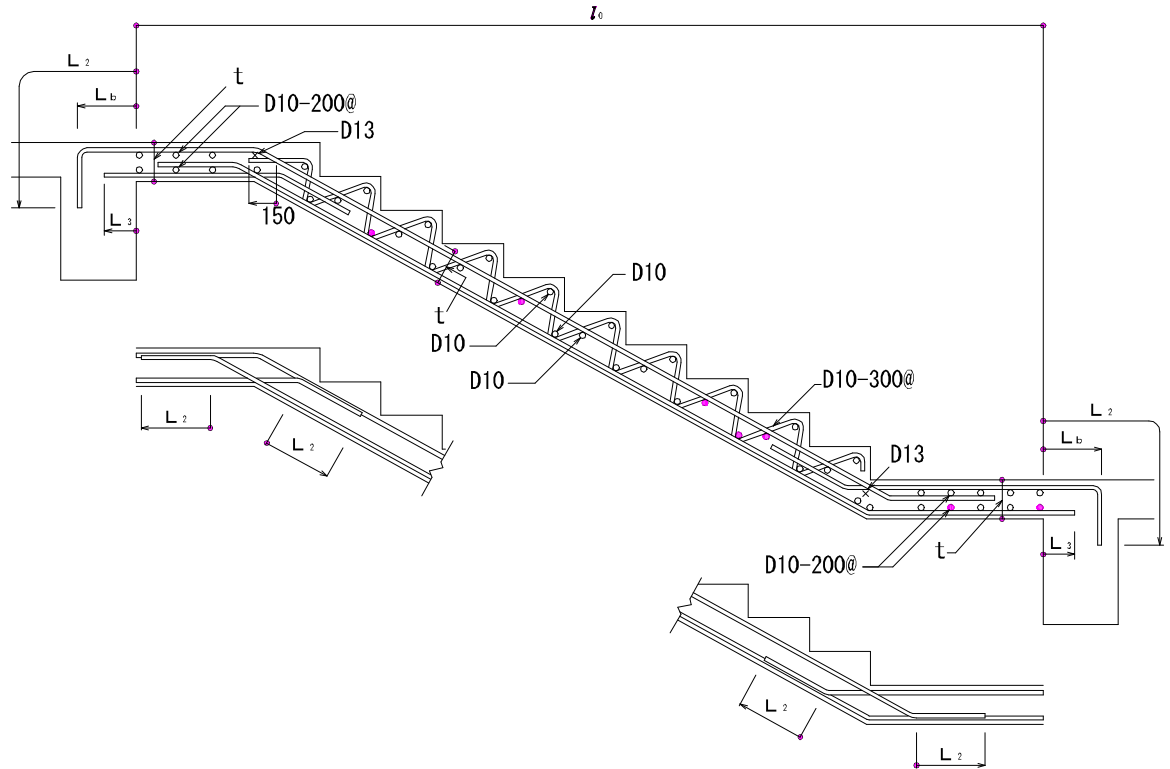
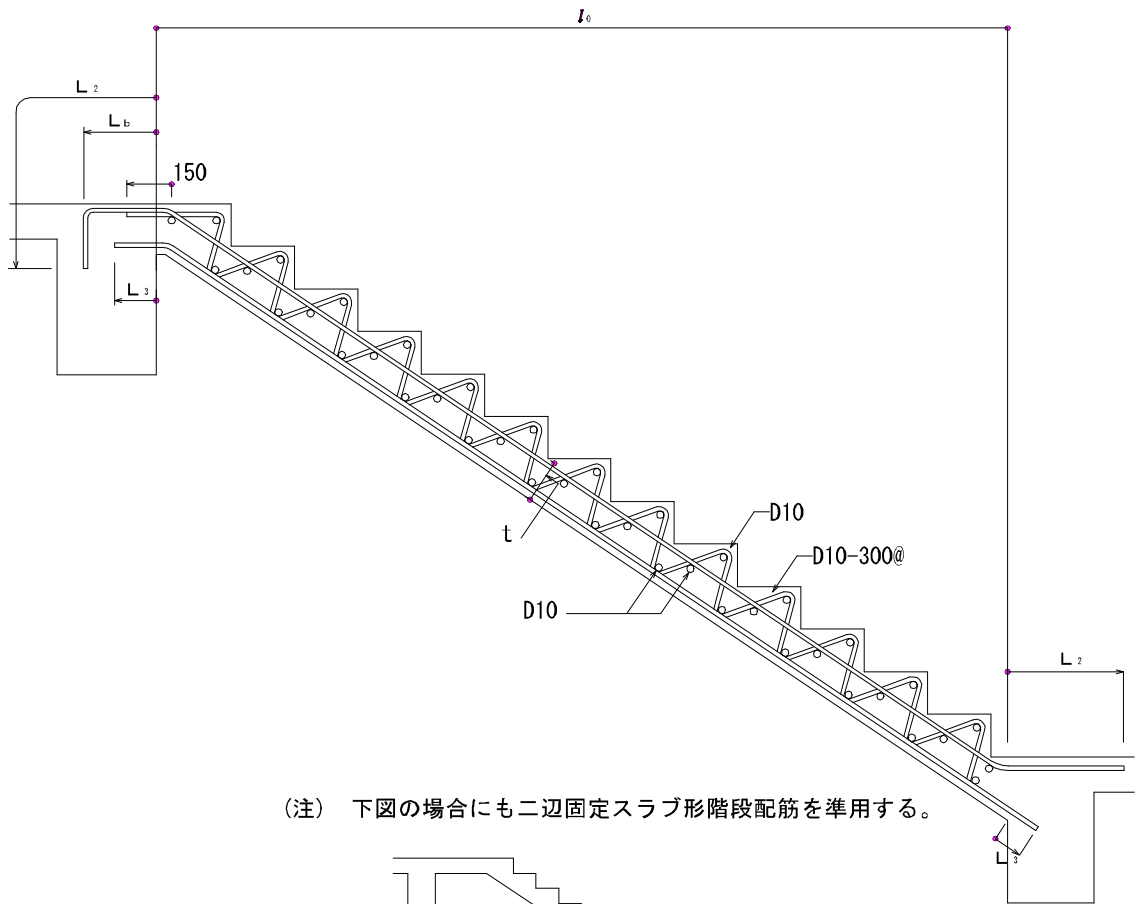


図10. 2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

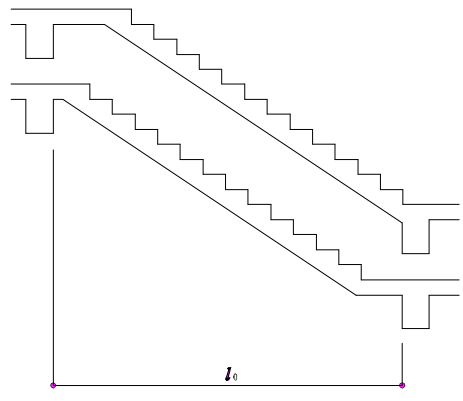


図10. 3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

1 1. 1 梁貫通孔

- (a) 梁貫通孔は、次による。
- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11. 1による。
 - (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
 - (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には設けてはならない。
 - (4) 孔は、柱面から、原則として、1. 5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
 - (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
 - (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11. 2による。
 - (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 - (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
 - (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 - (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

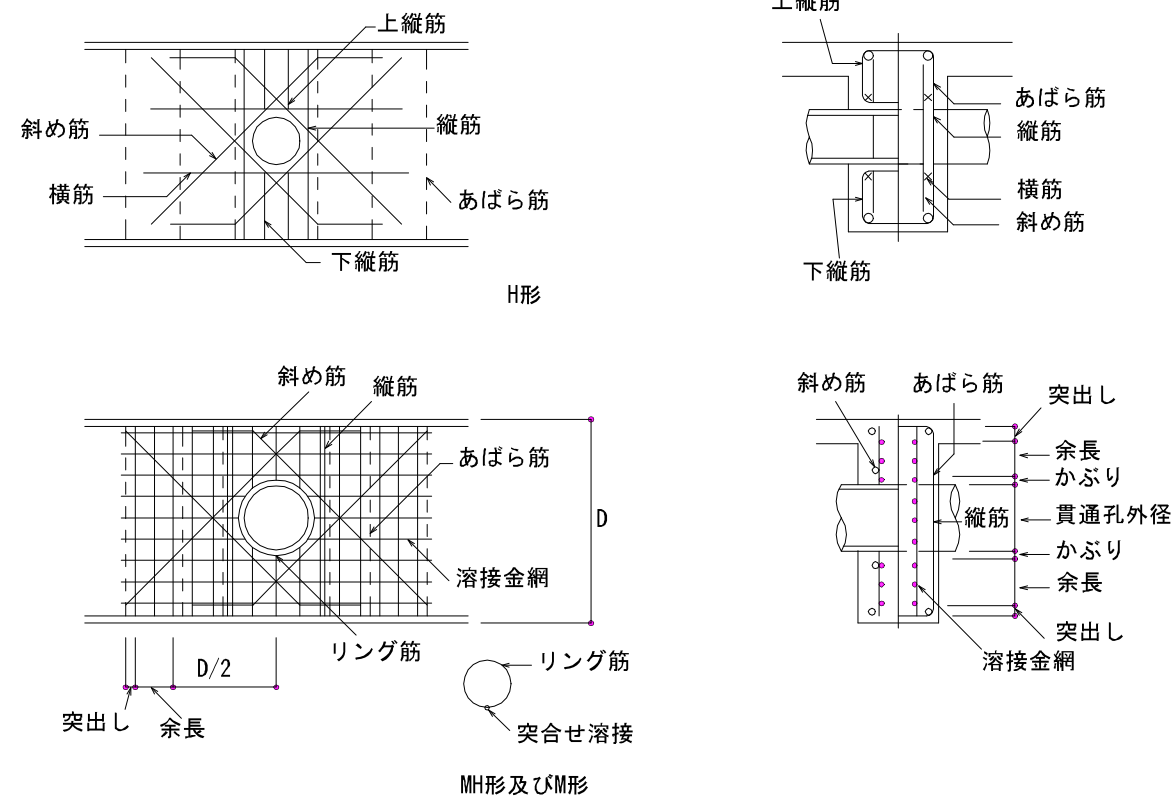


図11. 1 梁貫通孔補強筋の名称等



図11. 2 補強筋の定着長さ

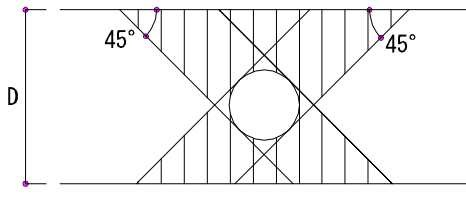


図11. 3 他の開孔を設けない範囲

- (b) 梁貫通孔の補強形式は表11. 1～表11. 3により、配筋種別は特記による。

表11. 1 H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注)----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11. 2 M形配筋			
配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13		

(注)----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11. 3 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19			

(注)----- は、一般部分のあばら筋を示す。

1 1. 2 コンクリートブロック横壁との取合い

- (a) 控壁は、次による。
- (1) 控壁の配筋図、特記による。
 - (2) 配筋は、図11. 4による。

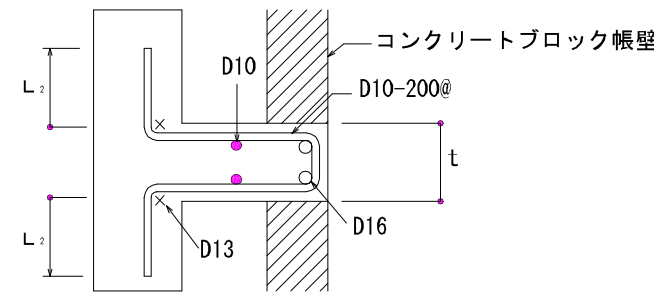


図11. 4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11. 5による。

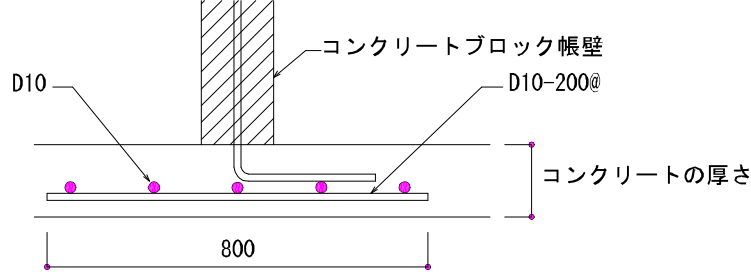


図11. 5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

1 1. 3 パラベット

パラベットの配筋は図11. 6による。
コンクリート厚さ、縦筋は特記による。

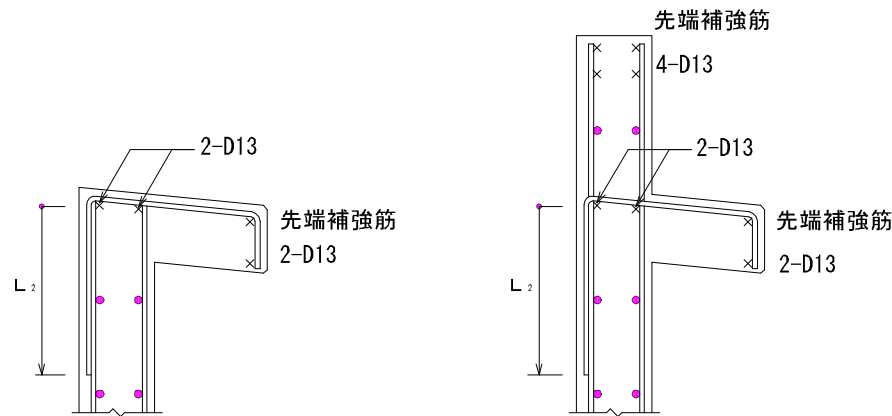


図11. 6 パラベットの配筋

1 2. 1 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12. 1により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

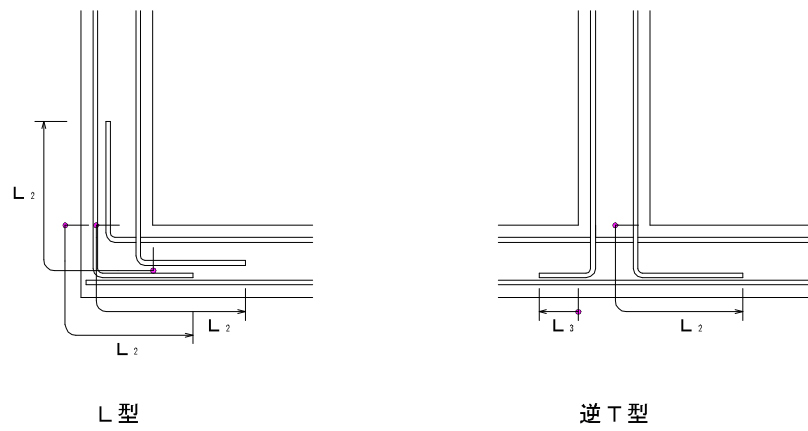


図12. 1 擁壁の鉄筋の定着長さ

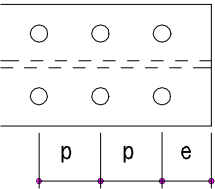
株式会社 中部都市建築設計事務所				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公		工事名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
TEL: 059-226-0139 FAX: 059-226-5115				日付 2020. 2. 12		図面名 構造特記仕様書-5		図面番号
				1級建築士登録番号 317976 太田 武志		縮尺 A3:-		C-5

構造関係共通事項（鉄骨標準図）

1. 1 縁端距離及びボルト間隔等

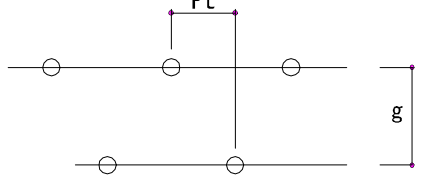
(a) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。
ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)		
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70



(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)		
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)											
A			B			C			D		
A又はB	E ₁	E ₂	B	E ₁	E ₂	C	E ₁	E ₂	D	E ₁	E ₂
45	25		12	100	56	16	50	30	12		
50	28		16	125	75	16	65	35	20		
60	35		16	150	90	22	70	40	20		
65	35		20	175	105	22	75	40	22		
70	40		20	200	120	24	80	45	22		
75	40		22	250	150	24	90	50	24		
80	45		22	300	150	40 ^{*)}	24	100	24		
90	50		24	350	140	70	24				
100	55		24	400	140	90	24				
125	50	35	24	※1 千鳥打ちとした場合							
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

1. 2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準 (単位: mm)							
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6				t ≤ 12			
G = t				6			
6 < t ≤ 19				12 < t ≤ 22			
35°				45°			
7				6			
19 < t ≤ 40				22 < t ≤ 40			
35°				45°			
7				D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3			
				30°			
				6			
				60°			
				D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2			

T型継手の開先標準 (単位: mm)							
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6				t ≤ 12			
1/4t ≤ S ≤ 10				1/4t ≤ S ≤ 10			
6 < t ≤ 19				12 < t ≤ 22			
1/4t ≤ S ≤ 10				1/4t ≤ S ≤ 10			
19 < t ≤ 40				22 < t ≤ 40			
1/4t ≤ S ≤ 10				1/4t ≤ S ≤ 10			
				D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3			
				1/4t ≤ S ≤ 10			
				D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2			
				1/4t ≤ S ≤ 10			

部材が直交しない場合の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	19 < t ≤ 40
6 < t ≤ 40	6 < t ≤ 19	19 < t ≤ 40
1/4t ≤ S ≤ 10	1/4t ≤ S ≤ 10	1/4t ≤ S ≤ 10

かど継手の開先標準 (単位: mm)							
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6				t ≤ 12			
S = t				6			
6 < t ≤ 19				12 < t ≤ 22			
35°				45°			
7				6			
19 < t ≤ 40				22 < t ≤ 40			
35°				45°			
7				D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3 1/4t ≤ S ≤ 10			
				35°			
				6			
				60°			
				D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2 1/4t ≤ S ≤ 10			

隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	16 < t ≤ 40
t ≤ 16	t ≤ 16	16 < t ≤ 40

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)																		
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19

部分溶込み溶接の開先標準 (単位: mm)	
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	16 ≤ t ≤ 40
45°	45°
D1 = (t-2)/2 D2 = (t-2)/2 1/4t ≤ S ≤ 10	D1 = (t-2)/2 D2 = (t-2)/2 1/4t ≤ S ≤ 10

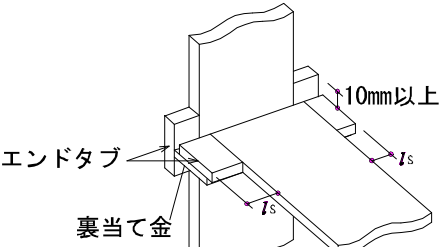
フレア溶接の開先標準 (単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
d/2 d/2	d/2 d/2	t ≥ 3のときS = t t < 3のときS = 3	t ≥ 3のときS = t t < 3のときS = 3

1. 3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。 (単位: mm)	
適用管厚 3.2mm ≤ t ≤ 12mm	
交角 30° ≤ θ ≤ 150°	
A	支管
B	主管
D-D断面図	
主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。	
50° ~ 60°	50° ~ 60°
1.5t ~ 2.0t	1.5t ~ 2.0t
A部断面	B部断面
1.5t ~ 2.0t	1.5t ~ 2.0t
0 ~ 3	0 ~ 3
1.5t ~ 2.0t	1.5t ~ 2.0t
C部断面	

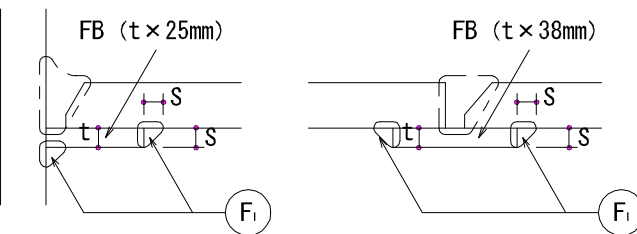
1. 4 鉄骨溶接施工

- (a) フィラープレートの鋼材種別は、SS400とする。
(b) エンドタブ
(1) エンドタブの形状は母材と同厚、同開先のものとする。
(2) エンドタブ・裏当て金・スプライスプレートの鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。



エンドタブの長さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手 溶 接	35以上
半自動溶接	38以上
自 動 溶 接	70以上

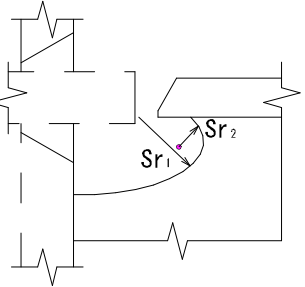
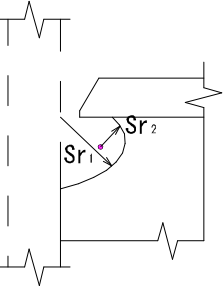
- (c) 裏当て金
裏当て金の溶接
(1) 裏当て金の組立溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
(2) 完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



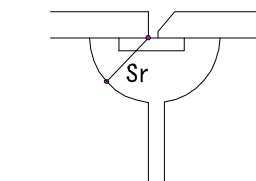
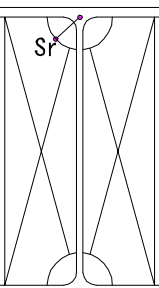
裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手 溶 接	6以上
半自動溶接	9以上
自 動 溶 接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

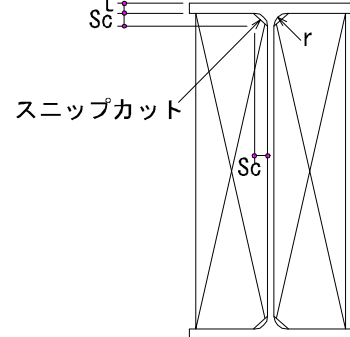
- (d) スクラップ
改良型スクラップ
(1) スクラップ半径 Sr₁ は35mmとする。Sr₂ は10mmとする。
(2) スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スクラップ
スクラップ半径Srは35mmとする。



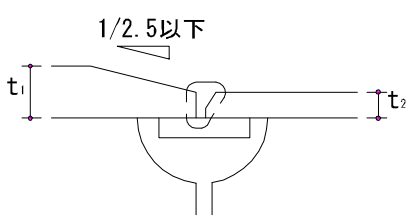
- (e) スニップカット
(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



スニップカットの寸法 (単位: mm)					
t	6	9	12	16以上	
Sc	10	12	14	15	

ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

- (f) 溶接部分の段差
(1) 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合



株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL: 059-226-0139 FAX: 059-226-5115				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工事名 井田川小学校校舎増築等工事	設計番号
日付 2020.2.12				1級建築士登録番号 317976 太田 武志	図面名 構造特記仕様書-6	図面番号 A3:- C-6

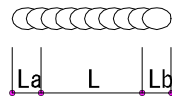
(g) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3215	YGW-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	250以下
			40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3312	YGW-18, 19	40以下	350以下
400N級鋼STKR, BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
			40以下	350以下
490N級鋼STKR, 及びBCP	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下

1. 5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

- (a) 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下記による。
(b) 有効溶接長さ (L) は、ビートの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた長さとする。

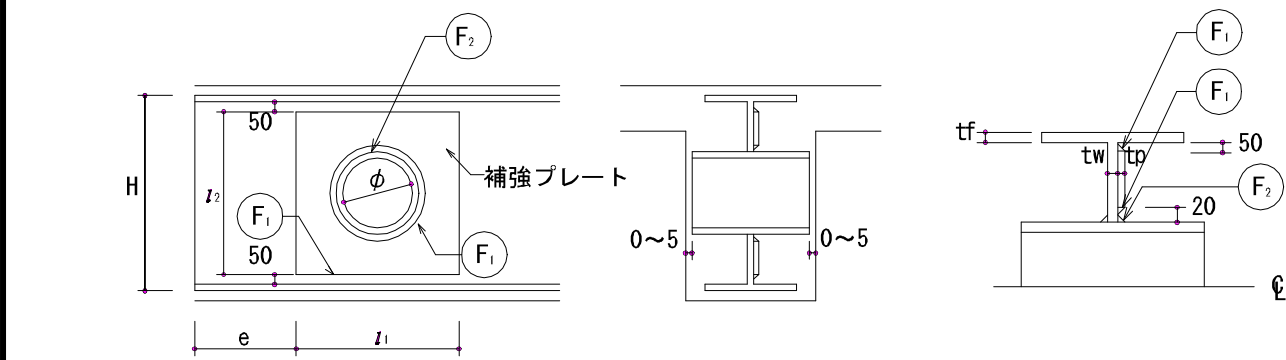
L : 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
L a 及び L b = 1 S (鉄筋については1d) 以上
d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S : 溶接のサイズ



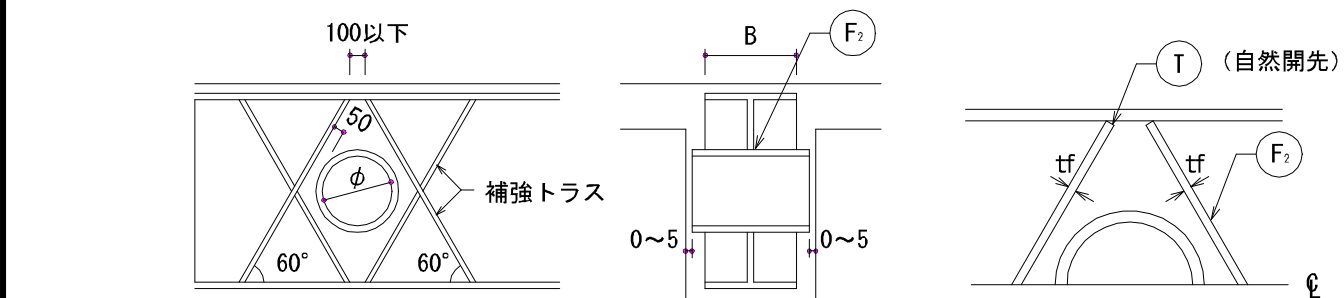
1. 6 梁貫通孔補強

- (a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
(b) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下、かつ、鉄筋コンクリート梁せい1/3以下とする。
(c) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

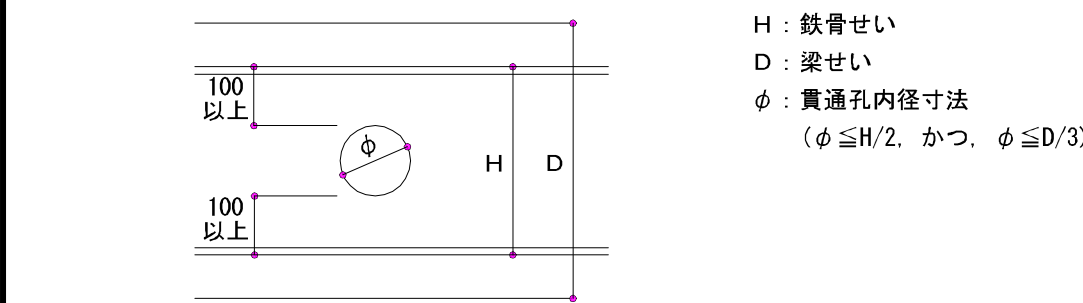
補強プレート法
(1) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



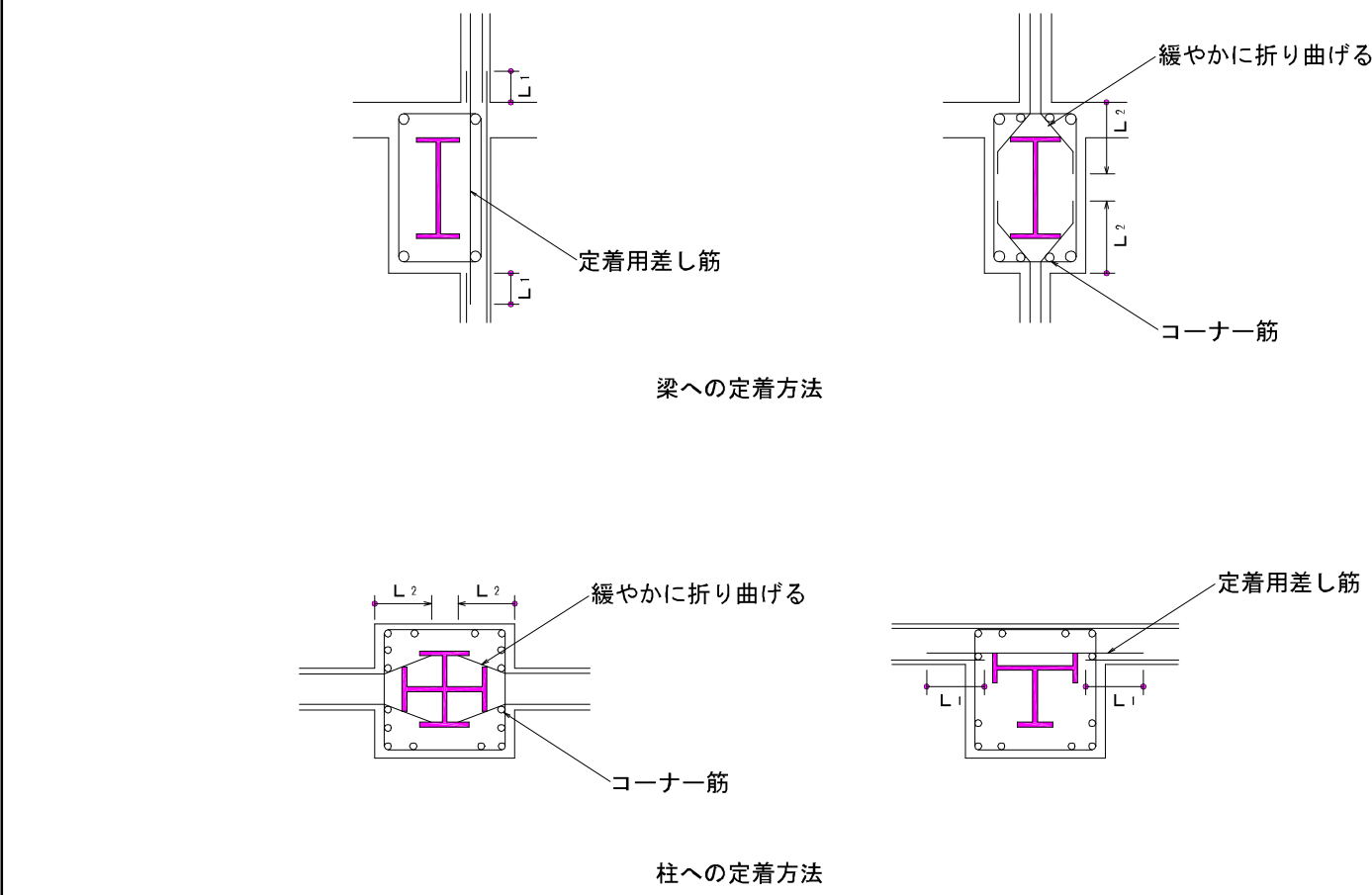
補強トラス法
(1) スリーブの取付けは、全周隅内溶接とする。



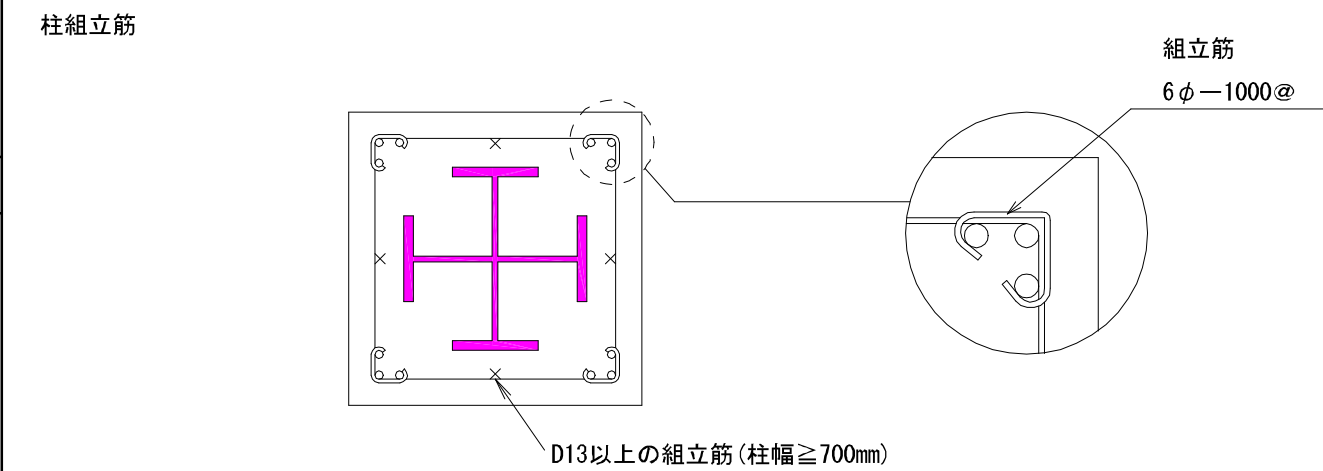
梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)



1. 7 壁筋の周辺部材への定着

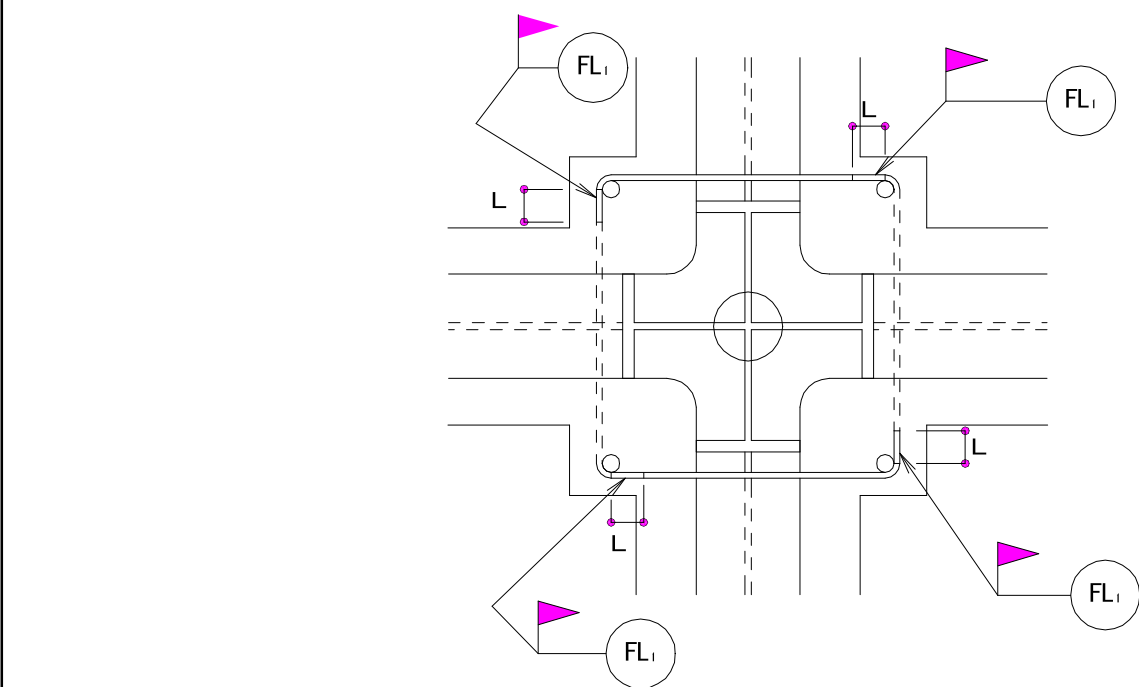


1. 8 柱組立筋



1. 9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。

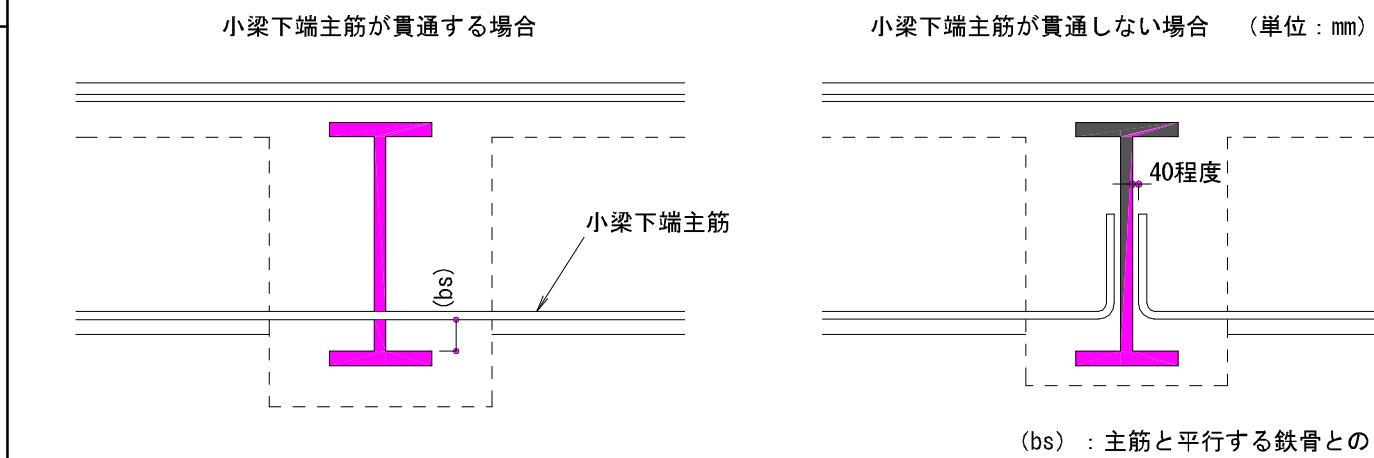
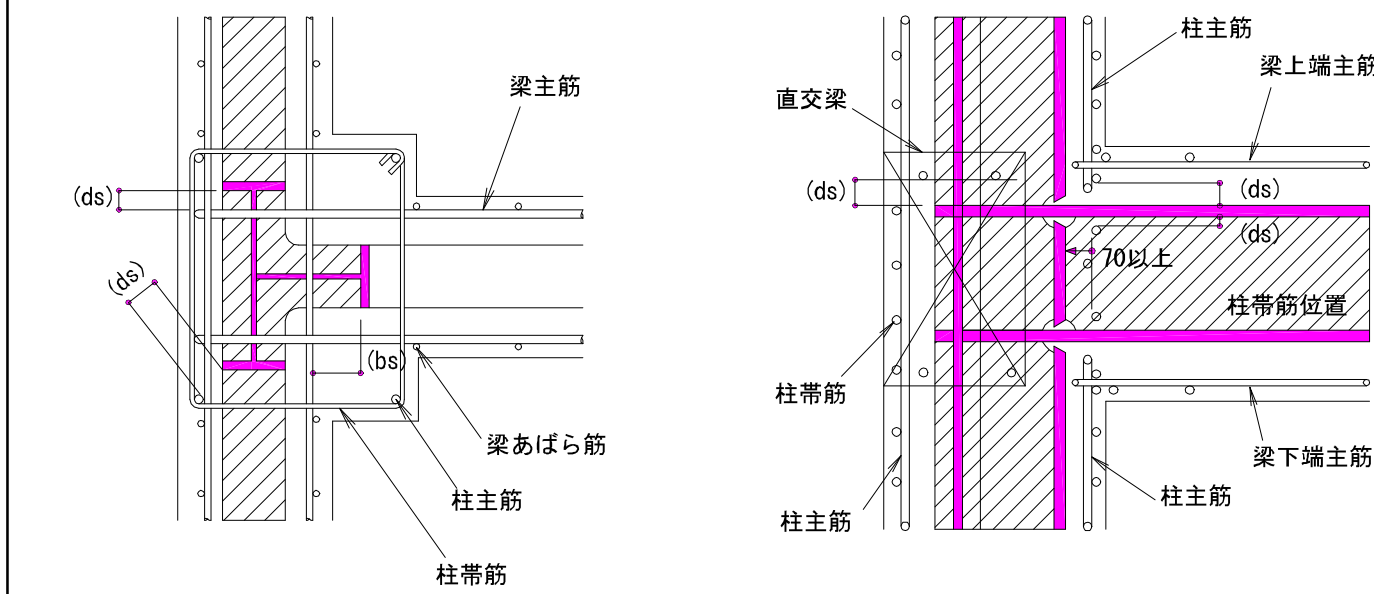


1. 1 0 鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径
鉄筋の貫通孔径の最大は、下表による。

鉄筋の呼び名	(単位: mm)							
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)
鉄骨フランジは、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



1. 1 1 広幅平鋼の取扱い

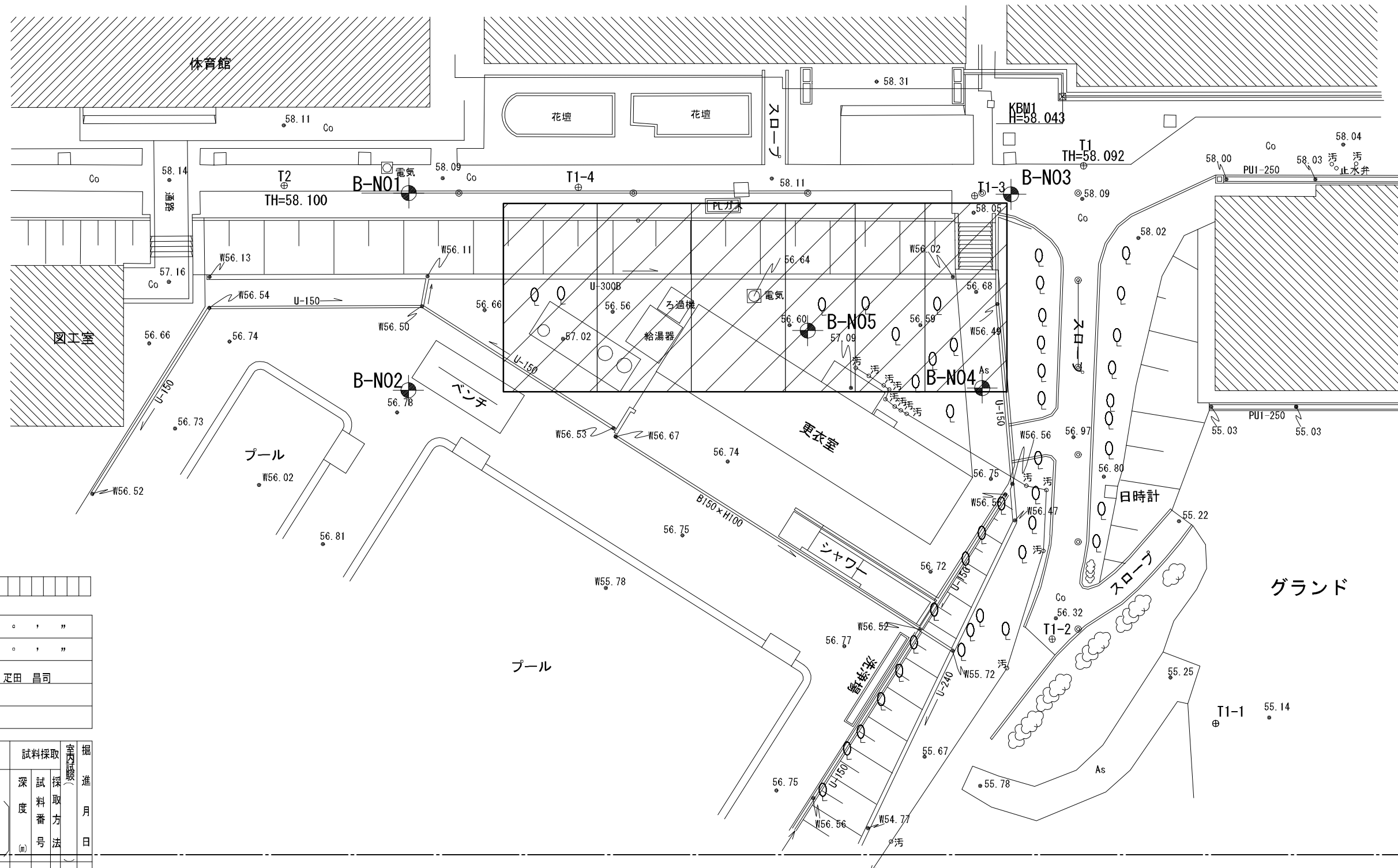
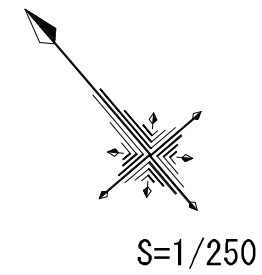
- (a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。
(b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○	○

1. 1 2 普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。

株式会社 中部都市建築設計事務所				工事名		設計番号	
TEL: 059-226-0139 FAX: 059-226-5115				井田川小学校校舎増築等工事			
日付				図面名		縮尺	図面番号
2020.2.12				構造特記仕様書-7		A3:-	C-7



ボーリング柱状図

調査名 井田小学校地質調査業務委託										ボーリングNo. 1									
事業・工事名										シートNo.									
ボーリング名 No.1										調査位置 龜山市みどり町 地内									
発注機関 亀山市教育委員会										調査期間 令和元年11月20日～令和元年11月21日									
調査業者名 有限会社林エンジニアリング 059-52-5415										調査者 林 彦文									
調査内容 地質調査										調査方法 標準貫入試験									
ボーリング機 YBM-05										ポンプ BRLL-SP8									
総掘進長 7.43m										試料採取 標準貫入試験									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									

ボーリング柱状図

調査名 井田小学校地質調査業務委託										ボーリングNo. 2									
事業・工事名										シートNo.									
ボーリング名 No.2										調査位置 龜山市みどり町 地内									
発注機関 亀山市教育委員会										調査期間 令和元年11月19日～令和元年11月20日									
調査業者名 有限会社林エンジニアリング 059-52-5415										調査者 林 彦文									
調査内容 地質調査										調査方法 標準貫入試験									
ボーリング機 YBM-05										ポンプ BRLL-SP8									
総掘進長 8.25m										試料採取 標準貫入試験									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									

ボーリング柱状図

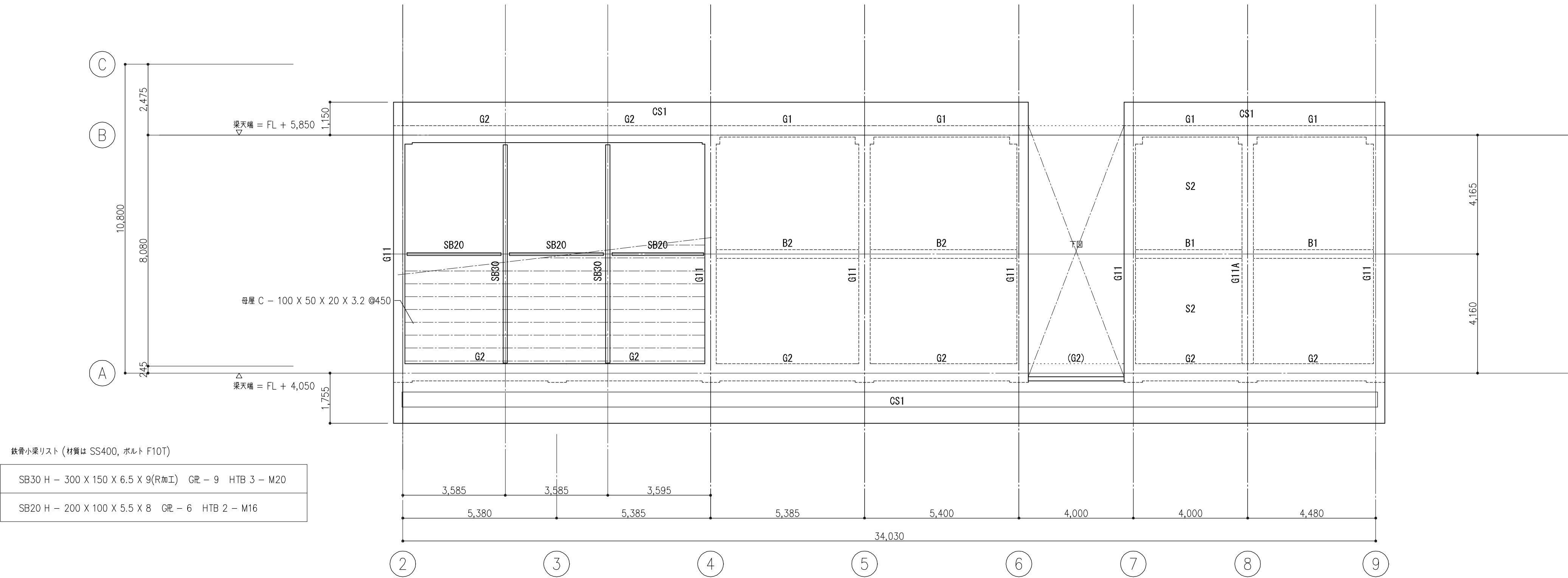
調査名 井田小学校地質調査業務委託										ボーリングNo. 3									
事業・工事名										シートNo.									
ボーリング名 No.3										調査位置 龜山市みどり町 地内									
発注機関 亀山市教育委員会										調査期間 令和元年11月16日～令和元年11月18日									
調査業者名 有限会社林エンジニアリング 059-52-5415										調査者 林 彦文									
調査内容 地質調査										調査方法 標準貫入試験									
ボーリング機 YBM-05										ポンプ BRLL-SP8									
総掘進長 10.33m										試料採取 標準貫入試験									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									

ボーリング柱状図

調査名 井田小学校地質調査業務委託										ボーリングNo. 4									
事業・工事名										シートNo.									
ボーリング名 No.4										調査位置 龜山市みどり町 地内									
発注機関 亀山市教育委員会										調査期間 令和元年11月18日～令和元年11月19日									
調査業者名 有限会社林エンジニアリング 059-52-5415										調査者 林 彦文									
調査内容 地質調査										調査方法 標準貫入試験									
ボーリング機 YBM-05										ポンプ BRLL-SP8									
総掘進長 7.42m										試料採取 標準貫入試験									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									

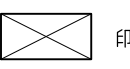
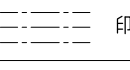
ボーリング柱状図

調査名 井田小学校地質調査業務委託										ボーリングNo. 5									
事業・工事名										シートNo.									
ボーリング名 No.5										調査位置 龜山市みどり町 地内									
発注機関 亀山市教育委員会										調査期間 令和元年11月16日～令和元年11月18日									
調査業者名 有限会社林エンジニアリング 059-52-5415										調査者 林 彦文									
調査内容 地質調査										調査方法 標準貫入試験									
ボーリング機 YBM-05										ポンプ BRLL-SP8									
総掘進長 7.25m										試料採取 標準貫入試験									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									
ボーリング柱状図										ボーリング柱状図									

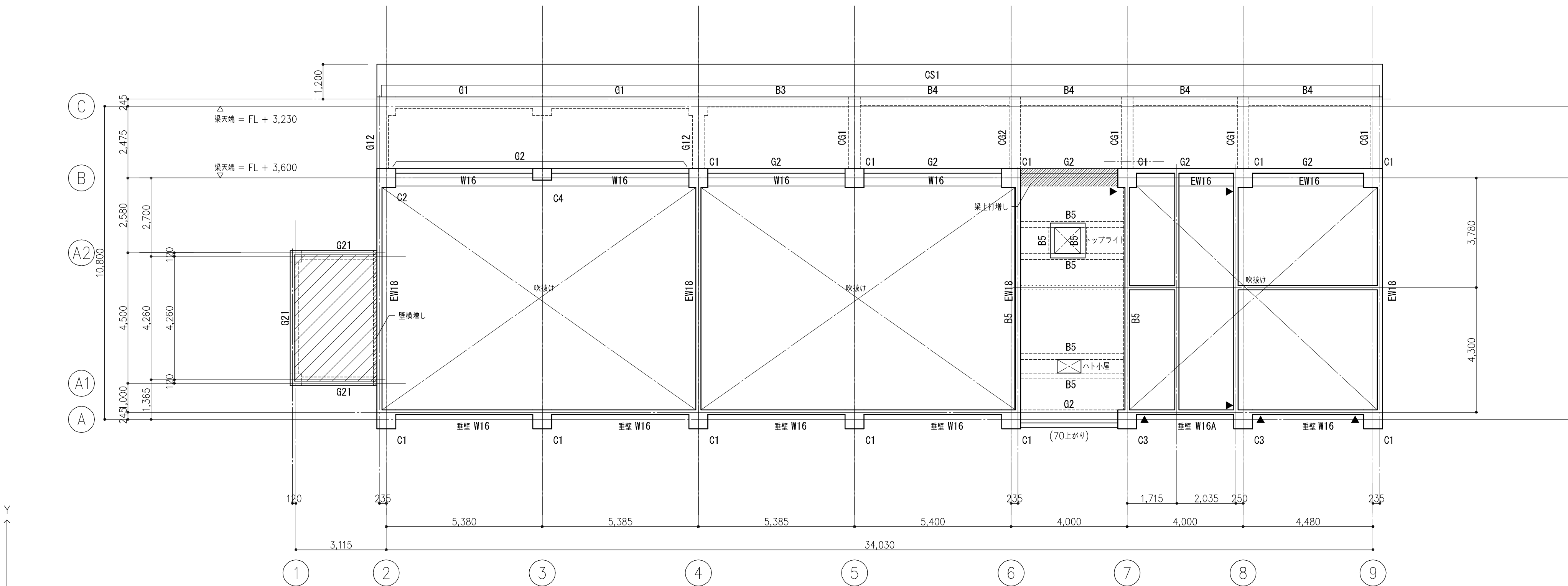


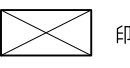
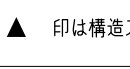
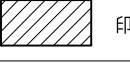
鉄骨小梁リスト (材質は SS400, ボルト F10T)

SB30 H - 300 X 150 X 6.5 X 9(R&L) GR - 9 HTB 3 - M20
SB20 H - 200 X 100 X 5.5 X 8 GR - 6 HTB 2 - M16

特記なき限り下記による	
1.	壁は W15 とする
2.	スラブは S1 とする
3.	 印は床開口部を示す
4.	 印は母屋 C - 100 X 50 X 20 X 3.2 @450 を示す
5.	梁貫通孔は、評定/技術証明書等を取得した開口補強製品に限るものとし、その適用範囲内に基つて配置するものとする
6.	
7.	

屋根伏図 1: 100



特記なき限り下記による	
1.	壁は W15 とする
2.	スラブは S1 とする
3.	 印は床開口部を示す
4.	 印は構造スリット位置を示す
5.	 印はスラブ天端 = FL + 1,450 とする
6.	梁貫通孔は、評定/技術証明書等を取得した開口補強製品に限るものとし、その適用範囲内に基つて配置するものとする
7.	

FL + 3,600レベル梁伏図 1: 100

株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL : 059-226-0199 FAX : 059-226-5115				工事名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
日付 2020. 2. 12				図面名 校舎棟 屋根伏図 FL + 3,600レベル梁伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 C-11

柱 リ ス ト 1 : 50 ※ H00Pは溶接閉鎖型とする (F16Bを除く)

符 号	C1	C2	C3	C4	C5	F16B
断 面						
B × D	650 × 650	650 × 650	650 × 650	650 × 400	400 × 400	500 × 500
主 筋	12 - D19	14 - D19	16 - D19	10 - D19	12 - D19	8 - D19
H O O P	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100	□-D13@150

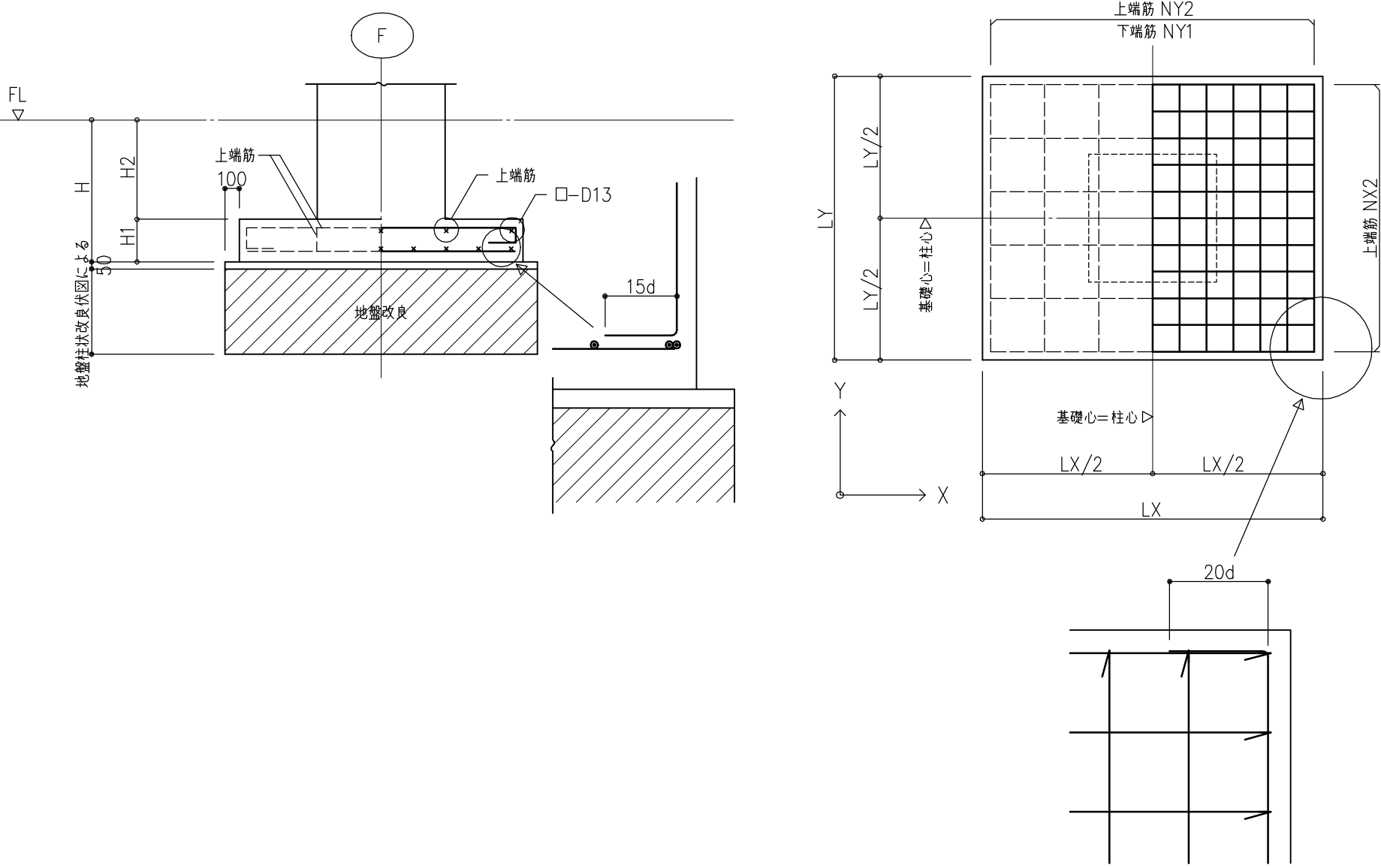
大 梁 リ ス ト 1 : 50 共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000

符 号	G1	G2		G11, G11A	G12	G21		CG1	CG2	
位 置	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	
断 面										
B × D	400 × 700	600 × 700		400 × 600	400 × 600	300 × 600		400 × 700	400 × 700	
上 筋	4 - D22	6 - D22		4 - D22	3 - D22	3 - D22		4 - D22	6 - D22	
下 筋	4 - D22	6 - D22		4(B) - D22	3 - D22	3 - D22		4 - D22	4 - D22	
S T R	□-D13@200	□-D13@150		□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200		□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	2 - D10	2 - D10		2 - D10	2 - D10	2 - D10		2 - D10	2 - D10	

基礎大梁リスト 1 : 50 共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000

符 号	FG1	FG2	FG3	FG11	FG12	FG13	FG14	FG21		FCG1	FCG2	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	A通り端部	中 央	B通り端部	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面												
B × D	400 × 2000	400 × 800	400 × 800	400 × 2000	400 × 900			400 × 800	400 × 1200	350 × 600	400 × 800	400 × 1200
上 筋	3 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D25	4 - D25	4 - D25	5 - D25	5 - D25	3 - D25	3 - D25	5 - D25	3 - D25
下 筋	3 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D25	5 - D25	3 - D25	5 - D25	5 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D19
S T R	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹 筋	6 - D13	2 - D13	2 - D13	6 - D13	2 - D13			2 - D13	4 - D13	2 - D13	2 - D13	4 - D13

基礎 リ ス ト 1 : 50 ※ 長期地耐力=300kN/m2
※ 地盤改良の深さは支持層(N値50以上の固結シルト層)を確認の上決定すること
※ 地盤改良を行わない基礎は砕石地盤(7)150とする



符号	H	H1	H2	LX	LY	上端筋 NX	下端筋 NX	上端筋 NY	下端筋 NY	下端筋レベル
F10	3,200	300	2,900	1,000	1,000	-	6-D13	-	6-D13	NX#F
F12C	1,150	300	850	1,200	1,200	-	7-D13	-	7-D13	NX#F
F14	2,350	300	2,050	1,400	1,400	-	8-D13	-	8-D13	NX#F
F16	2,350	300	2,050	1,600	1,600	-	9-D16	-	9-D16	NX#F
F16B	1,250	300	950	1,600	1,600	-	9-D16	-	9-D16	NX#F
F18	2,350	400	1,950	1,800	1,800	-	10-D16	-	10-D16	NX#F
F18A	1,550	400	1,150	1,800	1,800	-	10-D16	-	10-D16	NX#F
F20	2,350	500	1,850	2,000	2,000	-	11-D16	-	11-D16	NX#F
F20B	1,250	500	750	2,000	2,000	-	11-D16	-	11-D16	NX#F
F20C	1,150	500	650	2,000	2,000	-	11-D16	-	11-D16	NX#F
F22C	1,150	500	650	2,200	2,200	-	12-D16	-	12-D16	NX#F

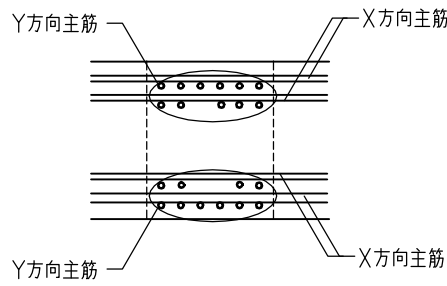
床 版 リ ス ト

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考	符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
			全断面	全断面					全断面	全断面	
S1	150	上 筋	D10,D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋	FS1	180	上 筋	D10,D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下 筋	D10 @200	D10 @200				下 筋	D10 @200	D10 @200	
S2	150	上 筋	D10,D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋			上 筋			
		下 筋	D10 @200	D10 @200				下 筋			
		上 筋						上 筋			
		下 筋						下 筋			
CS1	150	上 筋	D10,D13 @200	D10 @200	片持床版			上 筋			
		下 筋	D10 @200	D10 @200				下 筋			
		上 筋						上 筋			
		下 筋						下 筋			

小 梁 リ ス ト 1 : 50 共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000

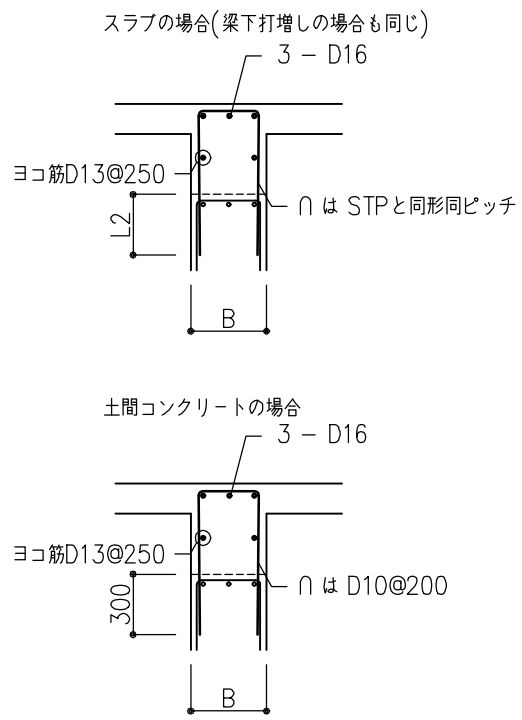
符 号	B1	B2	B3	B4	B5	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面						
B × D	300 × 500	300 × 600	350 × 600	300 × 500	200 × 500	
上 筋	2 - D19	3 - D22	6 - D22	3 - D22	2 - D16	
下 筋	2 - D19	3 - D22	4 - D22	3 - D22	2 - D16	
S T R	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	
腹 筋	-----	2 - D10	2 - D10	-----	-----	

基礎梁主筋の位置関係



主筋の納まりにより位置関係を変更する場合は、
監理者と協議すること。

梁上フカシ補強要領

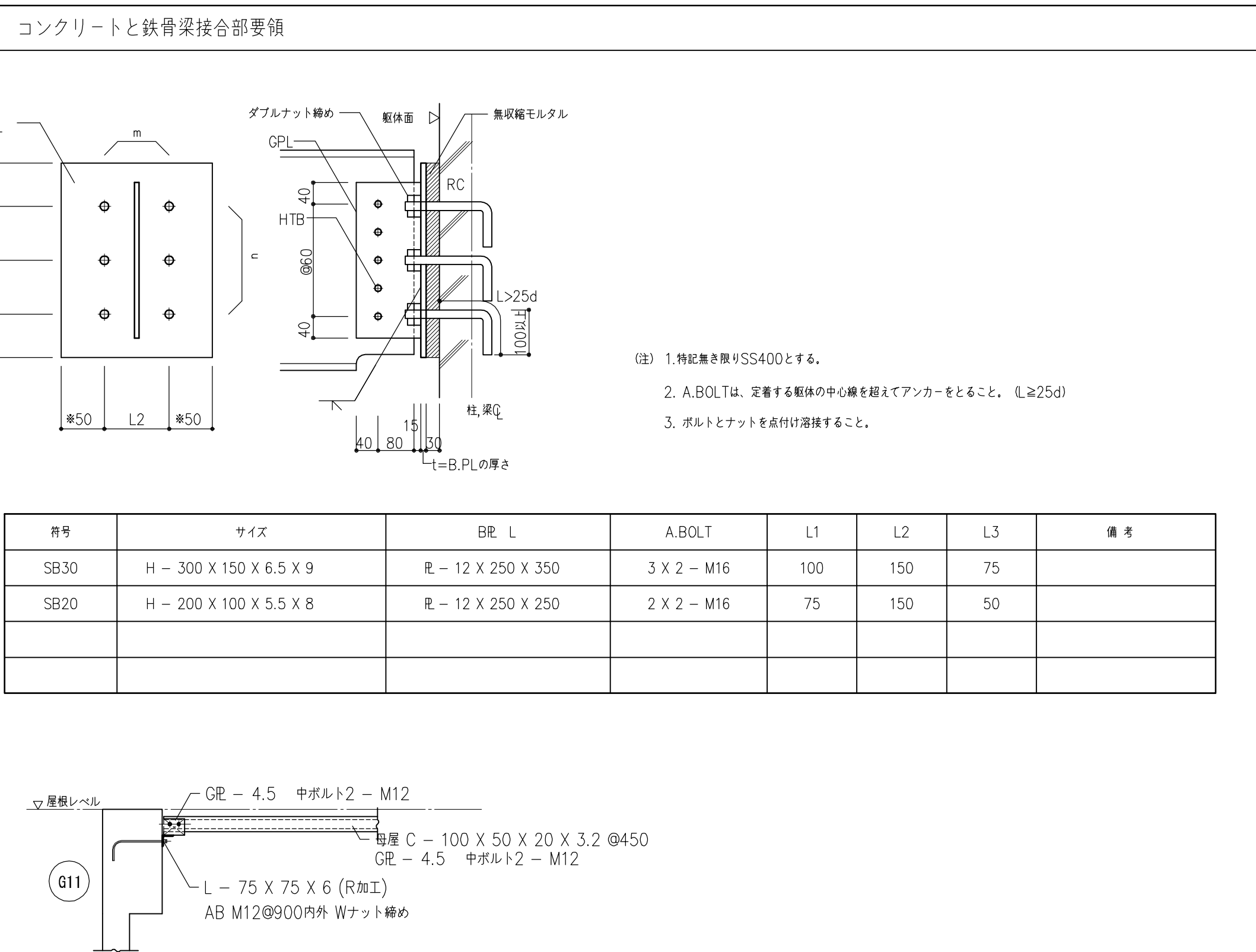
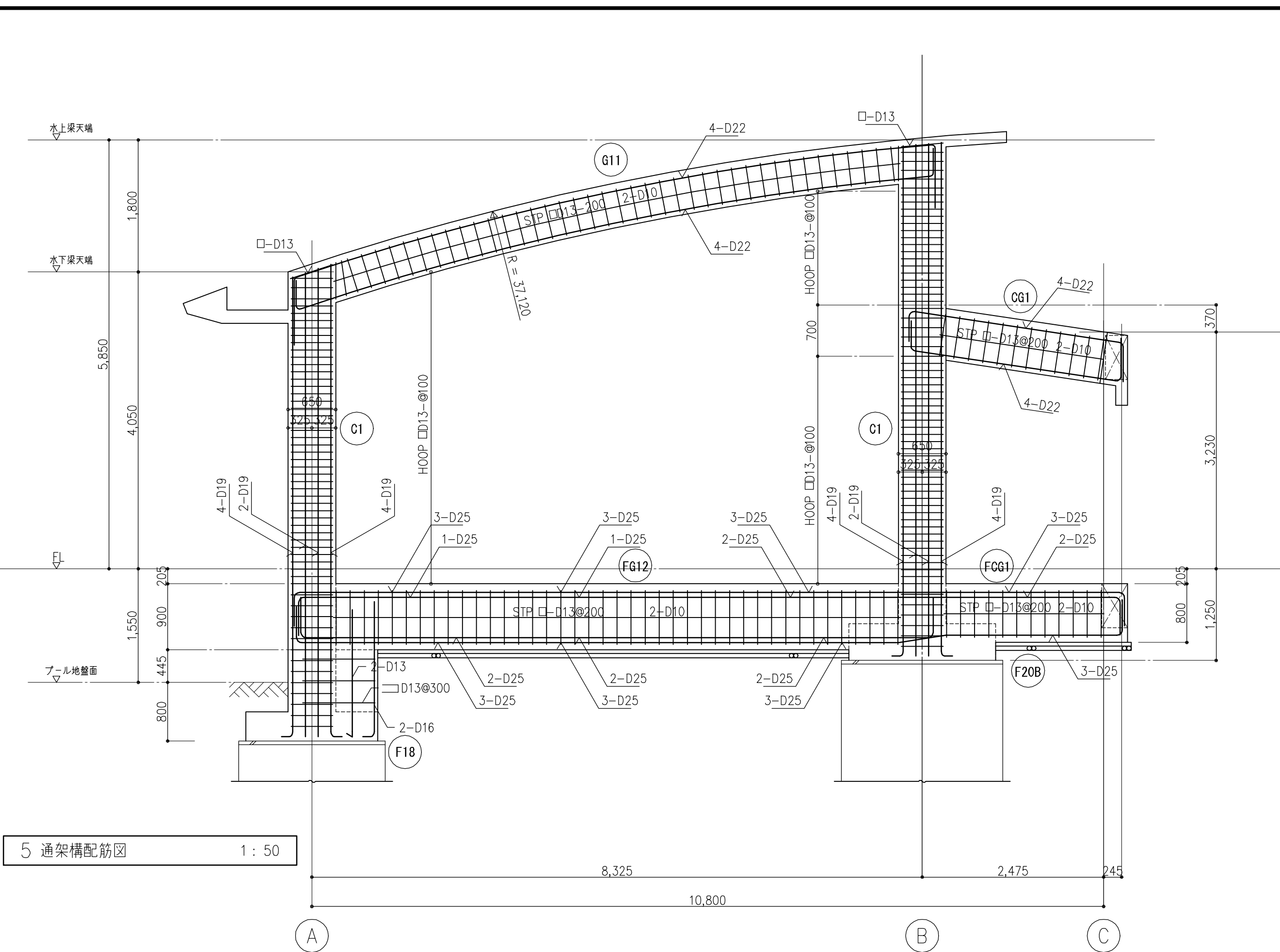


基礎小梁リスト 1 : 50 共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000

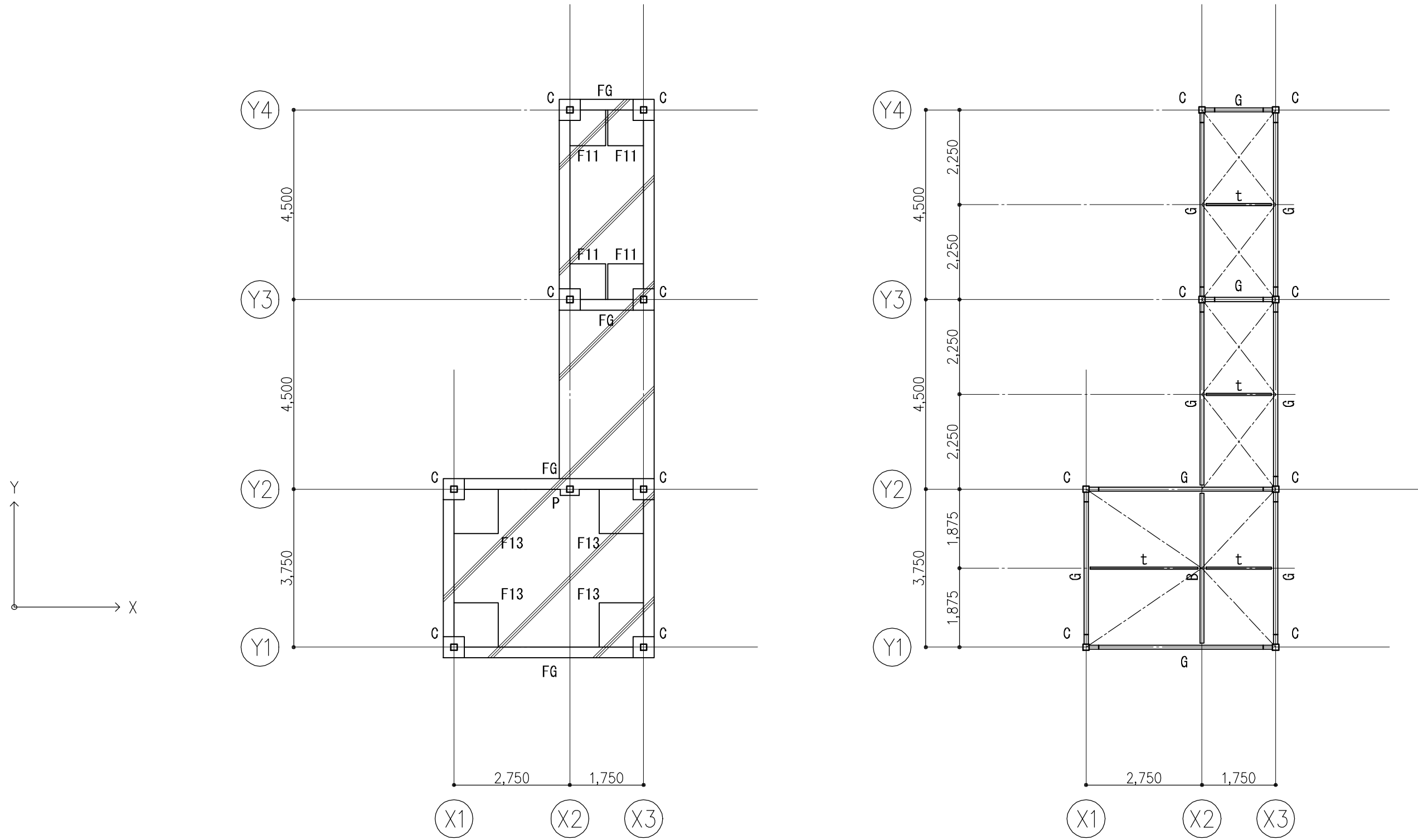
符 号	FB1	FB2	FB3	FB4	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面					
B × D	350 × 600	350 × 600	350 × 600	350 × 600	
上 筋	3 - D19	3 - D22	3 - D22	3 - D19	
下 筋	3 - D19	3 - D22	3 - D22	3 - D19	
S T R	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

壁 リ ス ト 1 : 50 共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000 以内 (ダブル配筋壁のみ)

符 号	EW18, W18	EW16	W16	W15	
壁 厚	180	160	160	150	
断 面					
縦 筋	D13@200 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 シングル	
横 筋	D13@200 ダブル	D10@150 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 シングル	
開口補強筋	縦 筋	4 - D13	2 - D13	2 - D13	1 - D13
	横 筋	4 - D13	2 - D13	2 - D13	1 - D13
	斜め筋	2 - D13	-----	-----	1 - D13



株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL：059-226-0139 FAX：059-226-5115				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公		工事名		設計番号	
						井田川小学校校舎増築等工事			
日付				1級建築士登録番号 317976 太田 武志		図面名		図面番号	
2020.2.12						校舎棟 梁構造筋図・部分詳細図		縮尺 A3:1/50 A3:1/100	
						C-14			

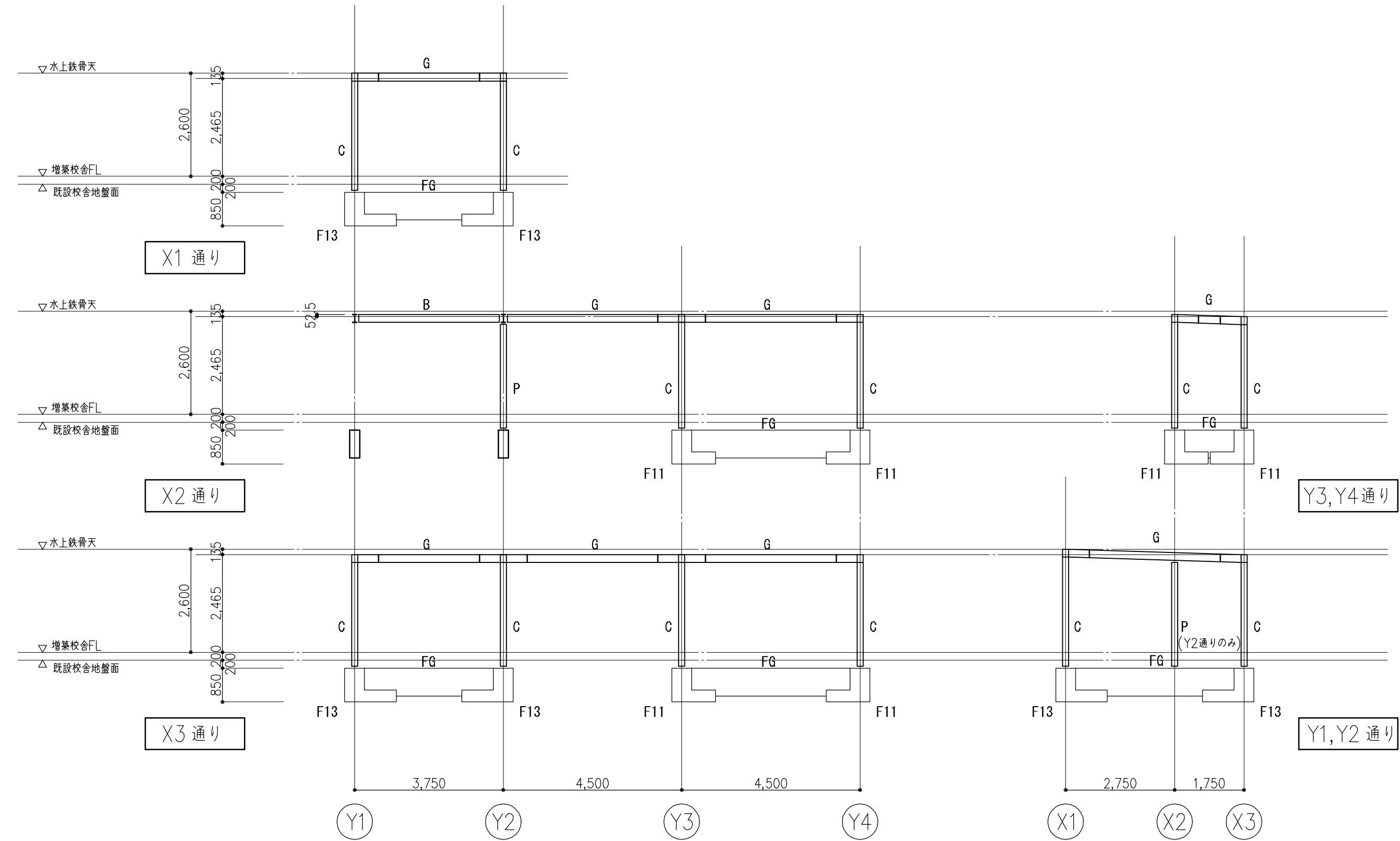


基礎伏図 1: 100

特記なき限り下記による
1. 基礎梁天端 = 増築校舎FL - 400 とする
2. 基礎下端 = 増築校舎FL - 1,250 とする
3. 印は土間コンクリート t=150 D10@200シングルクロスとする
4. 地中貫通筋は、許容/技術証明書等取得した開口補強製品に限るものとし、その適用範囲内に基づいて配置するものとする

小屋伏図 1: 100

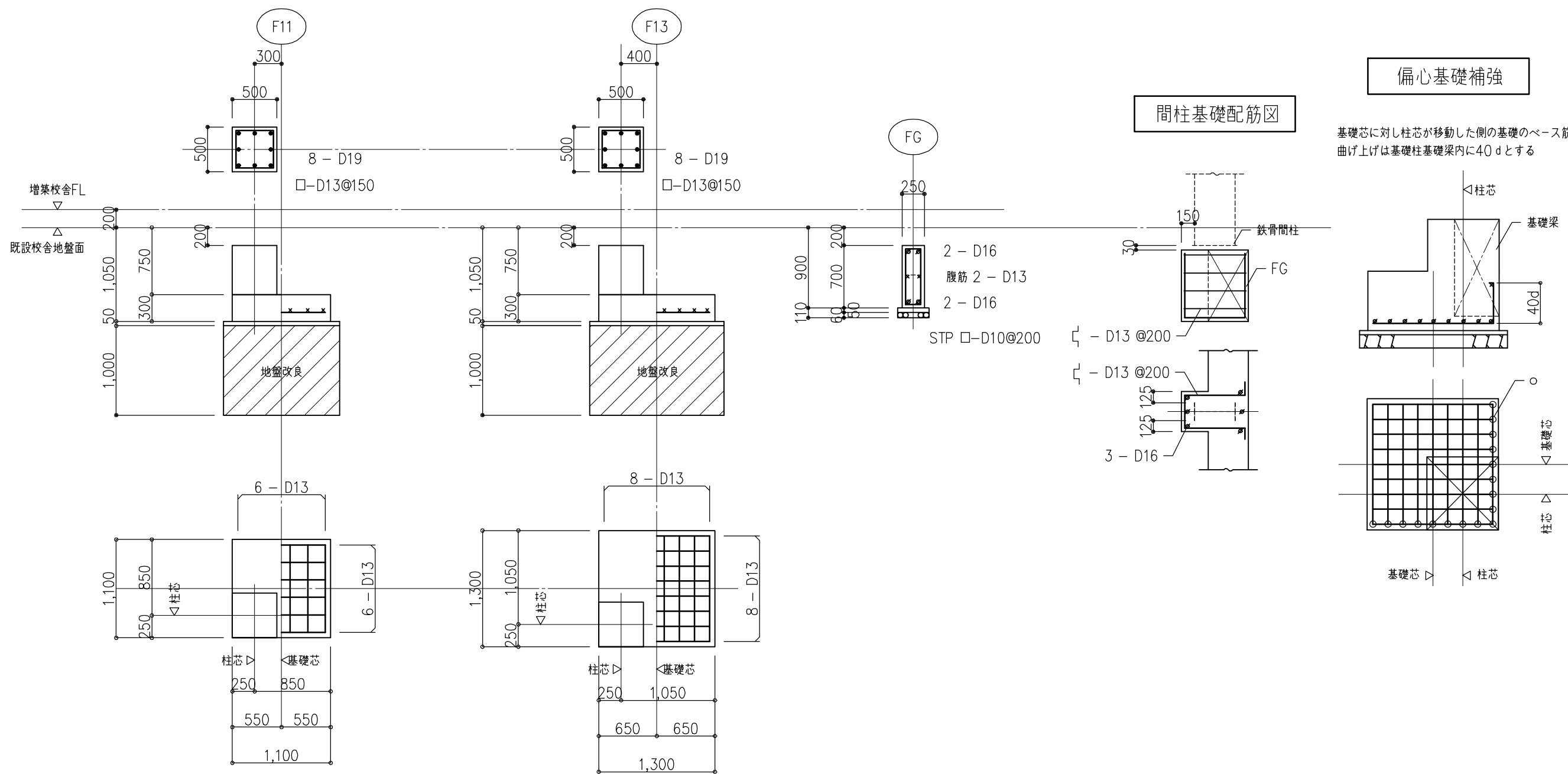
特記なき限り下記による
1. 大梁継手位置は柱芯より 600 とする
2. 印は 屋根プレス HV1 を示す
3. 屋根小梁天端 = 大梁天端 + 50 とし、t 材天端 = 大梁天端とする
4. 折版を受ける小梁は勾配に関わらず垂直に取り付けるものとする
5. BR下端 = 増築校舎FL - 350 とする
6.



軸組図 1: 100

基礎リスト 1: 50

※ 長期地耐力=50kN/m2
※ 基礎下1.0mまで地盤改良とする (セメント系固化材100kg/m³) kg



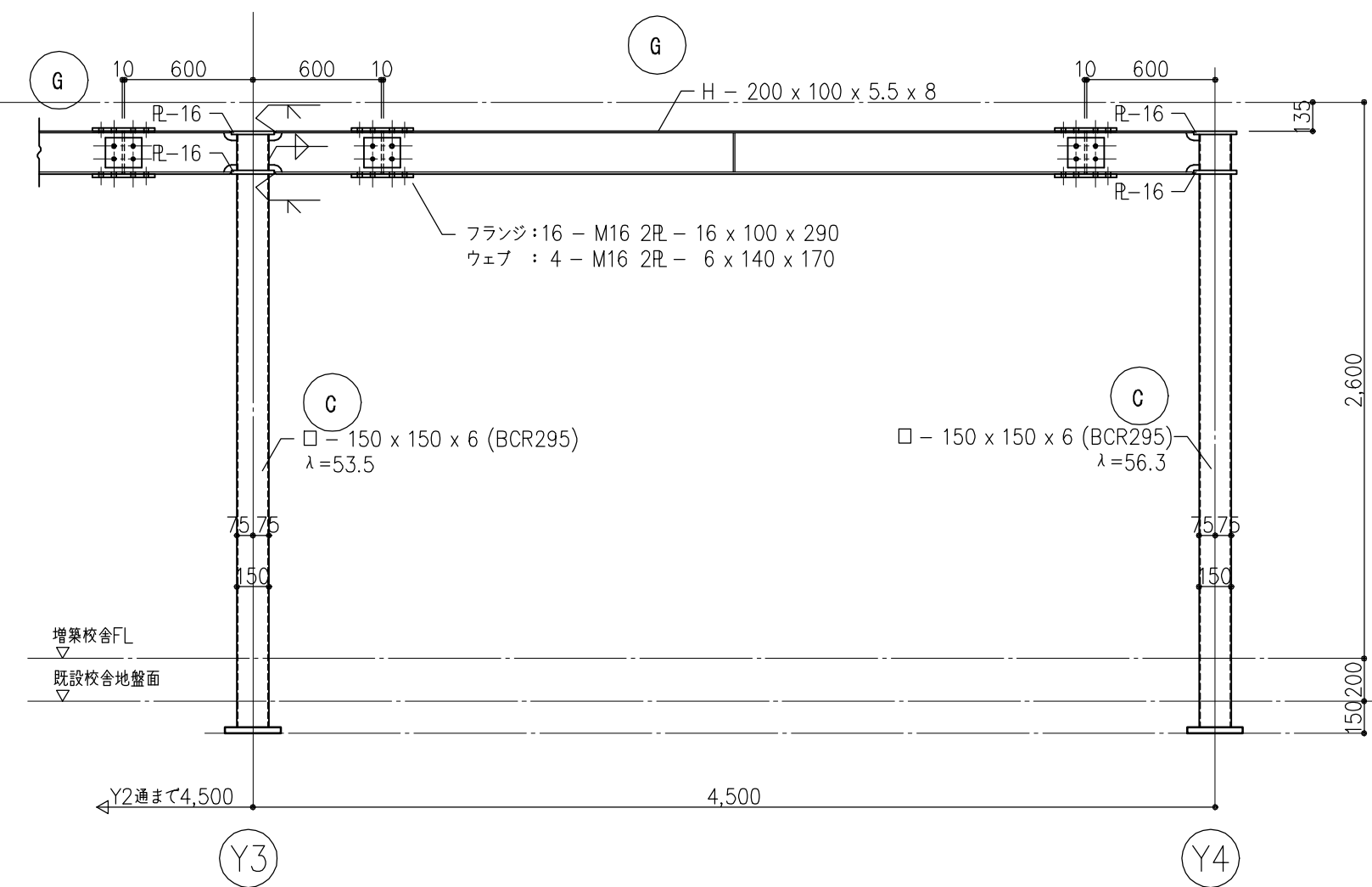
鉄骨部材リスト

共通事項
・材質は特記なき限り SS400 とする。
・高力ボルトは S10T とする。

符 号	主 材	仕 口			備 考・継 手
		TYPE	G R	H T B	
C	□ - 150 x 150 x 6 (BCR295)	-	-	-	柱脚は詳細図参照
P	□ - 150 x 150 x 6 (BCR295)	B	6	2 - M16	BR-12X200X300 AB 2-M16 端部 CT - 122 X 175 X 7 X 11
G	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	-	-	-	端部剛接合 継手は詳細図参照
B	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	A	6	2 - M16	端部剛接合 継手は詳細図参照
t	□ - 100 x 100 x 2.3	B	6	2 - M16	端部 CT - 125 X 125 X 6 X 9
HV1	1 - M12	C	6	1 - M12 (F8T)	ターンバックル締め JIS規格品

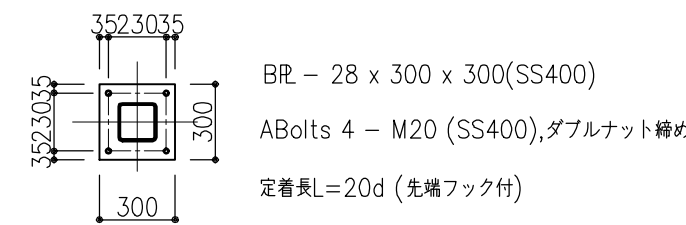
標準図

(A) TYPE	(B) TYPE	(C) TYPE
※ ターンバックル締め		

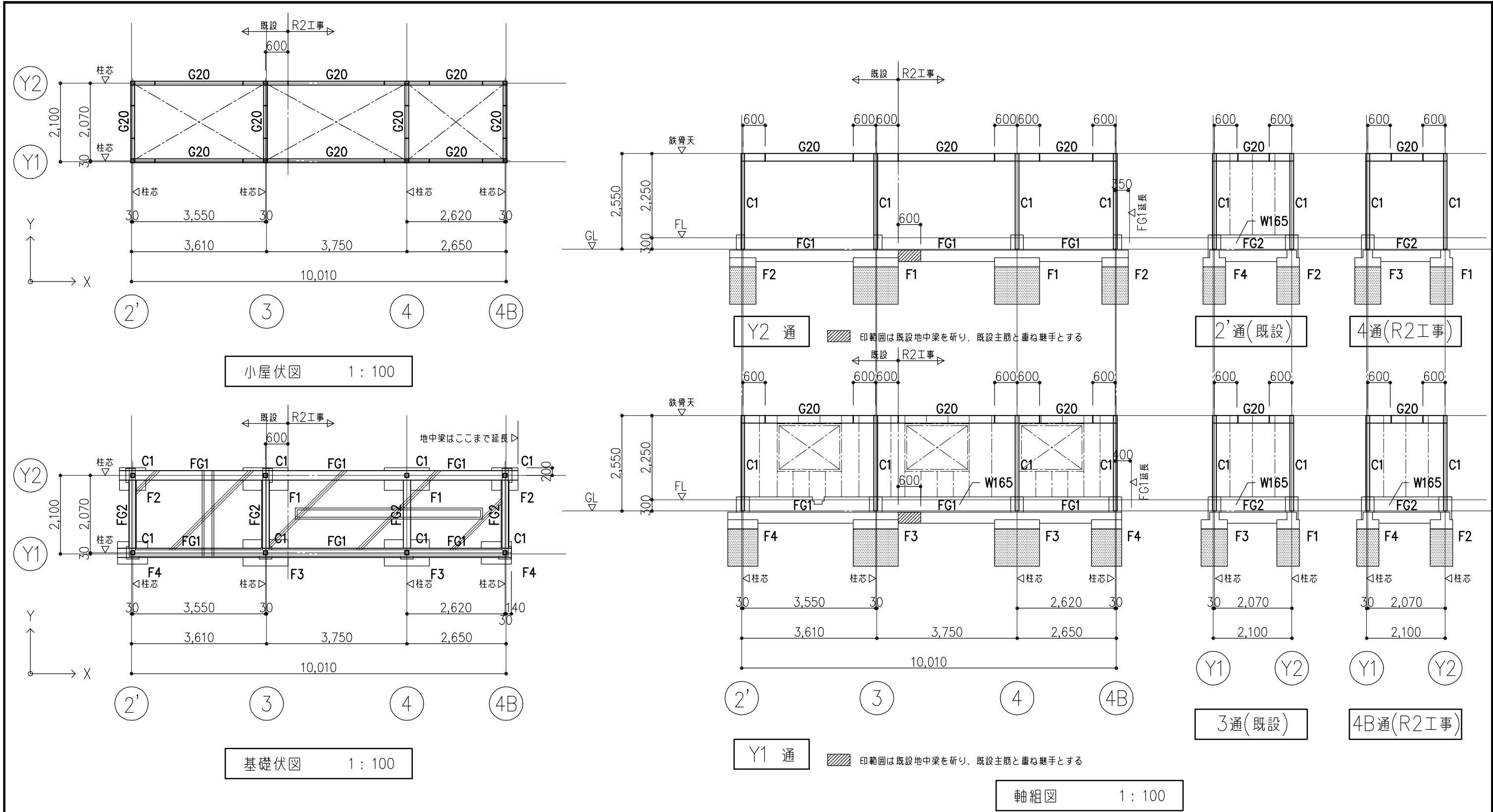


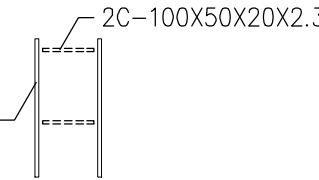
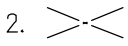
X3 通鉄骨詳細図 1: 30

※ 通しプレートは SN490C とする



株式会社 中部都市建築設計事務所 TEL : 059-226-0139 FAX : 059-226-5115		1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工事名 井田川小学校校舎増築等工事	設計番号
日付 2020.2.12		1級建築士登録番号 317976 太田 武志	図面名 校舎棟 渡り廊下構造図	図面番号 A11/1001/5013 31/2001/1001 G
				C-15

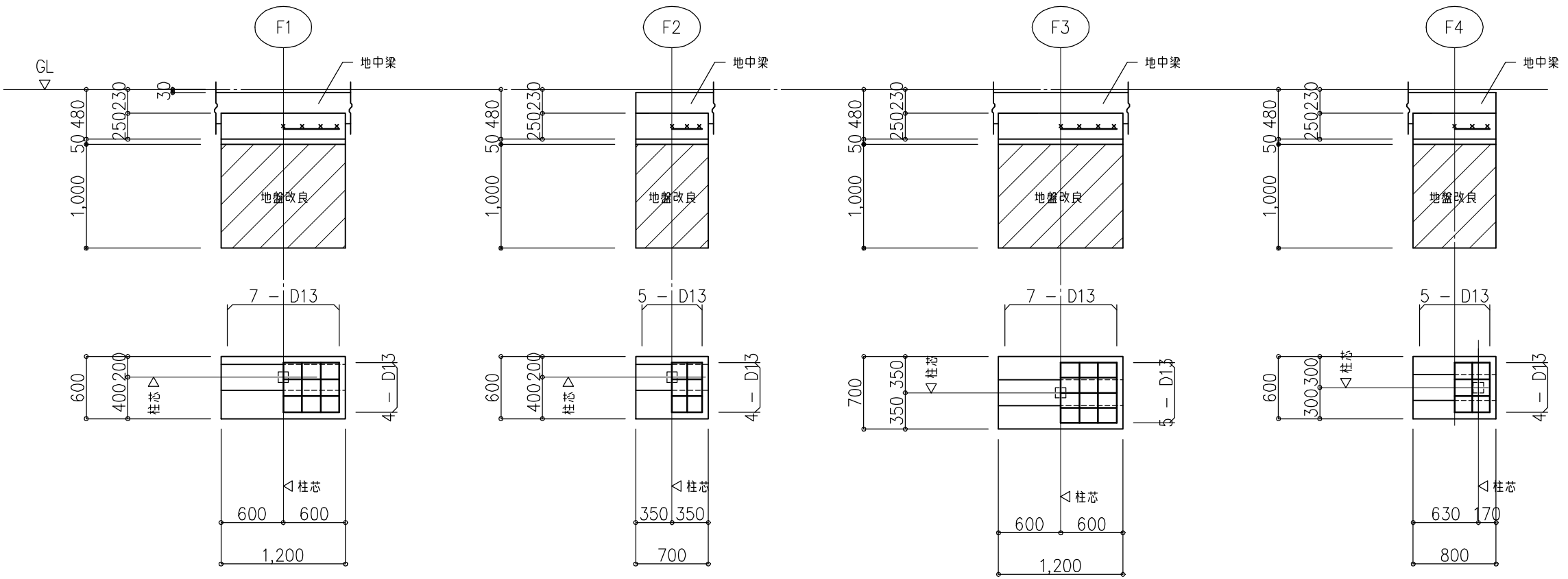


伏図 軸組図 特記事項 特記無き限り下記による	5. 基礎下端=GL-480 とする	10. 開口部補強材は下記とする 特記外は下図とする  2C-100X50X20X2.3 2C-100X50X20X2.3 接合部はすべて GPL- 4.5 2 - M12(中ボルト)
1. 大梁継手位置は柱芯より 600 とする	6.  印は土間コンクリート t=120 とする ワイヤーメッシュ6φ-@200	
2.  印は 屋根ブレース HV1 を示す	7.  印は 立上り壁 t=165 を示す	
3. BR下端=GL±0 とする	8.  印は 地盤改良 を示す	
4. 基礎梁天端=GL-30 とする	9.  印は たて胴縁 を示す	

株式会社 中部都市建築設計事務所				1級建築士登録番号 143379 伊藤 公	工事名 井田川小学校校舎増築等工事		設計番号
目付 2020.2.12				TEL: 059-226-2139 FAX: 059-226-5115	図面名 給食棟ワゴンフル 伏図・軸組図	縮尺 A3: 1/100	図面番号 C-16

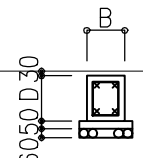
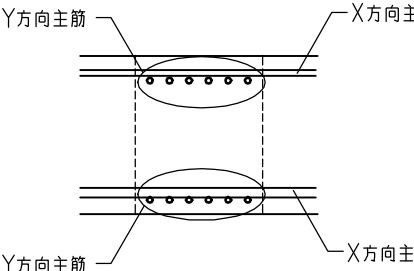
基礎リスト 1 : 50

※ 長期地耐力=50kN/m2
※  印は地盤改良を示す。セメント系固化材 100kg/m3 とする。

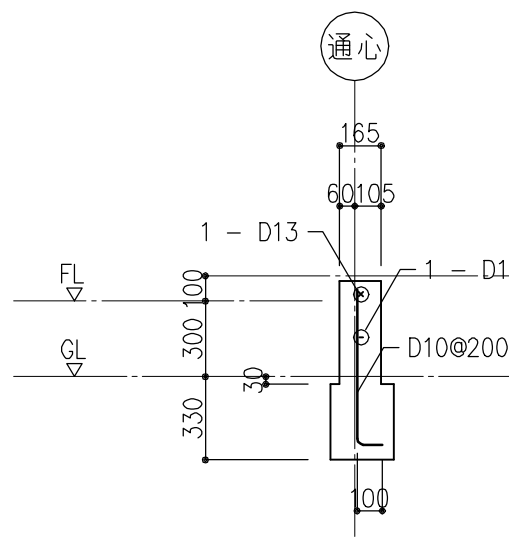


地中梁リスト 1 : 50

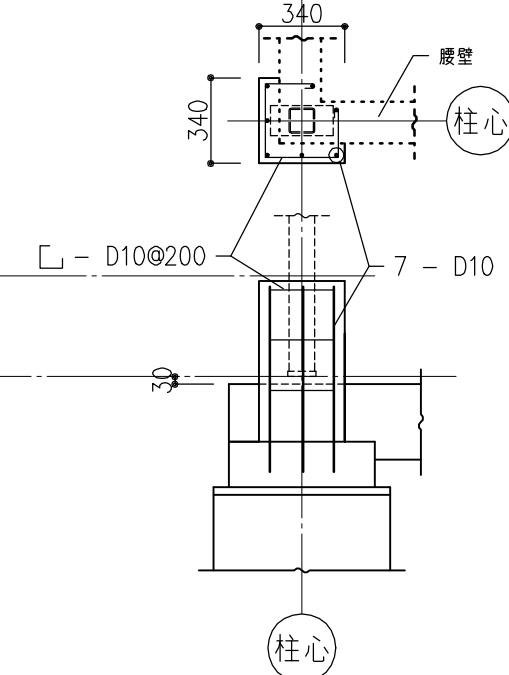
共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1,000

符 号	FG1, FCG1	FG2		梁主筋の位置関係について
位 置	全 断 面	全 断 面		
断 面				
B × D	250 × 300	200 × 300		主筋の納まりにより位置関係を変更する場合は、 監理者と協議すること。
上 筋	2 - D13	1 - D13		
下 筋	2 - D13	1 - D13		
S T R	□-D10@150	1-D10@150		
腹 筋	-----	-----		

腰壁配筋図 1 : 30

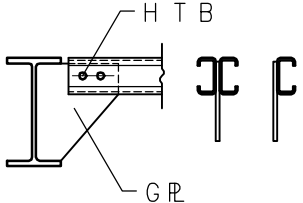
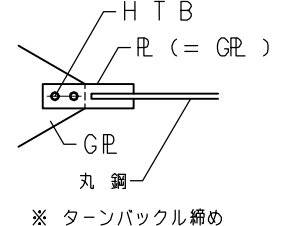


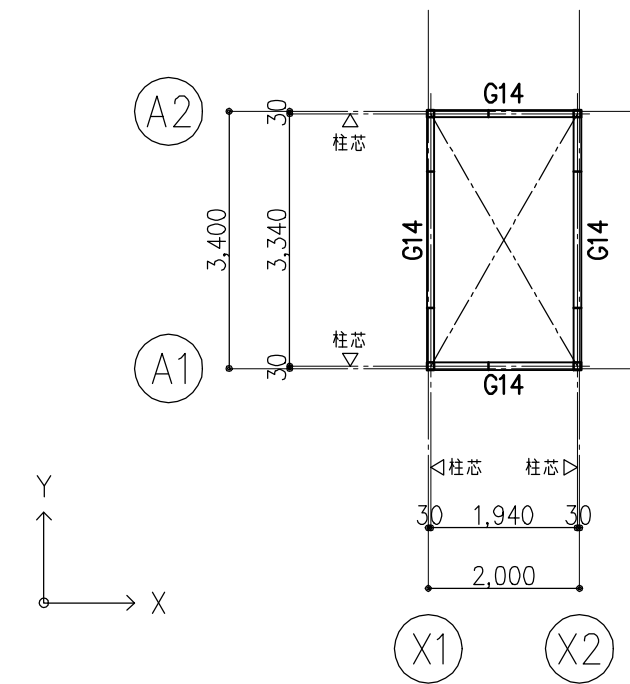
柱脚防錆用根巻き要領図



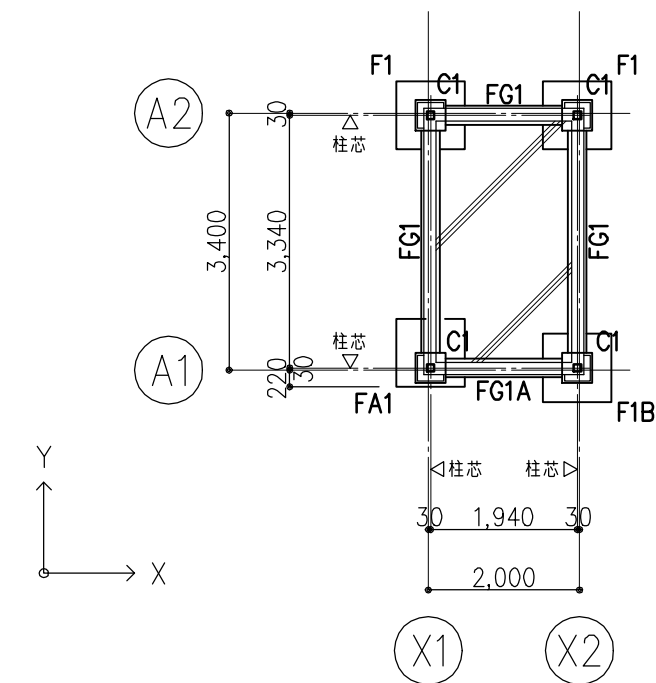
鉄骨部材リスト

共通事項 ・ 材質は特記なき限り SS400 とする。 ・ 通しプレートの板厚は取合うフランジ厚の2サイズアップとし SN490C とする。 ・ 高力ボルトは S10T とする。

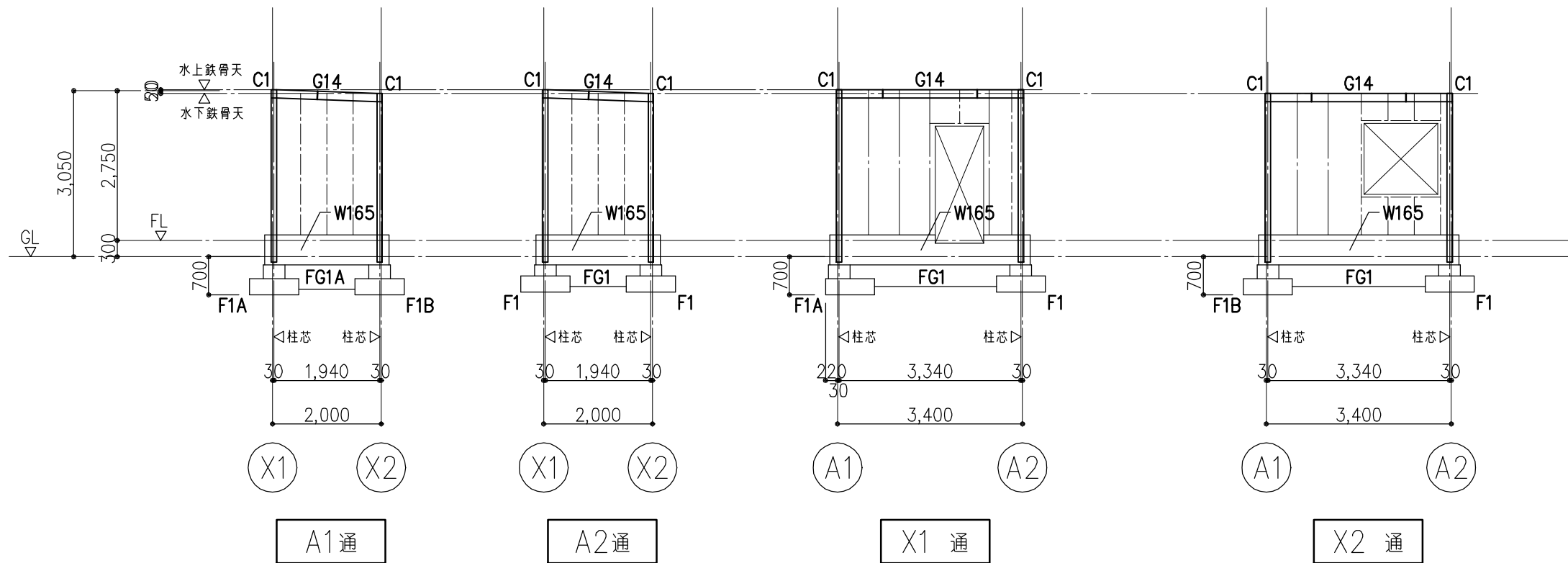
符 号	主 材	仕 口			備 考 ・ 継 手	標 準 図	
		TYPE	G R	H T B		Ⓐ T Y P E	Ⓓ T Y P E
C1	□ - 100 × 100 × 4.5	-	-	-	STKR400 柱脚は詳細図参照		
G20, CG20	H - 200 × 100 × 5.5 × 8	-	-	-	端部剛接合 継手は詳細図参照		
HV1	1 - M12	D	6	1 - M12	ターンバックル締め JIS規格品		
タテ胴縁	C - 100 × 50 × 20 × 2.3	A	4.5	2 - M12 (中ボルト)	SSC400 @606		



小屋伏図 1 : 100

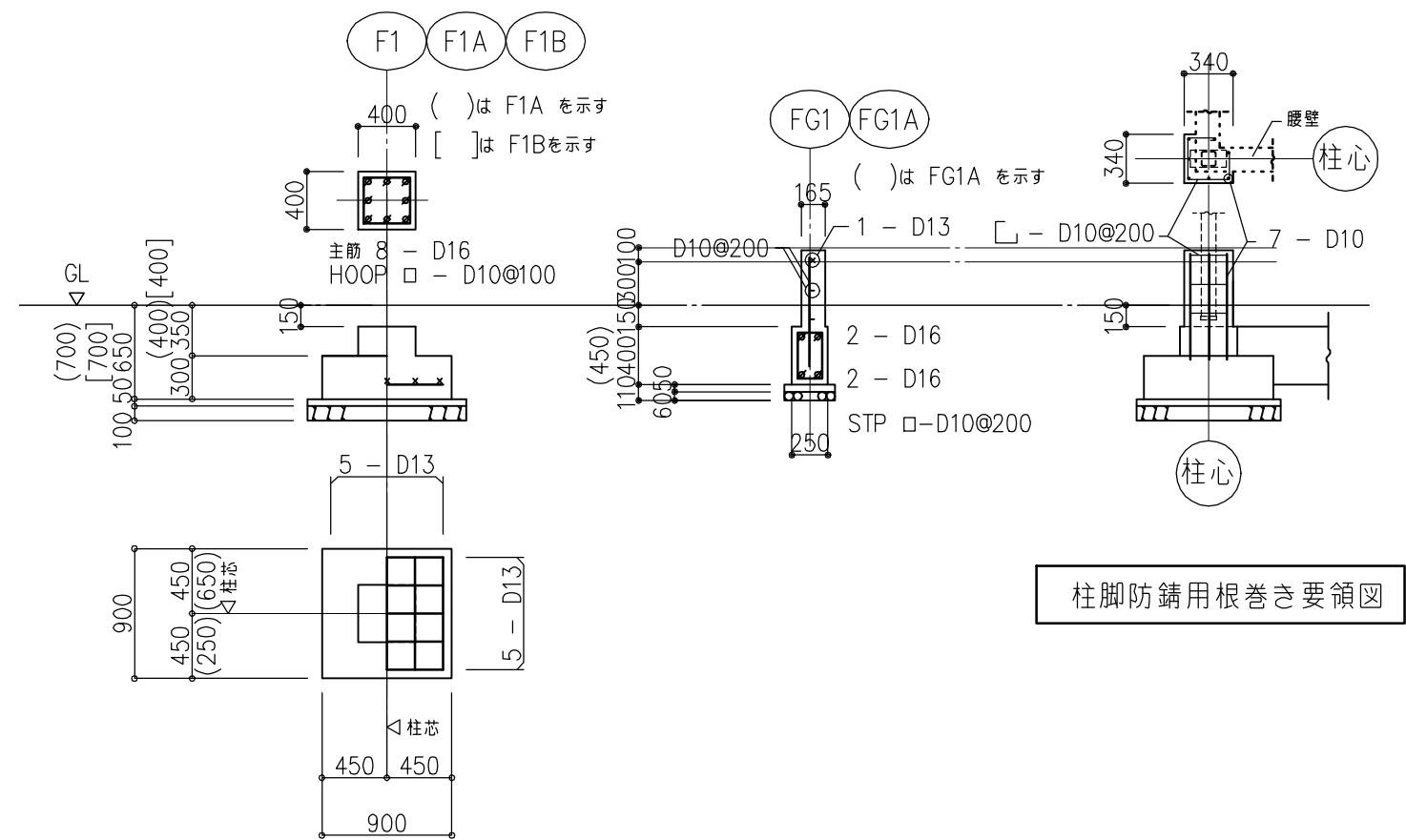


基礎伏図 1 : 100

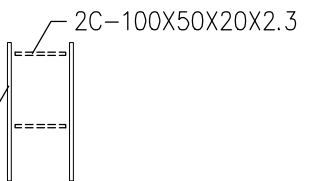


軸組図 1 : 100

基礎リスト 1 : 50



柱脚防錆用根巻き要領図

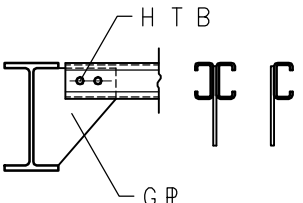
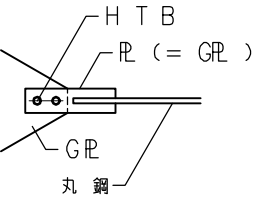
伏図 軸組図 特記事項 特記無き限り下記による
1. 大梁継手位置は柱芯より 800 とする
2. >-< 印は 屋根ブレース HV1 を示す
3. BR下端=GL-100 とする
4. 基礎梁天端=GL-150 とする
5. 基礎下端=GL-650 とする
6.  印は土間コンクリート t=120 とする ワイヤーメッシュφ6@200
7.  印は 立上り壁 t=165 を示す
8.  印は たて胴縁 を示す
9. 開口部補強材は下記とする 特記外は下図とする  2C-100X50X20X2.3 接合部はすべて GPL- 4.5 2 - M12(中ボルト)

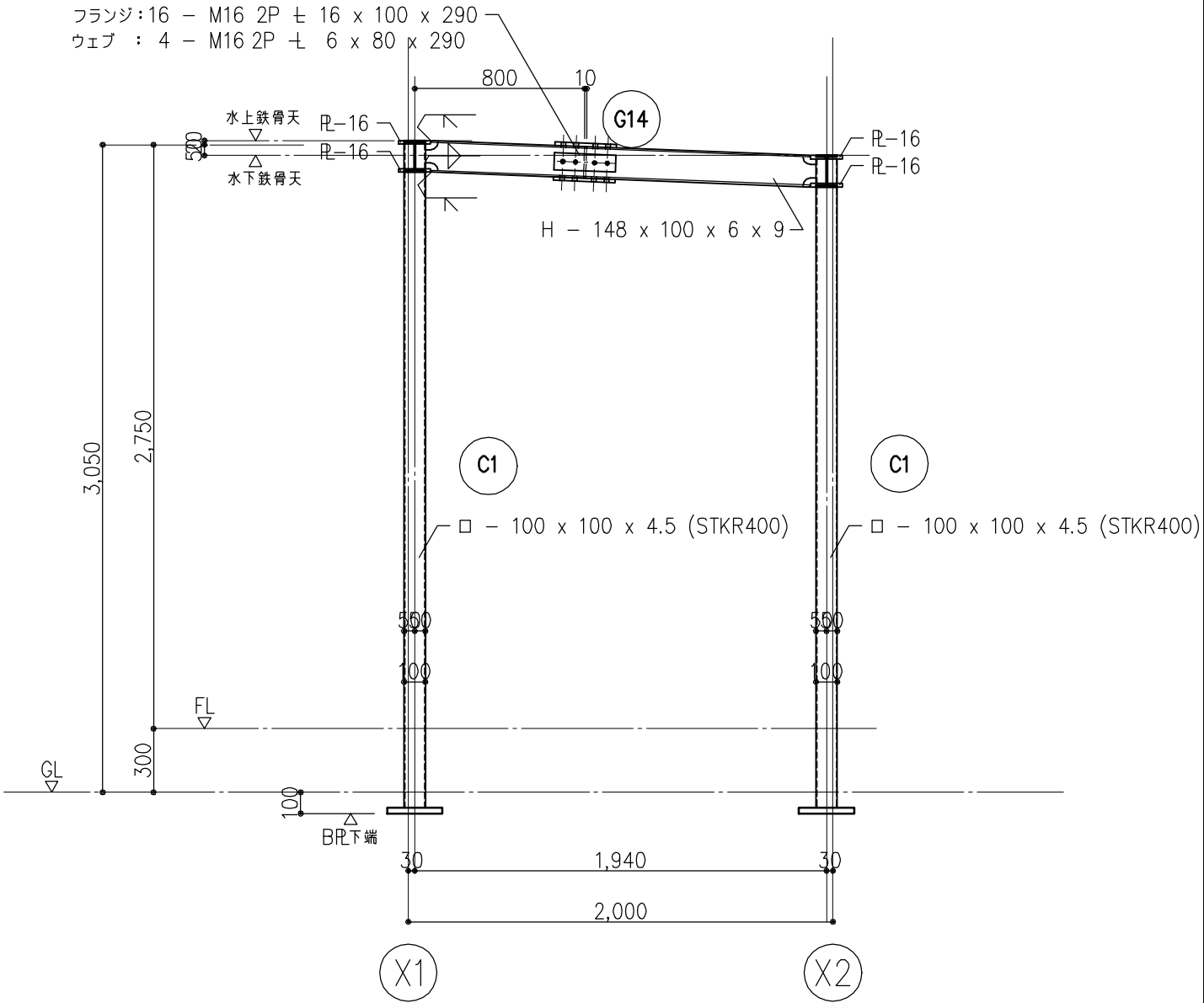
鉄骨部材リスト

共通事項
・ 材質は特記なき限り SS400 とする。・ 高力ボルトは S10T とする。
・ 通しプレートの板厚は取合うフランジ厚の2サイズアップとし SN490C とする。

符 号	主 材	仕 口			備 考 ・ 継 手
		TYPE	G R	H T B	
C1	□ - 100 × 100 × 4.5	-	-	-	STKR400 柱脚は詳細図参照
G14	H - 148 × 100 × 6 × 9	-	-	-	端部剛接合 継手は詳細図参照
HV1	1 - M12	D	6	1 - M12	ターンバックル締め JIS規格品
タテ胴縁	C - 100 × 50 × 20 × 2.3	A	4.5	2 - M12 (中ボルト)	SSC400 @606

標 準 図

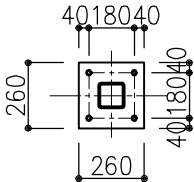
(A) TYPE	(D) TYPE	
		
	※ ターンバックル締め	



A1通鉄骨詳細図 1 : 30

特記事項

- 鋼材は特記なき限り SS400 とする
- 通しダイヤフラムは SN490C とする
- 通しプレートの板厚は取合うフランジ厚の2サイズアップ以上とする
- HTBは特記なき限り S10TもしくはF10T とする



BPL- 22 x 260 x 160

ABolts 4 - M16 (SS400),ダブルナット締め

定着長L=20d (先端フック付)